

令和2年度生涯学習・社会教育総合調査研究事業

家庭教育支援の充実のための実態等把握調査 報告書

令和3年3月
青森県教育委員会

はじめに

近年、家族構成の変化や地域における人間関係の希薄化などにより、家庭教育を取り巻く環境は大きく変化しており、親が身近な人から子育てについて学んだり助け合ったりする機会が減少するなど、家庭教育を行うことが困難な社会になっているという指摘があります。また、このような変化は、いじめや不登校、ニート、ひきこもり、虐待等、子どもや若者をめぐる問題にも影響を及ぼしています。

こうしたことから、県教育委員会では、保護者向け学習プログラムの作成や、各地域で子育てを応援する家庭教育支援者の育成、関係者のネットワーク形成等に取り組んでいるところですが、今後も、よりきめ細やかな家庭教育支援の取組を通して、社会全体で家庭教育を支える体制を充実させていく必要があります。

このため、県教育委員会では、家庭教育に関する保護者の意識や支援の状況等を把握し、新しい社会に対応した家庭教育支援の充実に役立てる資料とすることを目的として、小学校5年生及び中学校2年生の保護者を対象に本調査を実施しました。本調査では、子どもとふれあう時間、子育てに関する悩みや不安、希望する支援や情報、大切だと思う学習内容など、家庭教育に関する保護者の意識について、様々な角度から質問を設け、研究を行いました。

本調査の研究結果は、本県の家庭教育支援の在り方についての検討等に生かしていくとともに、県内各市町村においても、家庭教育支援に係る施策や事業構築に活用されることを期待します。

最後に、本調査に御回答いただいた保護者の皆様に心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

令和3年3月

青森県教育庁

生涯学習課長 葛西浩一

目 次

第 1 章	調査の概要	1
1	調査の名称	
2	調査の趣旨	
3	調査対象	
4	調査方法	
5	回収結果	
6	研究顧問	
第 2 章	調査の結果	2
1	調査結果の見方	2
2	調査回答者の属性	2
3	親子のふれあいについて	6
4	子育ての状況について	14
5	家庭教育（子育て）について	27
第 3 章	考察	55
I	青森県における子育て及び子育て負担感の状況	55
II	青森県における家庭教育（子育て支援）の状況と課題	59
第 4 章	資料	69
○	調査結果単純集計表	69
○	調査票	102

第1章 調査の概要

1 調査の名称

家庭教育支援の充実のための実態等把握調査

2 調査の趣旨

本調査は、家庭教育に関する保護者の意識や支援の状況等を把握し、新しい社会に対応した家庭教育支援の充実のための施策の企画立案に資することを目的とする。

3 調査対象

- ・ 県内在住の小学校5年生の保護者 2,033人
- ・ 県内在住の中学校2年生の保護者 2,078人

4 調査方法

調査対象の母集団から、無作為に抽出した学校へ調査票を送付し、直接記入された調査票を同封の返信用封筒により、無記名で回収した。なお、調査票の印刷・発送・回収、調査結果の集計業務は、業者委託により実施した。

- ・ 調査業務委託先 株式会社サンブラッソ・エイティープイ
- ・ 調査票の発送 令和3年1月9日
- ・ 回答期限 令和3年1月22日

※調査票については、下記からダウンロードすることができます。

https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/aomorimanabi-e_shogai.html

5 回収結果

- ・ 小学校5年生の保護者対象
有効回答数(率) : 1,939 (95.4%) 無効回答数 : 0
- ・ 中学校2年生の保護者対象
有効回答数(率) : 1,922 (92.5%) 無効回答数 : 0

6 研究顧問

- ・ 深作 拓郎 氏 (弘前大学教育学部 講師)
- ・ 高橋 多恵子 氏 (青森明の星短期大学 准教授)

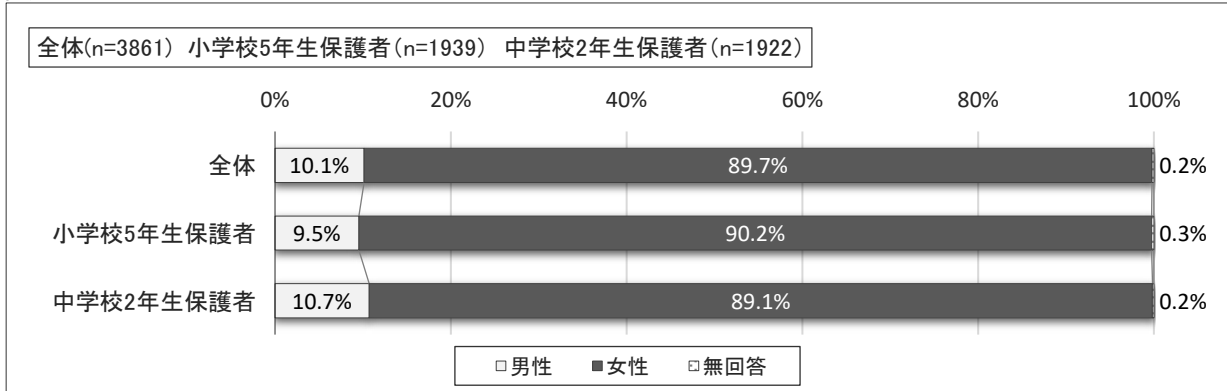
第2章 調査の結果

1 調査結果の見方

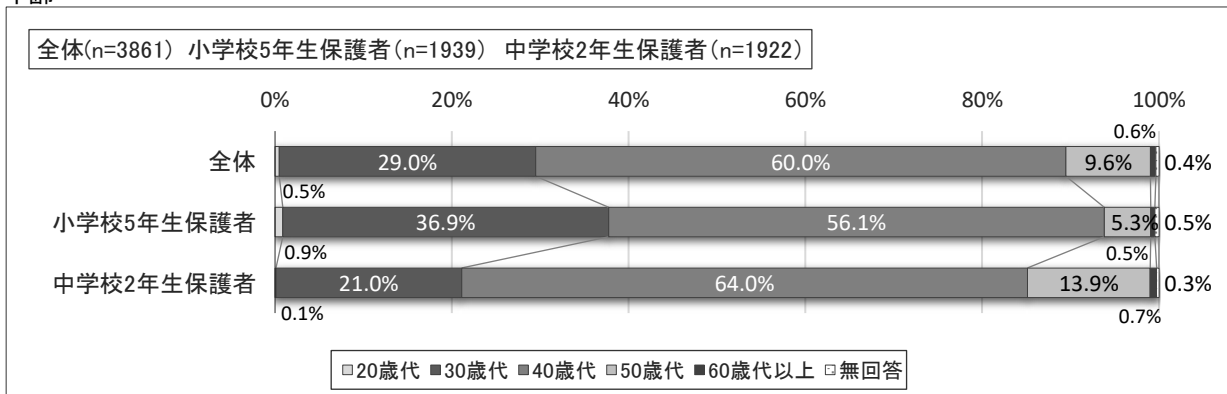
- ・グラフの中の「n=」は、質問に対する回答者数を表している。
- ・結果数値(パーセント)は、小数点第2位を四捨五入しており、合計が100%にならないこともある。

2 調査回答者の属性

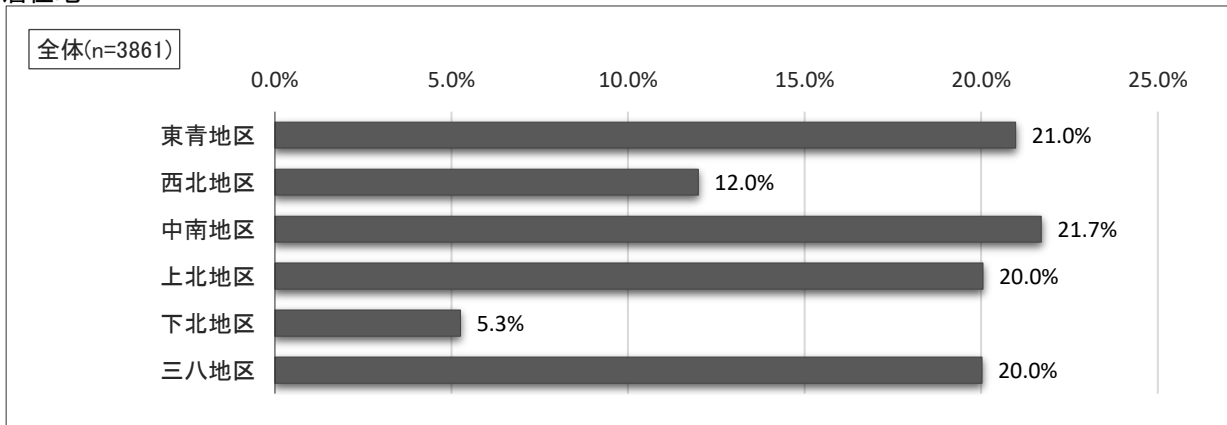
問1 性別



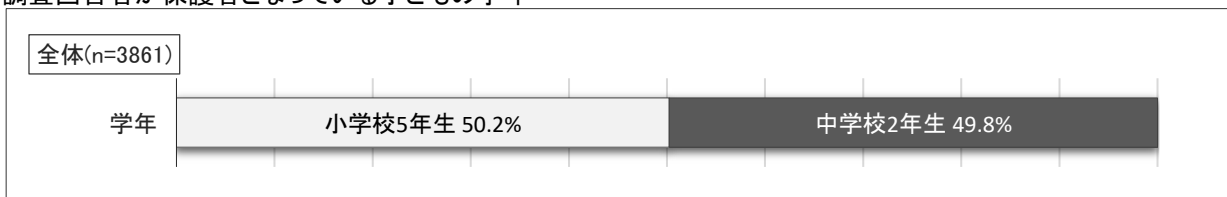
問2 年齢



問3 居住地

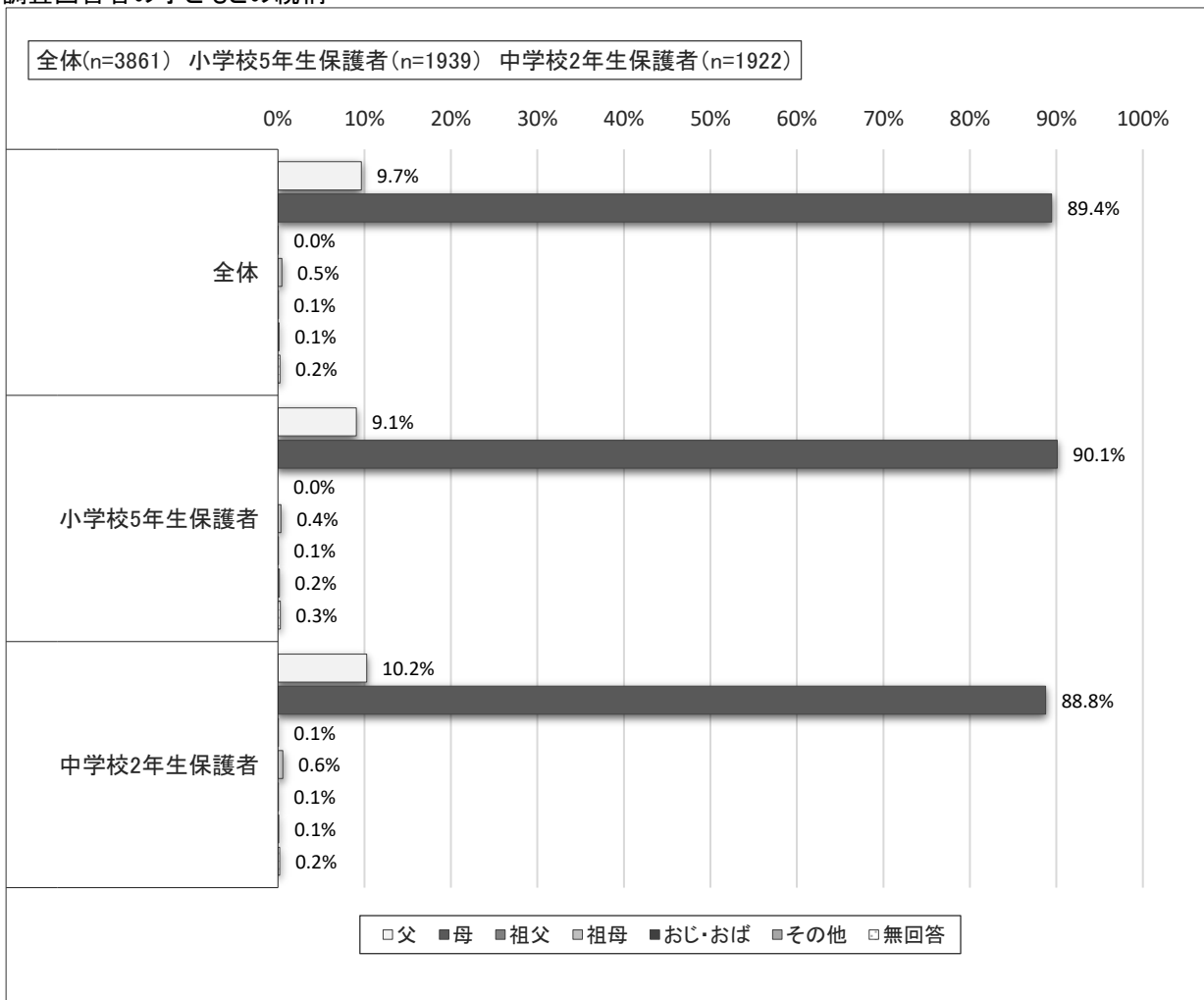


問4 調査回答者が保護者となっている子どもの学年



有効回答数は、小学校5年生保護者1,939人、中学校2年生保護者1,922人であり、男性は10.1%、女性は89.7%で、小学校5年生保護者のうち30歳代から40歳代は93.0%、中学校2年生保護者のうち30歳代から40歳代は85.0%であった。

問5 調査回答者の子どもとの続柄



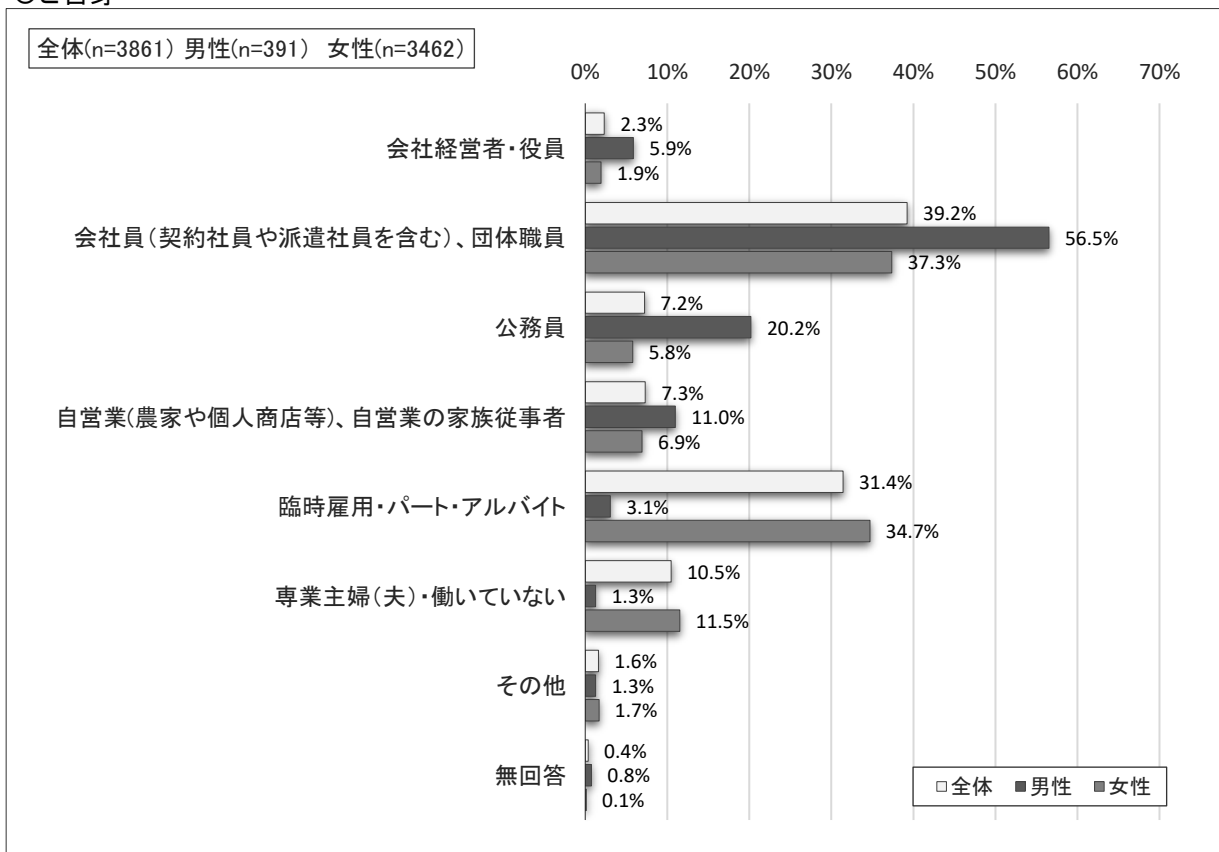
その他

- 養母(2件) ● 施設保育士担当職員 ● 姉

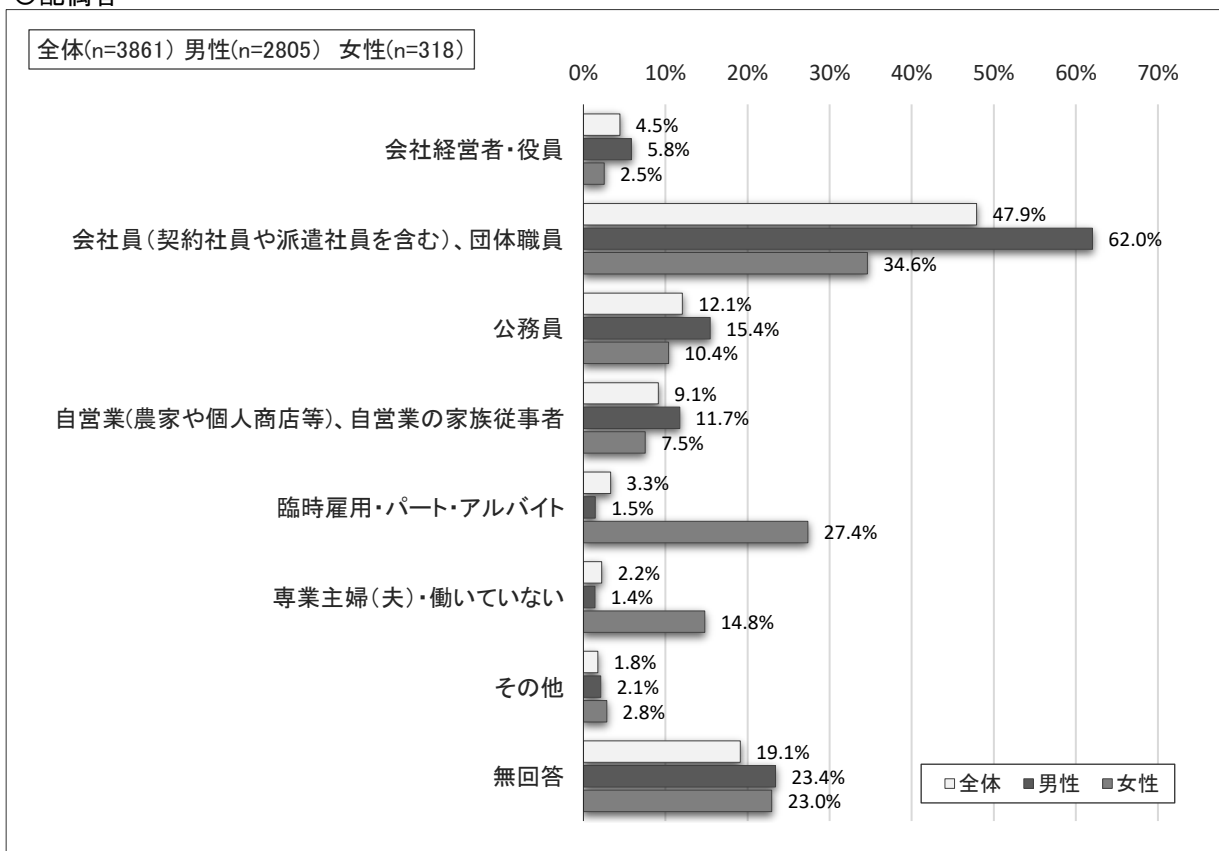
有効回答者の小学校5年生保護者は父親9.1%、母親90.1%、祖父母やおじ・おばなど0.7%、中学校2年生保護者は父親10.2%、母親88.8%、祖父母やおじ・おばなど0.9%であった。

問6 現在の職業

○ご自身



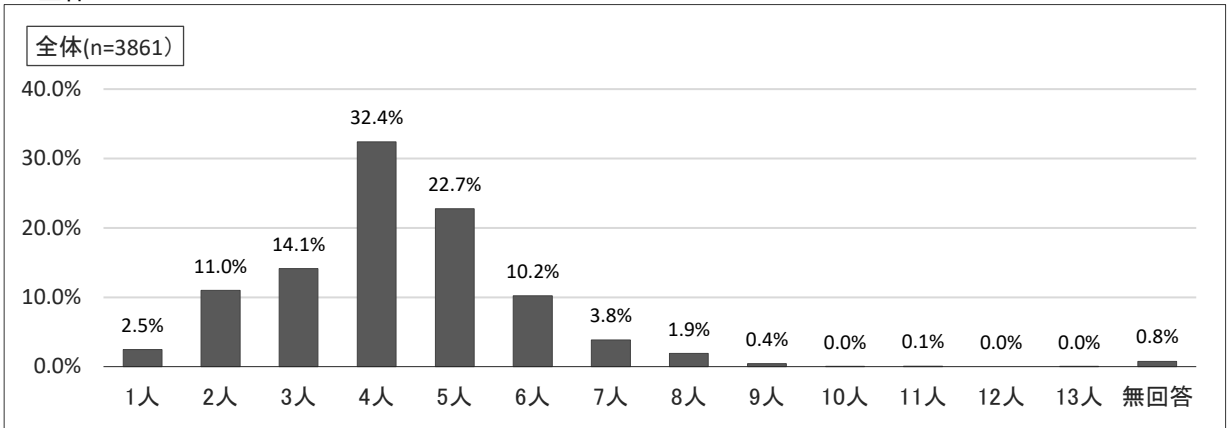
○配偶者



ご自身をうかがった回答では、主に女性が対象となっている。会社員や公務員など常勤の仕事を持っている女性が51.9%、臨時雇用・パート・アルバイトが34.7%、そして専業主婦(夫)・働いていないが11.5%であった。配偶者をうかがった回答では、主に男性が対象となっている。会社員や公務員など常勤の仕事を持っている男性が94.9%、臨時雇用・パート・アルバイトが1.5%、そして専業主婦(夫)・働いていないが1.4%であった。以上から、女性の保護者では臨時雇用や専業主婦の割合が男性よりも多くなっている。

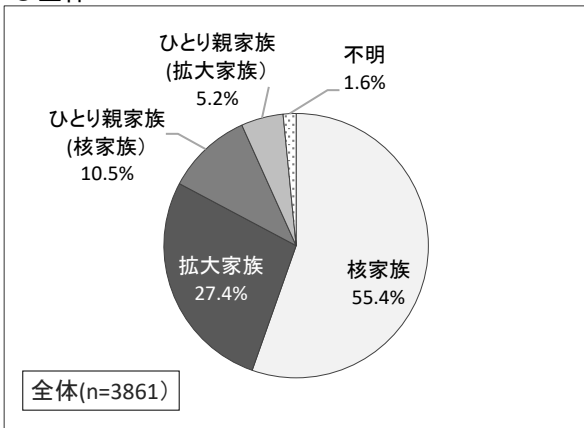
問7 生計をともにしている家族の人数

○全体

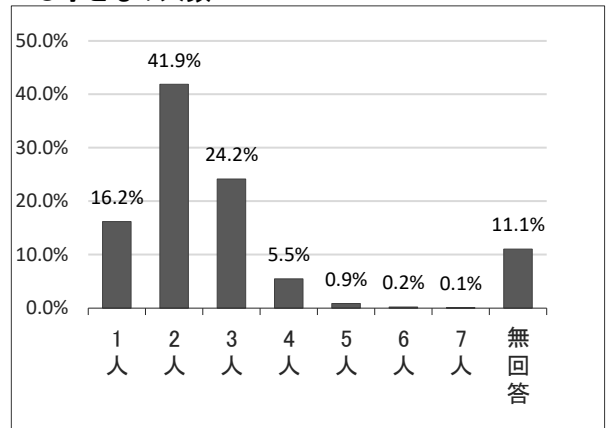


問8 家族形態

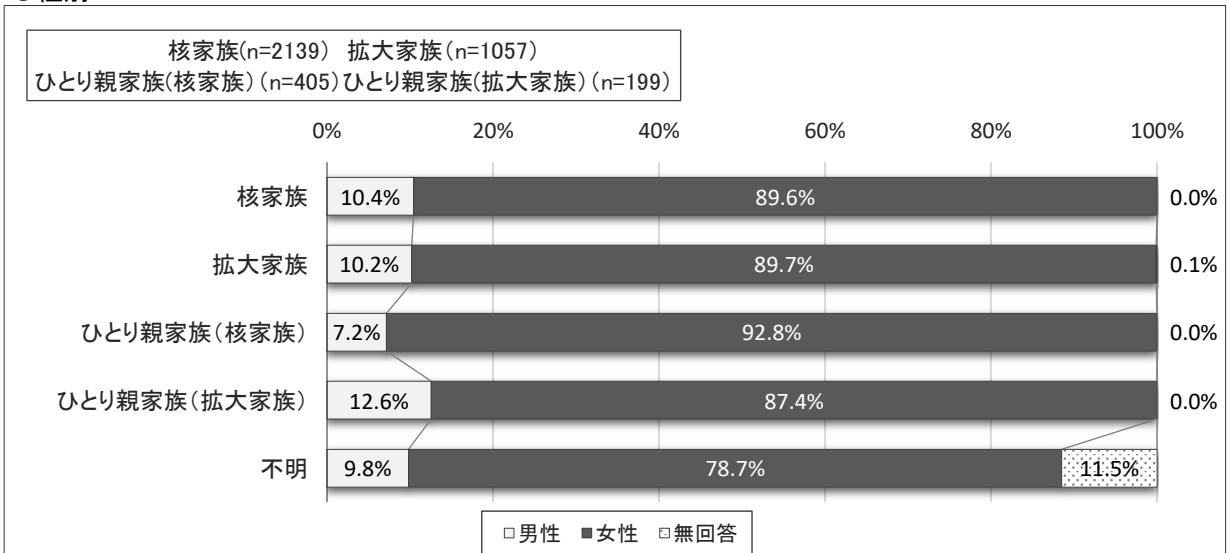
○全体



○子どもの人数



○性別



- ①核家族:配偶者あり、子ども以外の家族なしと回答
- ②拡大家族:配偶者あり、子ども以外の家族ありと回答
- ③ひとり親家族(核家族):配偶者なし、子ども以外の家族なしと回答
- ④ひとり親家族(拡大家族):配偶者なし、子ども以外の家族ありと回答

家族形態は、「核家族」が55.4%、「拡大家族(祖父母等との同居家族)」が27.4%、「ひとり親家族(核家族)」が10.5%、「ひとり親家族(拡大家族)」が5.2%であった。

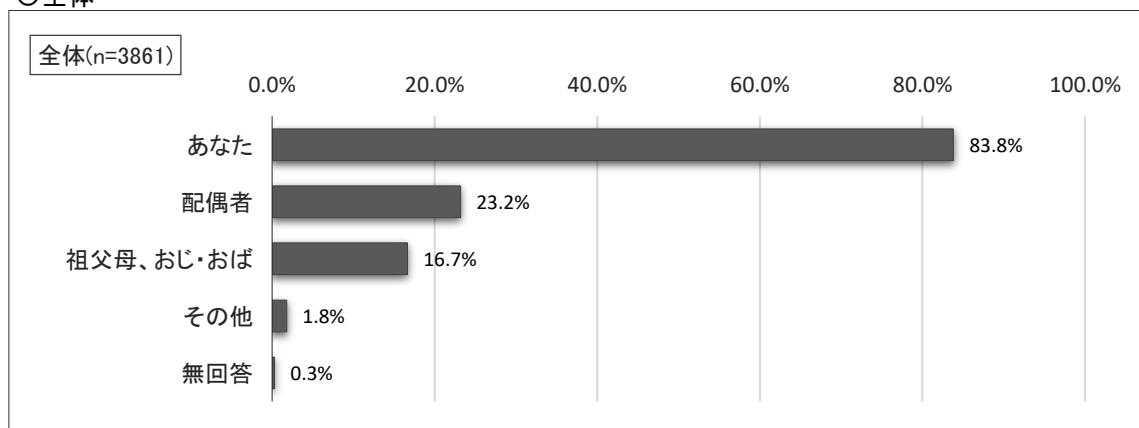
「ひとり親家族(核家族)」のうち、父子家庭は7.2%、母子家庭は92.8%、「ひとり親家族(拡大家族)」のうち、父子家庭は12.6%、母子家庭は87.4%であった。

3 親子のふれあいについて

問9 平日や休日に主に子育てにかかわる人はだれか(複数回答あり)

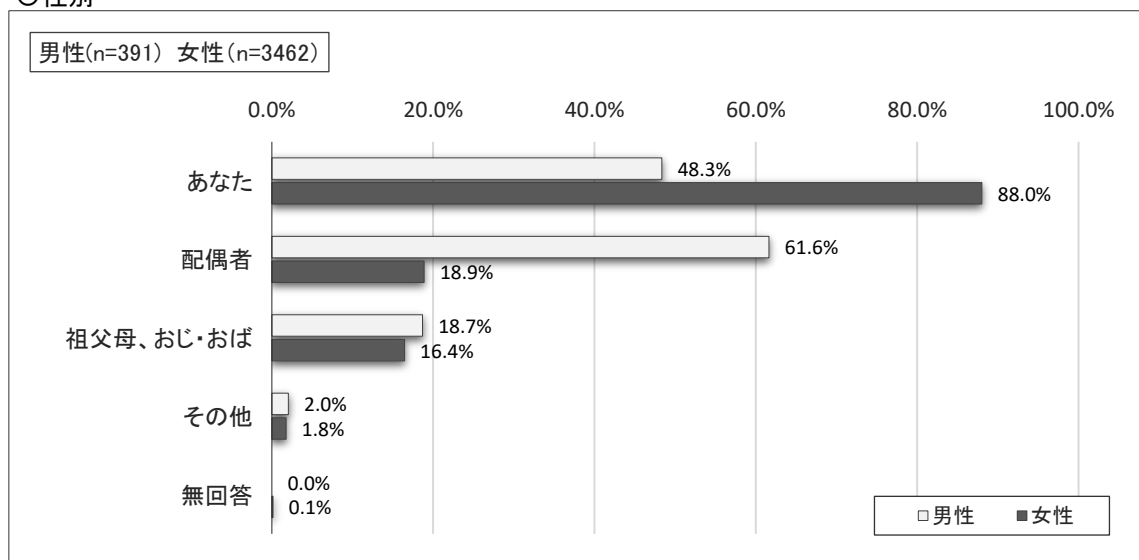
【平日】

○全体

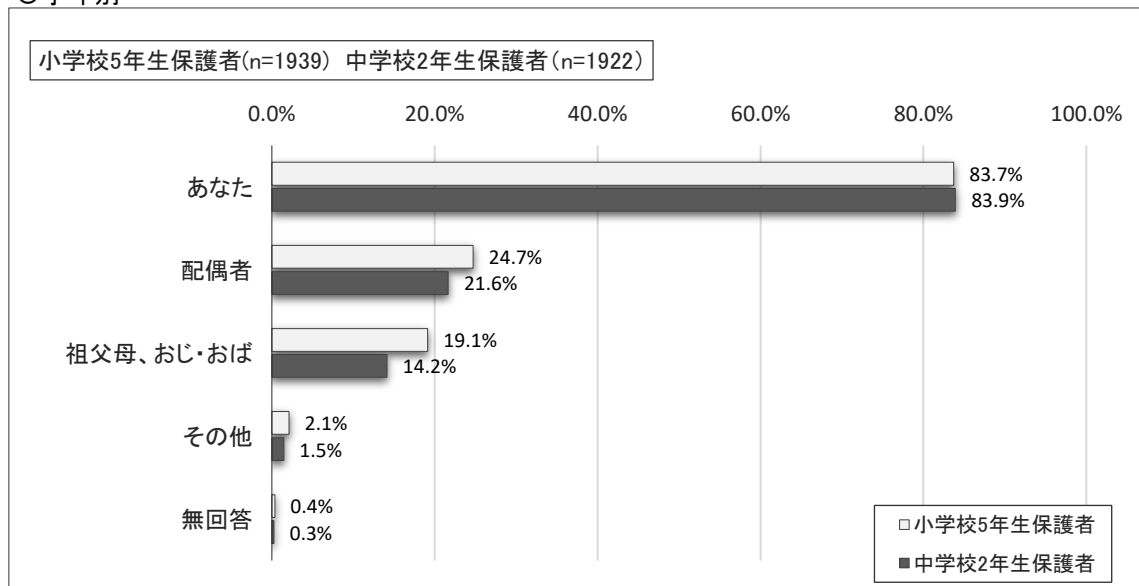


平日では、「あなた(ご自身、主に女性)」が83.8%と最も多い。性別、学年別による違いは見られなかったが、家族形態別の「ひとり親家族(拡大家族)」では、「祖父母やおじ・おば」の答えが51.3%であった。

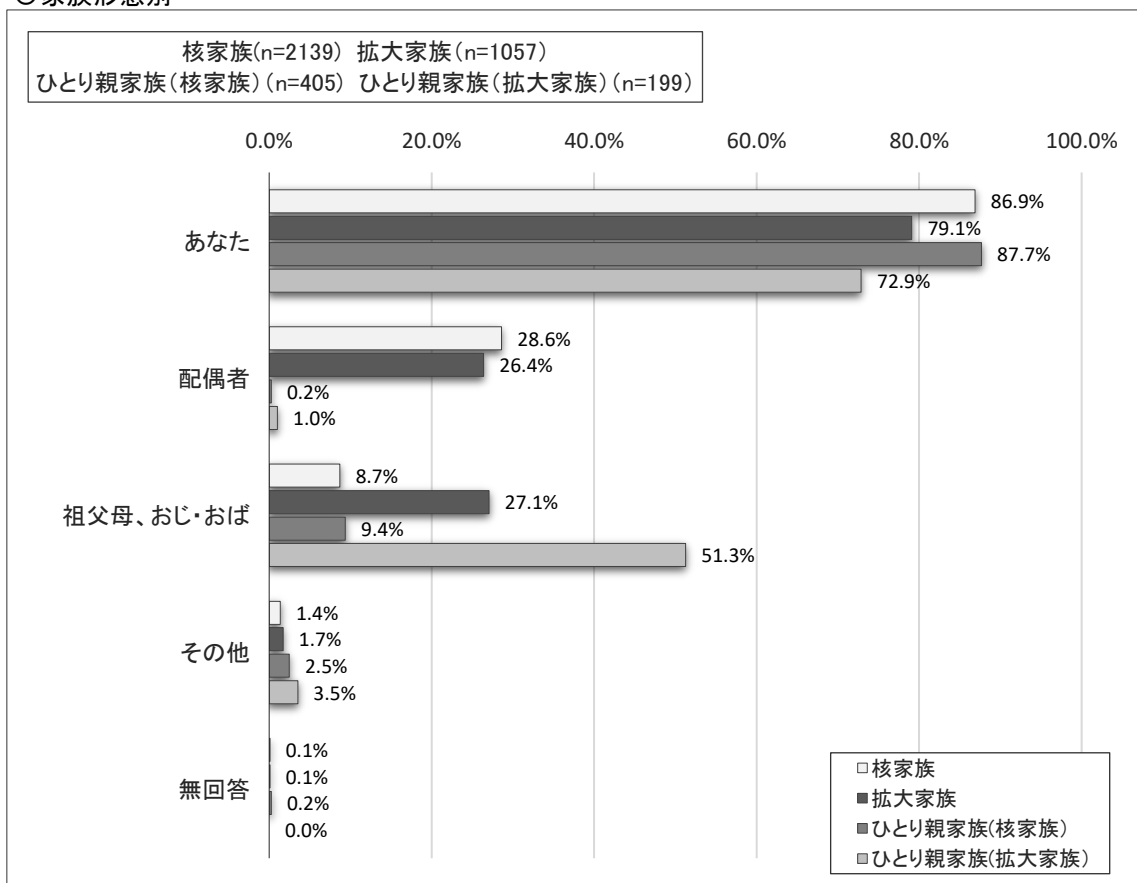
○性別



○学年別

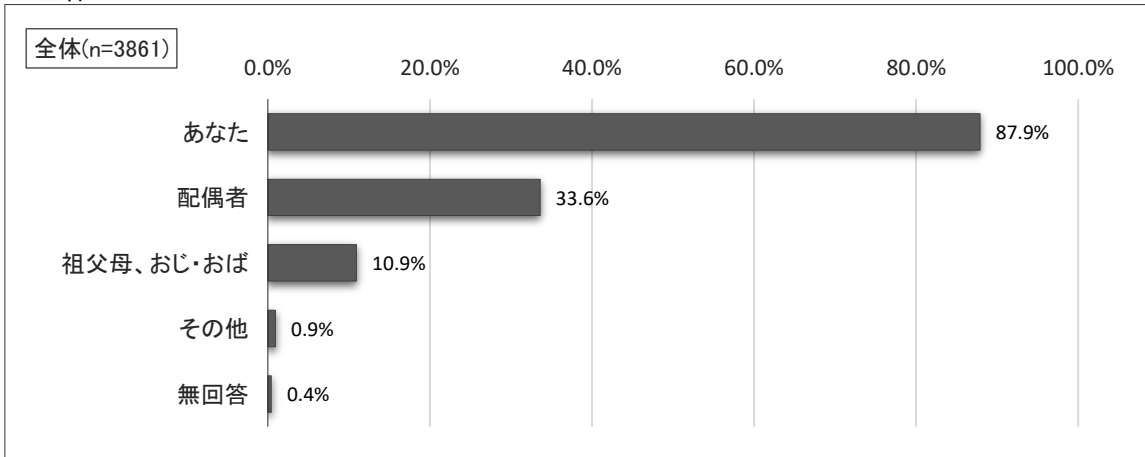


○家族形態別



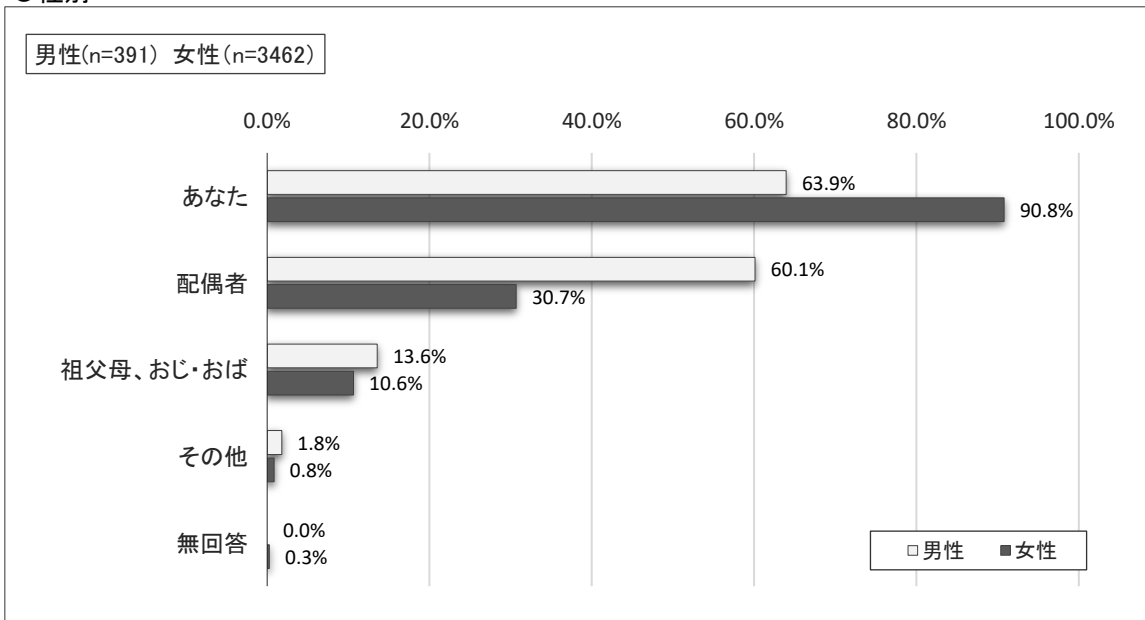
【休日】

○全体

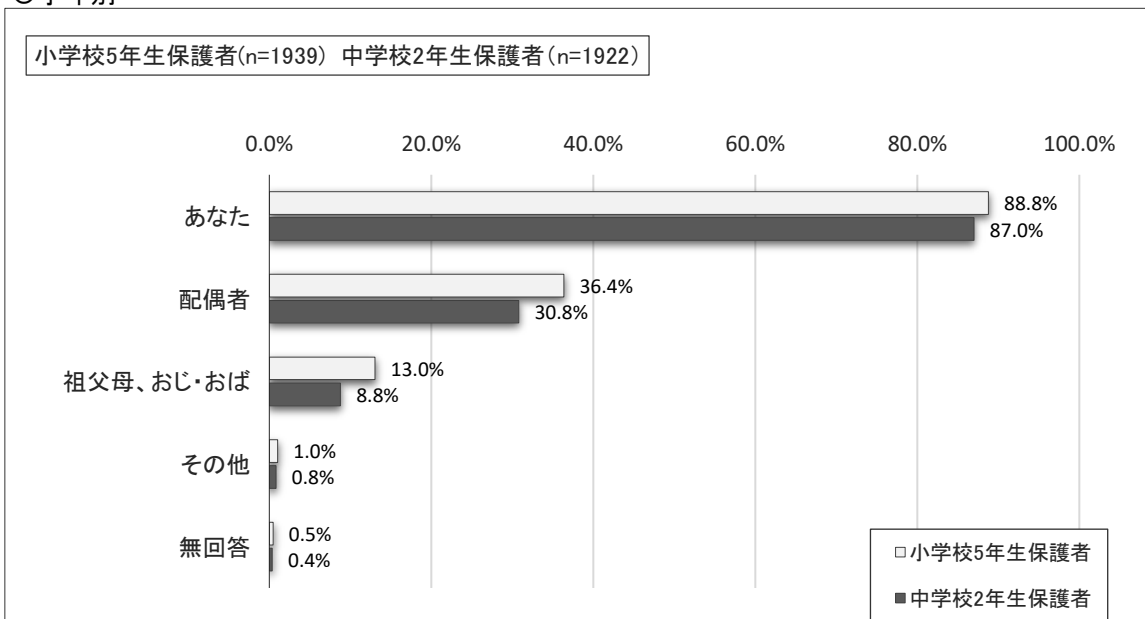


休日では、「あなた(ご自身、主に女性)」が87.9%と最も多く、平日との大きな違いは見られないが、「配偶者(主に男性)」が33.6%と増加し、「祖父母やおじ・おば」が10.9%に減少した。

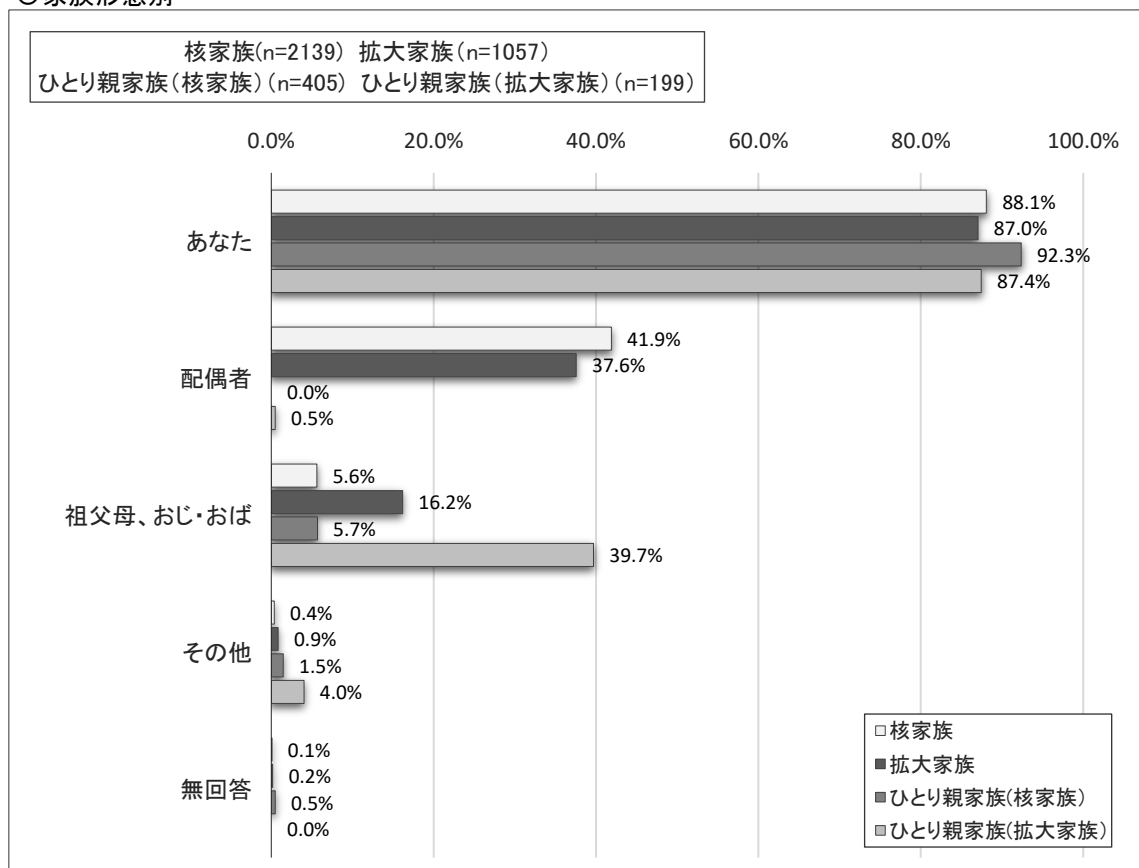
○性別



○学年別



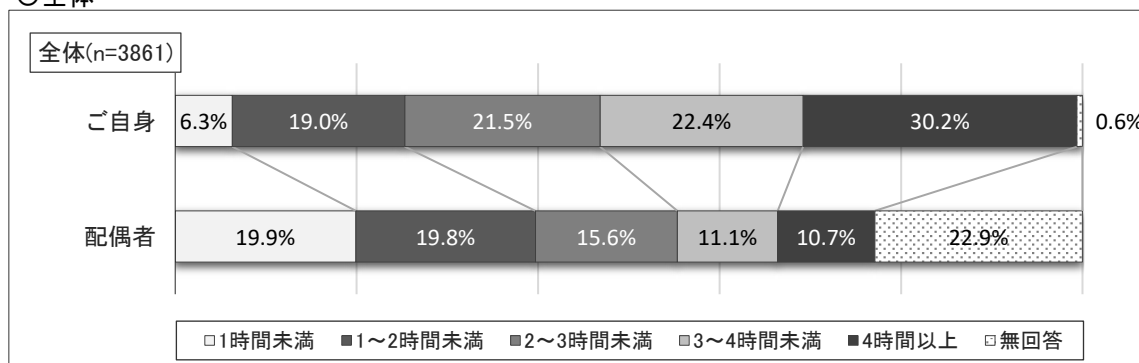
○家族形態別



問10 平日や休日に子どもとふれあう時間はどれくらいか

【平日】

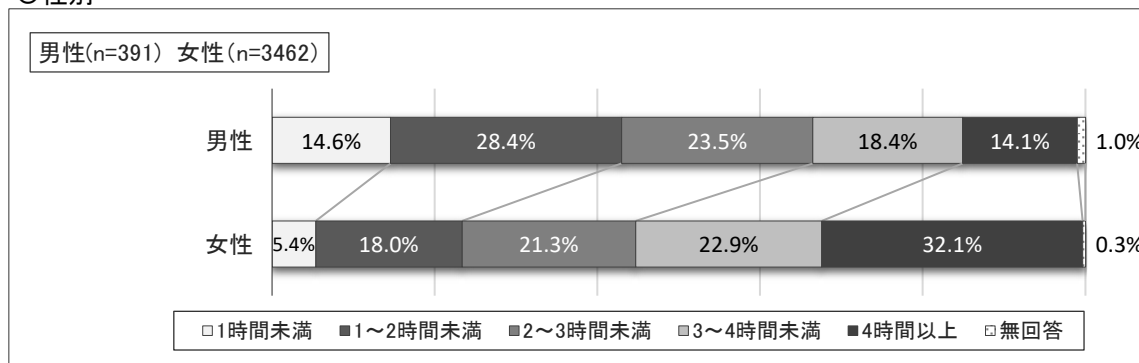
○全体



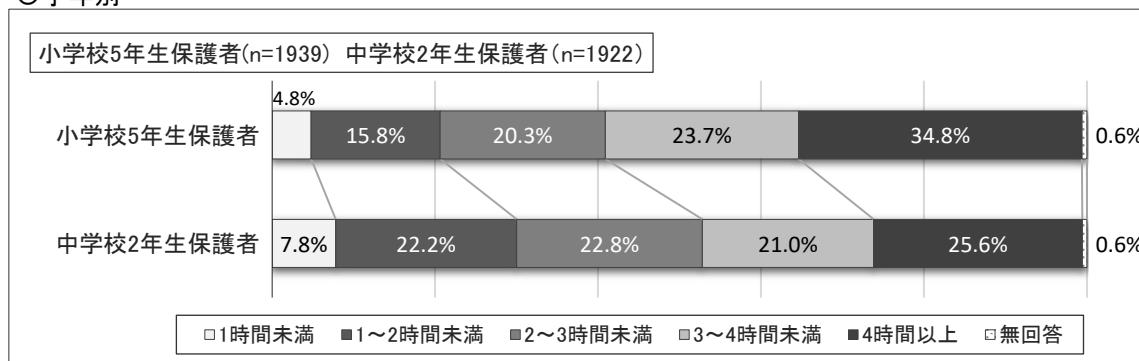
平日に子どもとふれあう時間は、「ご自身(主に女性)」では、「4時間以上」が30.2%と最も多く、次いで「3～4時間未満」が22.4%であった。「配偶者(主に男性)」では、「1時間未満」が19.9%、「1～2時間未満」が19.8%とほぼ同じ値で、次いで「2～3時間未満」が15.6%であった。

家族形態別の「ひとり親家族(拡大家族)」では、「2～3時間未満」が25.1%で最も多く、「ご自身」が子どもとふれあう時間が少なくなり、「祖父母やおじ・おば」が代わりを担っていると思われる。

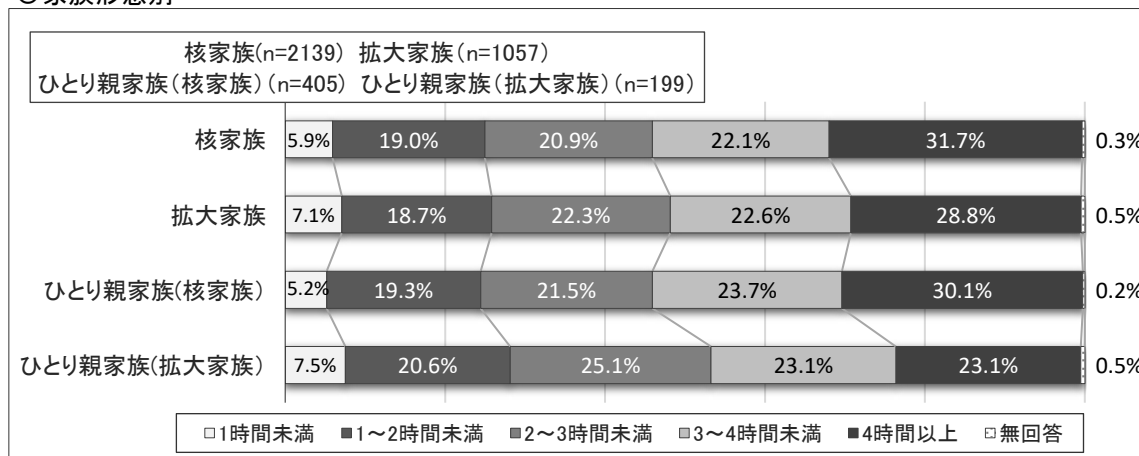
○性別



○学年別

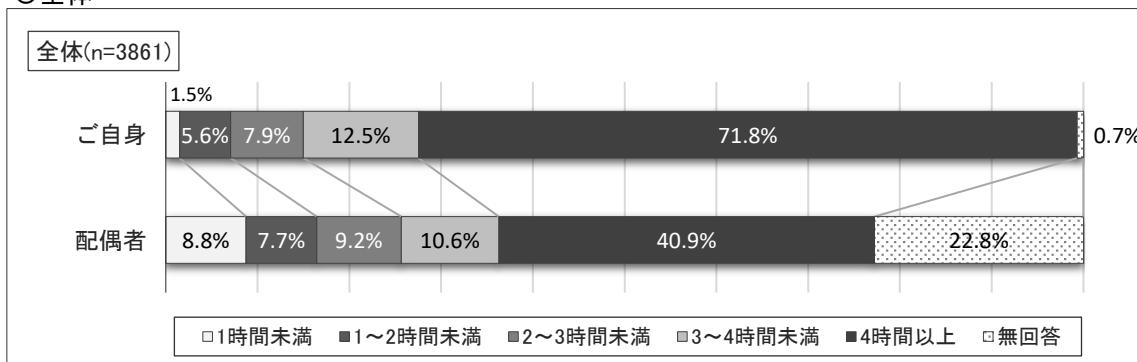


○家族形態別



【休日】

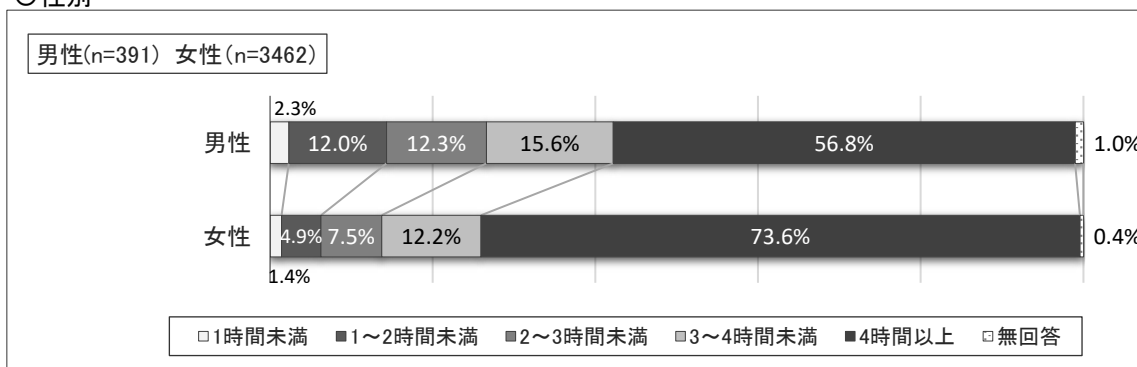
○全体



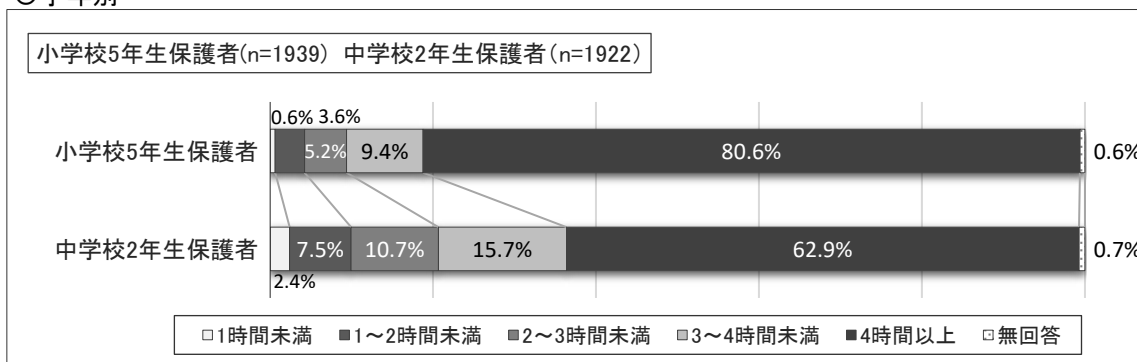
休日に子どもとふれあう時間は、「ご自身(主に女性)」では、「4時間以上」が71.8%となり、平日の30.2%と比べ、2.4倍となっている。「配偶者(主に男性)」では、「3～4時間未満」が40.9%と最も多くなり、平日の10.7%と比べ、3.8倍となっている。

家族形態別による違いは見られず、「4時間以上」という答えが、いずれにおいても7割以上であった。

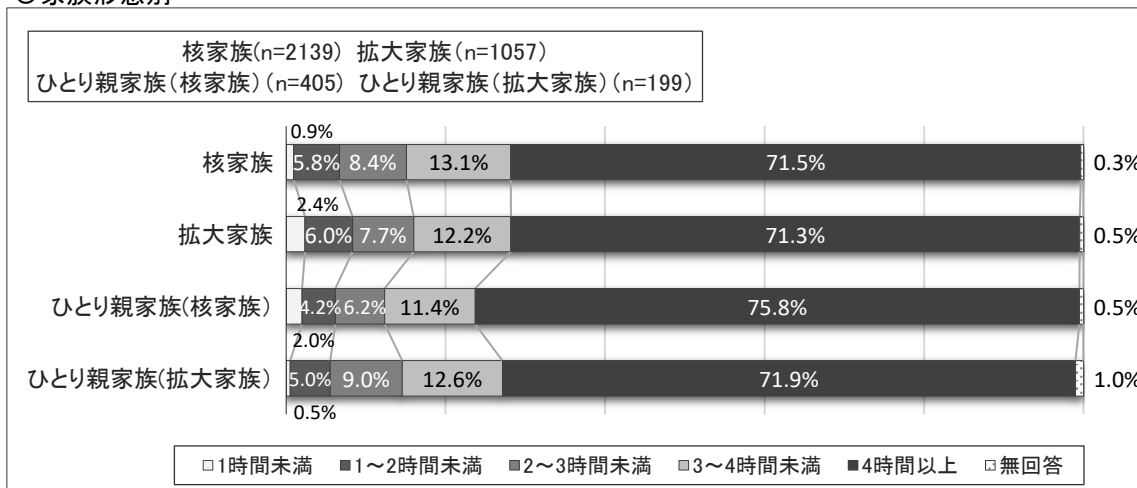
○性別



○学年別



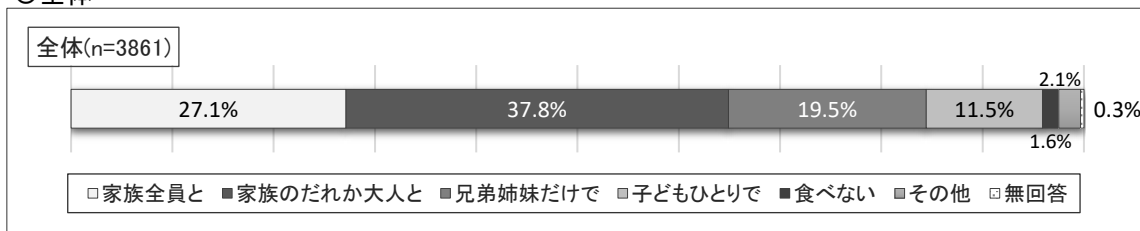
○家族形態別



問11 子どもは朝食や夕食を誰と一緒に食べるか

【朝食】

○全体

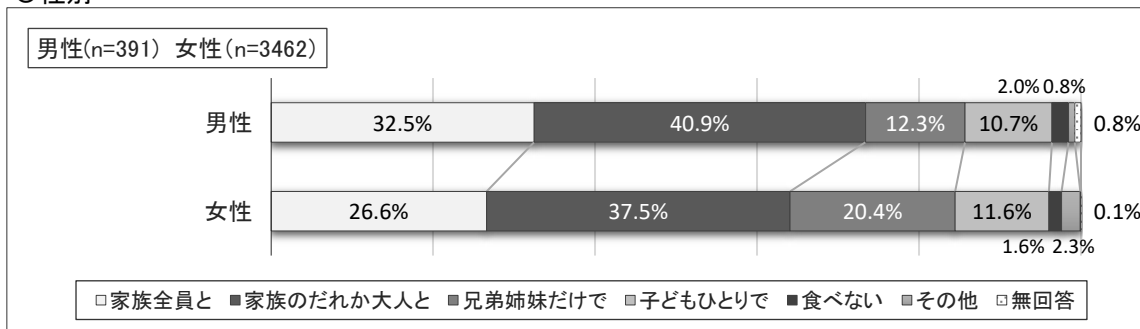


その他

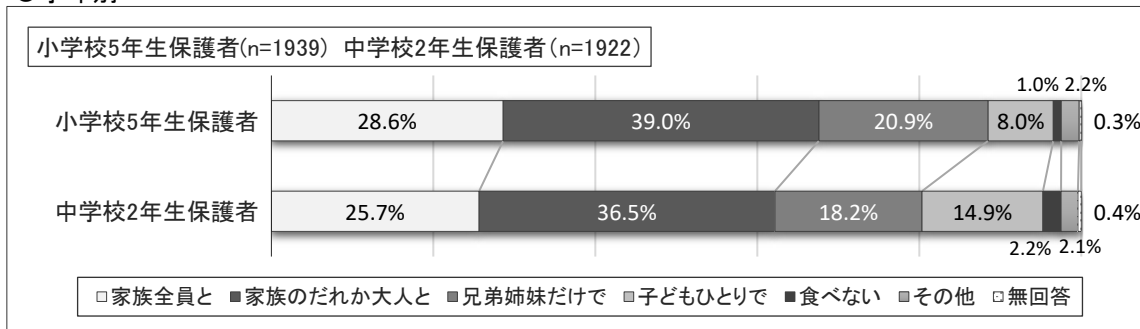
- 母と兄弟(27件) ●父以外の家族で(12件) ●家族のだれかと、全員ではない(7件)
- ひとりだが、母がそばにいる(7件) ●母(6件) ●平日、休日で異なる(4件) ●母以外の家族で(3件)
- 祖父母(3件) ●職場、施設内で(3件) ●父母と兄弟で(2件) ●個別に(2件)
- 兄弟姉妹だけか仕事によって一緒に食べる。 ●その日によりそれぞれ時間がずれるので2人の時もある。
- 一緒に食べたり、一緒に食べられなかったり。
- 基本的に兄弟姉妹だけで家族が家事をしながら見守ったり一緒に食べたり。
- 私の仕事のシフトでひとりの時もある。
- 主人は早くに食べる、子ども2人は一緒に。私は登校してから食べる。

朝食を誰と食べるかという問いには、「家族のだれか大人と」が37.8%と最も多く、次いで、「家族全員と」が27.1%であった。性別、学年別による違いは見られなかったが、家族形態別の「ひとり親家族(核家族)」では、「家族全員と」が45.7%と最も多い回答であった。

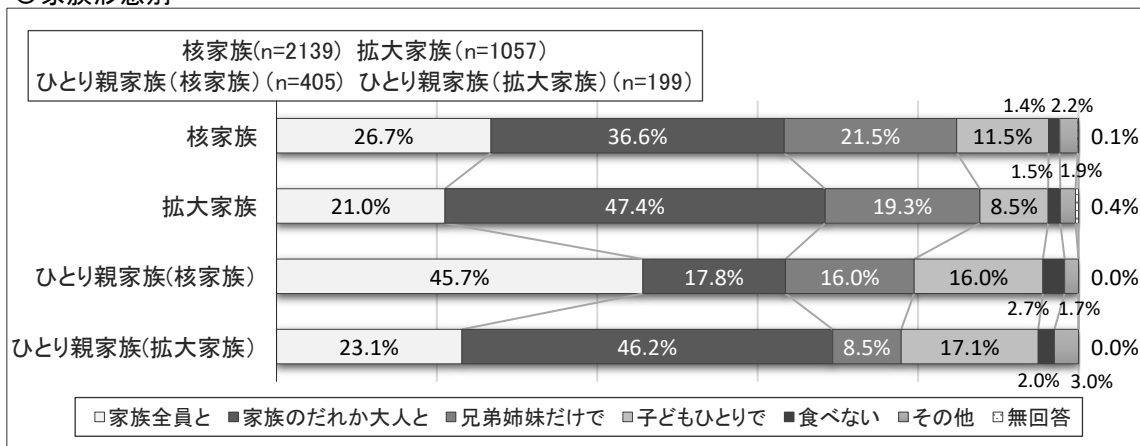
○性別



○学年別

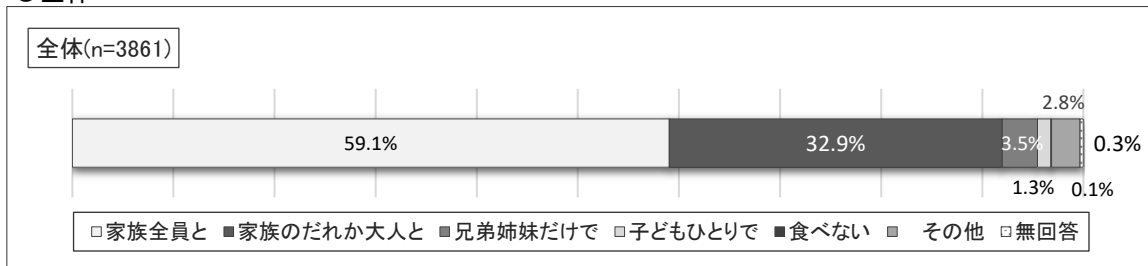


○家族形態別



【夕食】

○全体

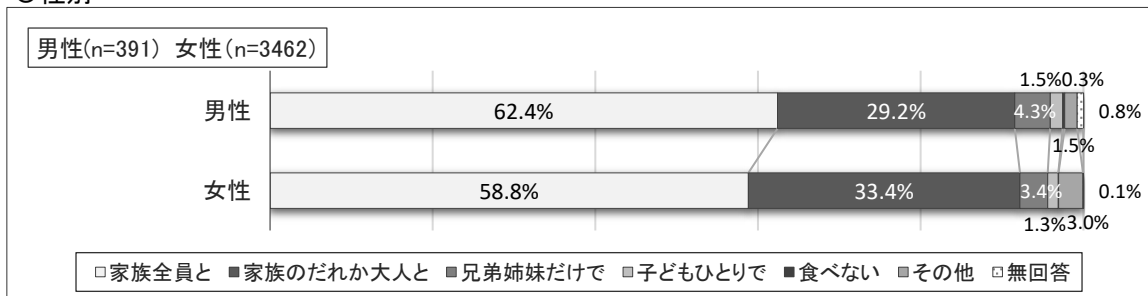


その他

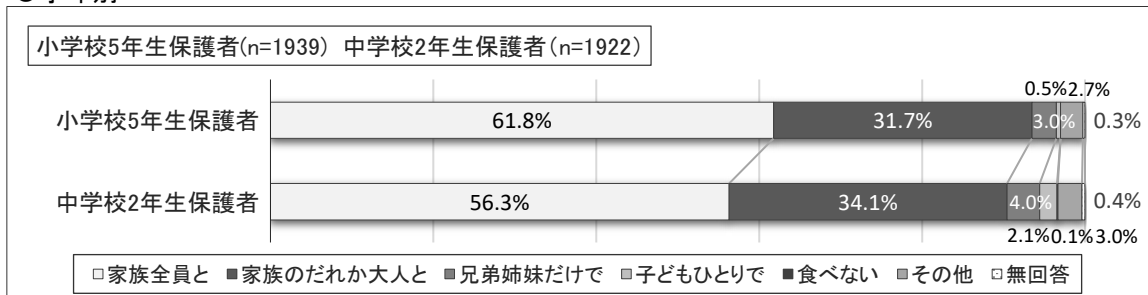
- 母と兄弟(27件) ●父以外の家族で(19件) ●家族の誰かと、全員ではない(13件)
- 部活、習い事等で異なる(8件) ●家族全員で(5件) ●父母と兄弟で(4件)
- その日にいる家族全員で(4件) ●平日は父以外の家族、休日は全員(4件) ●母(3件)
- 祖父母(3件) ●ひとりだが、母がそばにいる(3件) ●職場、施設内で(3件)
- 家族全員や家族のだれか大人との時もあれば、兄弟姉妹だけ、子どもひとりの時もある。
- その日によって家族全員や兄弟姉妹だけや子どもひとりで ●帰宅時間による。
- 仕事が終わる時間による。週3は一緒に食べられるようにしている。 ●私の仕事のシフトでひとりのときもある。
- 私、妹は必ずいるが私が座っている割合は半々。父親もいる時もある。
- 私の仕事が夜勤で家にいることが少ないため、家族みんなが難しい。 ●週2~3回ひとりで食べている。
- 週4日家族全員、週3日家族のだれか大人と ●大人が家事をしている場で兄弟姉妹で食べている。
- 同じ空間にはいるが、テーブルは別々。 ●母以外、全員(母は仕事のため)。 ●曜日によってまちまち。

夕食を誰と食べるかという問いには、「家族全員と」が59.1%と最も多く、次いで、「家族のだれか大人と」が32.9%で、朝食と比べ、「兄弟姉妹だけで」「子どもひとりで」という回答は少なかった。性別、学年別による違いは見られなかったが、家族形態別の「ひとり親家族(核家族)」では、「家族全員と」が73.6%と割合が高くなっている。

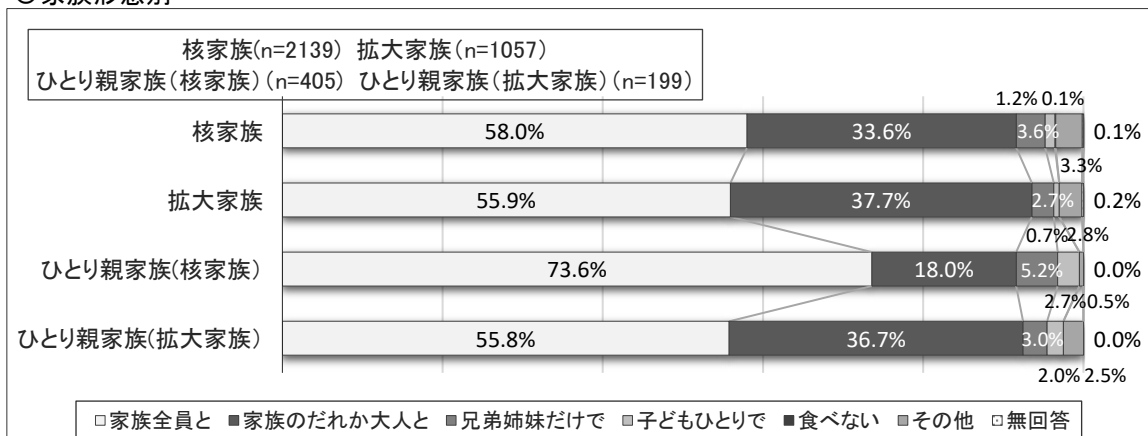
○性別



○学年別



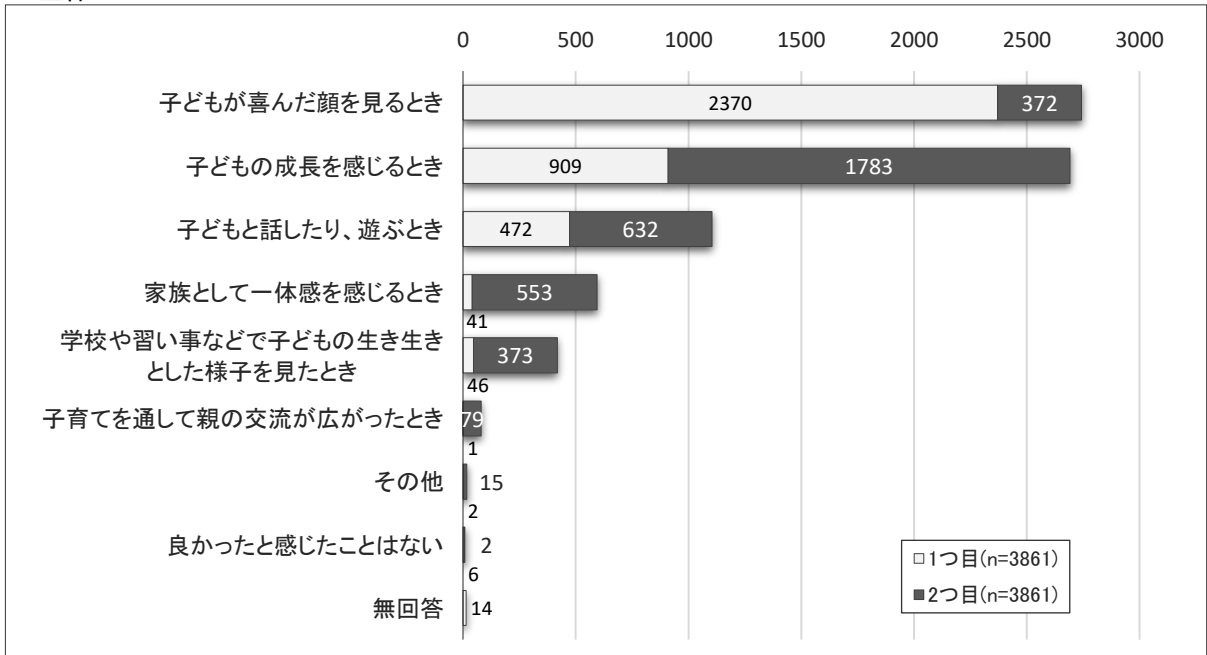
○家族形態別



4 子育ての状況について

問12 子育てをしていて、どのようなときに良かったと感じるか

○全体

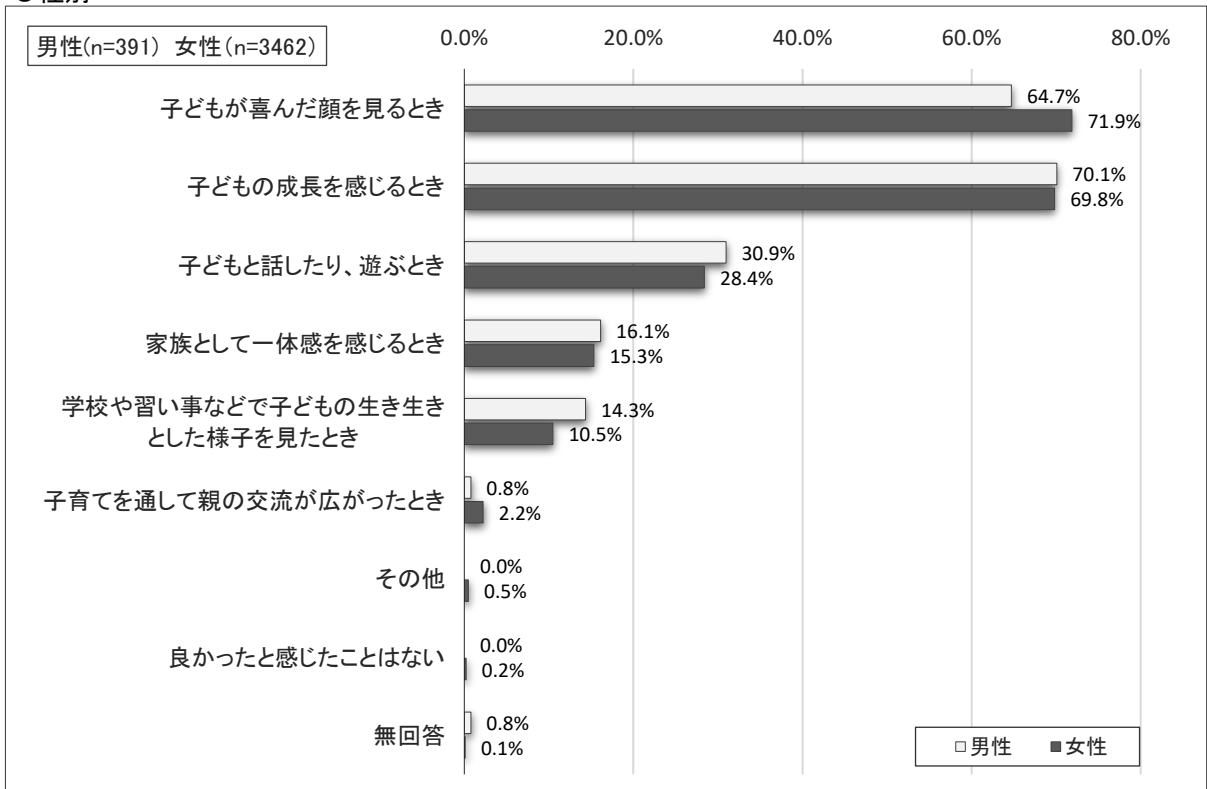


その他

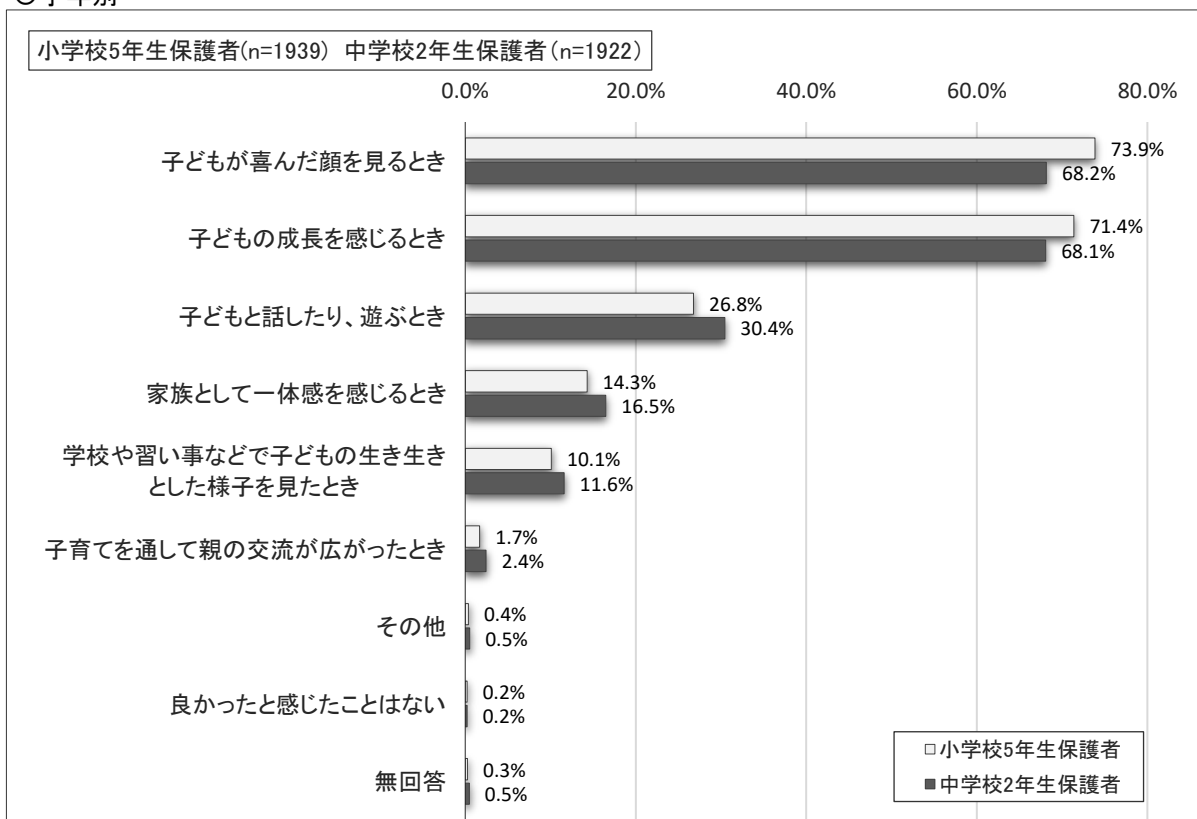
- 子どもを通して精神的に自分自身が成長できていること(4件) ●寝顔を見ている時(3件)
- ありがとう、おつかれさまと声をかけてくれる時。 ●いやだと思ったことは、ほぼない。
- 学校の行事が中止になった時。 ●学校の担任の先生からほめられた時。
- 子どもが周りの方にほめられたりした時。 ●好きなことで話をして、同感しながら内容を聞いている時。
- 体調が悪い時に気遣ってもらった時。 ●命があること、今ここにいてくれること。

子育てをしていて良かったと感じるときを聞いたところ、1つ目は「子どもが喜んだ顔を見るとき」が2,370人(61.4%)と最も多く、次いで、「子どもの成長を感じる時」が909人(23.5%)であった。2つ目の回答では、「成長を感じる時」が1,783人(46.2%)で最も多く、次いで、「子どもと話したり、遊ぶとき」が632人(16.4%)であった。

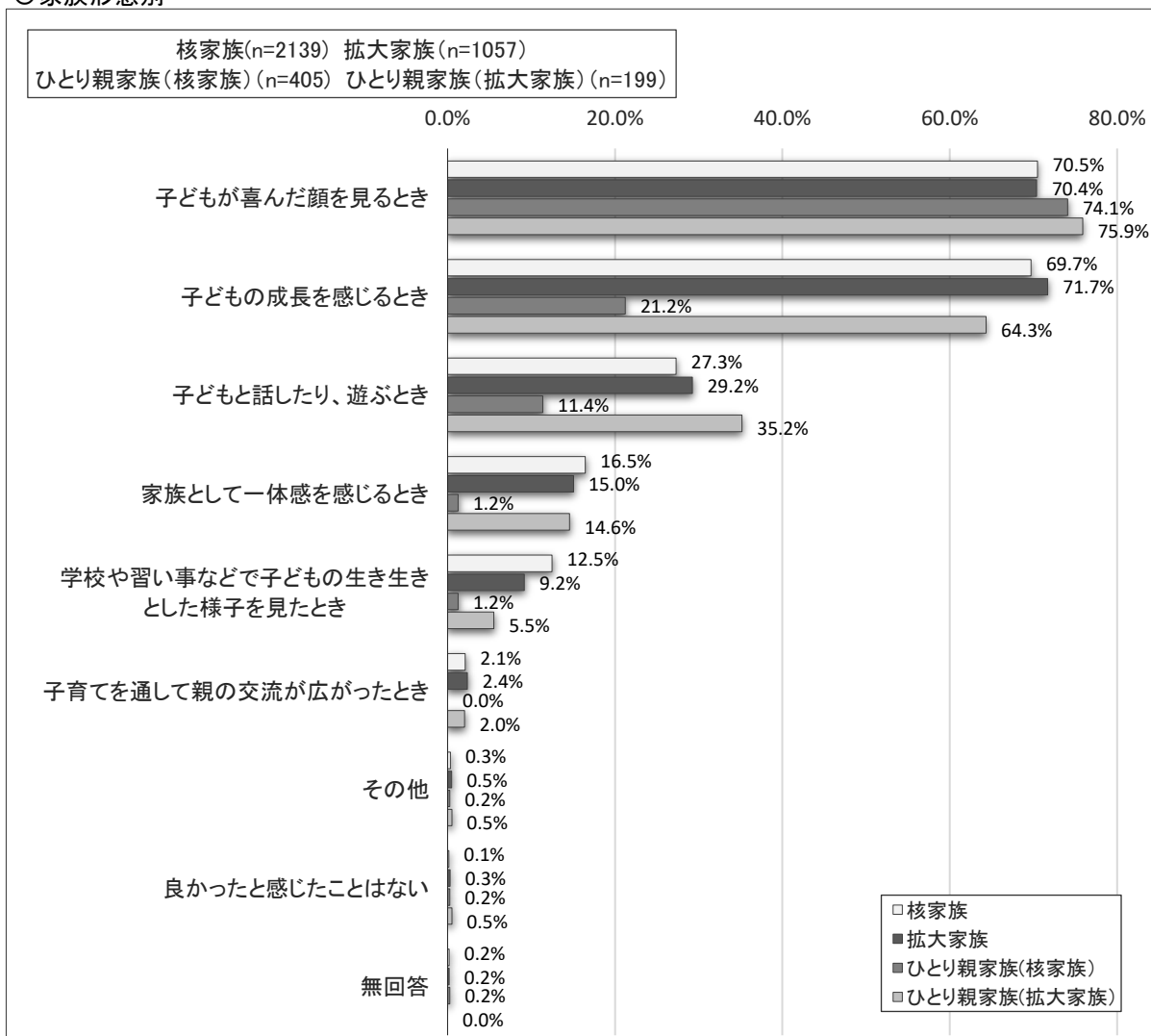
○性別



○学年別



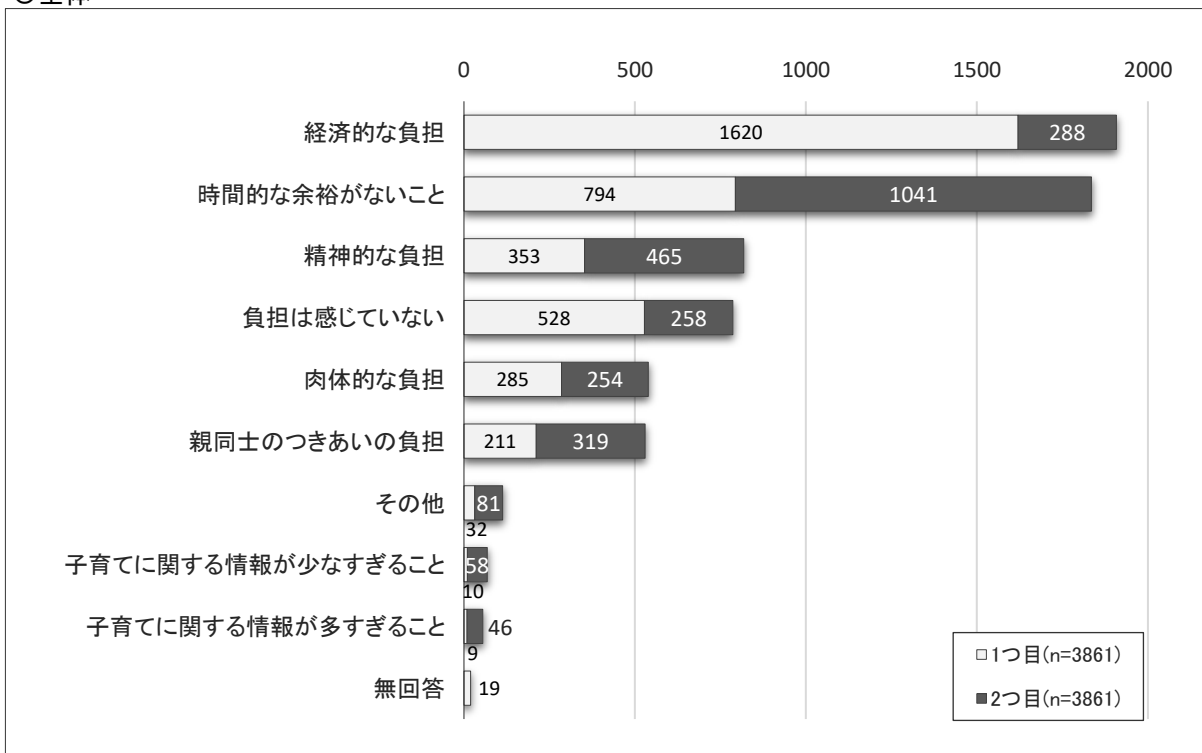
○家族形態別



性別、学年別、家族形態別の回答者数は、「1つ目」と「2つ目」を合わせたものである。

問13 子育てをしていて、どのようなことに負担を感じるか

○全体

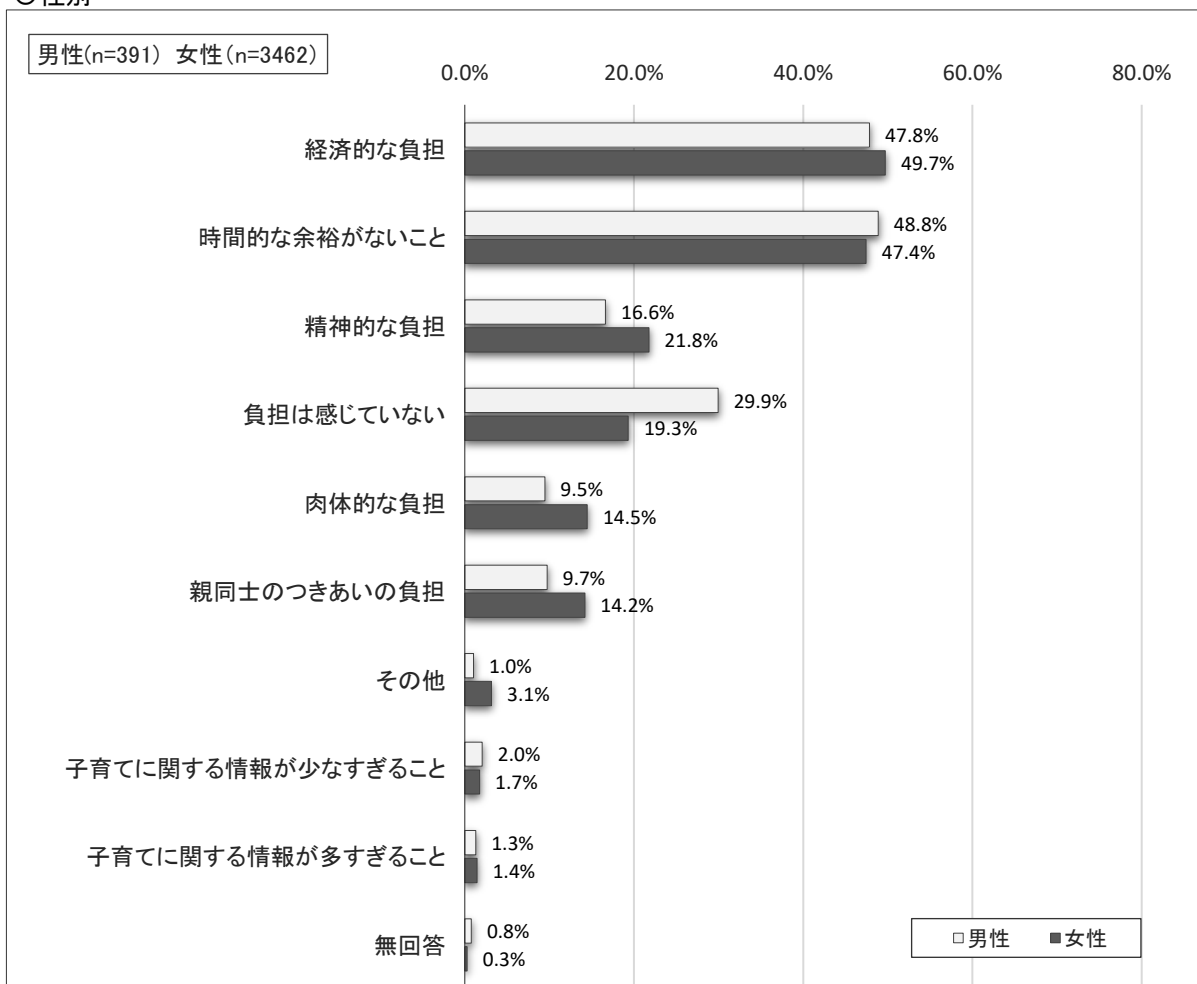


その他

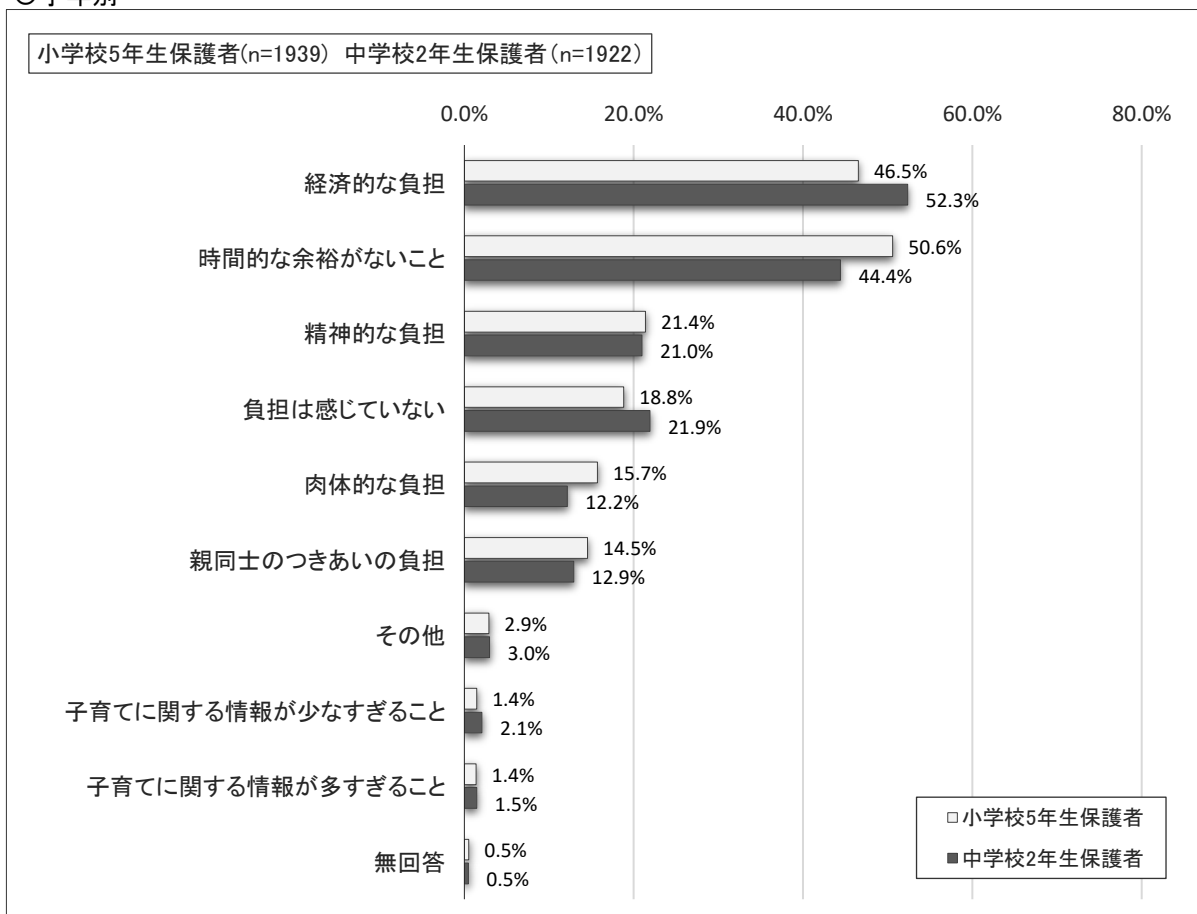
- PTA活動(10件) ●部活動、クラブ活動の送迎(10件) ●子育てと仕事の両立(7件)
- 子どもへの接し方について(5件) ●夫の協力がなく(4件) ●祖父母の干渉(4件)
- 学校に関すること(5件) ●反抗期や思春期について(3件)
- 子育てに対する考えの違いが頻発すること(2件) ●将来への不安(2件) ●周囲との協調性(2件)
- 夫の単身赴任による負担増(2件) ●ひとり親だと子どもに我慢させてしまっていることもあったと感じた時。
- PTA等、親が参加する行事、宿題等。昔は宿題は子どもがやるものだったが、親の負担が多すぎる。
- いじめの問題(学校での)。
- いじめやセクハラの情報を学校で教育していないこと。
- インターネットやゲームとのかわり。
- 家族の協力が得られず、ひとりで子どもの世話をしなければならないこと。
- 子どもの数に対して部屋が少なく、また夫の両親とも暮らしているので勝手に家を片付けられなくて、子ども部屋を作ってあげられていないこと。
- 学校(進学についての情報が限られていること)。
- 学校が子どもの問題に向き合ってくれない時 ●学校との信頼関係。
- 学校に行かない、今後を考えた時。
- 学校に行きたくないと言うこと。
- 学校の勉強だけだと不足しており、家庭での負担も大きい。
- 教育方針が違うこと。
- 兄弟喧嘩がひどいこと。
- 発達に遅れがあると感じる時(兄妹の中で)。
- 経済的余裕がなく、身体の調子が良くないこと。
- 国からの援助が少なすぎる
- 子どもを遊ばせる環境がなさすぎる。例)公園がない。あっても地域の苦情が多く使えない場所が多すぎる。
- 子どもがスマホ依存で日常生活や学業に支障をきたしているが、止めることができない。
- 子どもを優先して予定を作ること。
- 病気になった時。
- 自分が具合悪い時の子育て(メンタル面)。
- 子ども達がやるべきことをやらずして遊んでいること。ぐずった時、うるさくした時、周囲が迷惑と感じていないか？が気になる。
- 自分が体調をくずした時、子どもの面倒をみる人がいないこと。
- 身寄りが近くにいないため、いざという時預け先がないこと。
- 身の回りのことが親まかせで片付けが苦手。
- 専門医のいる病院が遠い。
- 病院がなく、教育、習い事などでも市内と格差を感じる。
- 地域の課題(子どもの学びに関する環境)を見てみないふり。子どものその時期、成長においてそれぞれ重要な時期に解決できずに過ぎてしまうことが辛い。
- 特になのですが、上が中学生、下が保育園なのでみんな生活リズムや行事等のスケジュール管理が大変。
- 配偶者と子育てに関して意見が合わない。
- 配偶者の理解が得られず自分が仕事をあきらめたり、趣味をあきらめたりしなくてはならない時。女はいつも損だと感じる。
- 部活、特に休日が無くなる時。
- 部活じゃなく愛好会になったこと。
- 部活動の父母会。
- 勉強が苦手なので教えてあげようと思ってやるけど、子どもが分からないから。
- 勉強のさせ方、部屋の片付けを自らさせる方法。
- 勉強の仕方について何度も注意していること。
- 両親の育った環境が違くと、価値観が違うので相手への説明が難しい。
- 良いこと、悪いことを教える時に子どもの納得のいく話をする。
- 老人もいるので、デイサービス等の準備や家事も一緒にやっている。それに仕事もしているのでもついで。子育てと介護が一緒なのが辛い。
- いちばん下の子でも小5なので、そんなに手がかかることがなくなってきたから？かな・・・。

子育てをしていて負担を感じていることを聞いたところ、1つ目は「経済的な負担」が1,620人(42.0%)と最も多く、次いで、「時間的な余裕がないこと」が794人(20.6%)であった。2つ目の回答では、「時間的な余裕がないこと」が1,041人(27.0%)で最も多く、次いで、「精神的な負担」が465人(12.0%)であった。

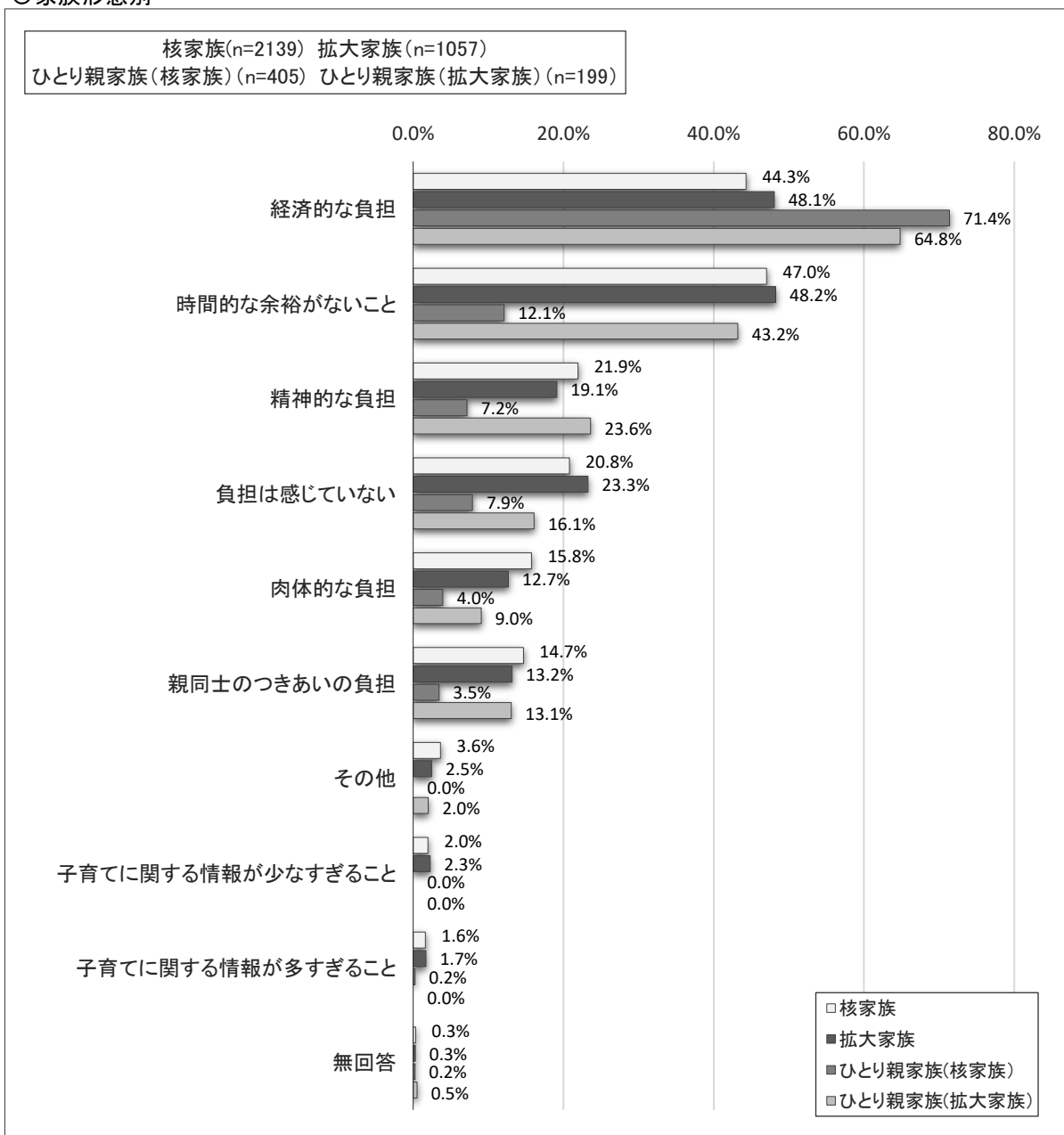
○性別



○学年別



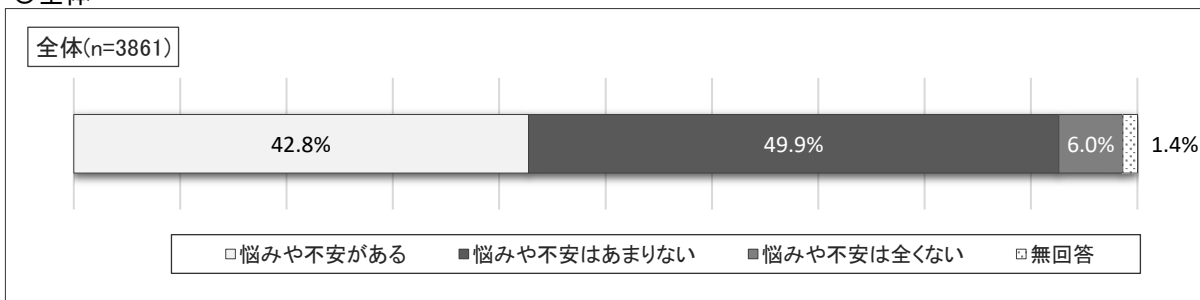
○家族形態別



性別、学年別、家族形態別の回答者数は、「1つ目」と「2つ目」を合わせたものである。

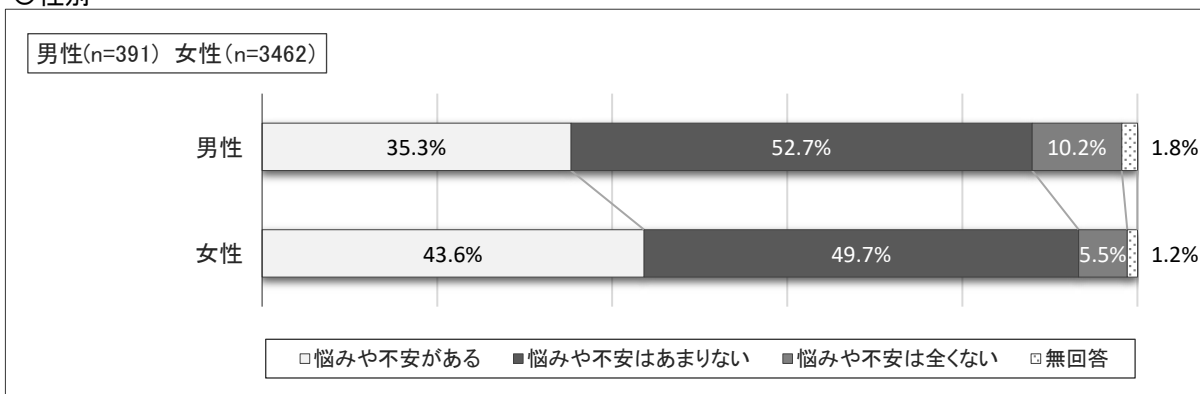
問14 子育てについて、悩みや不安があるか

○全体

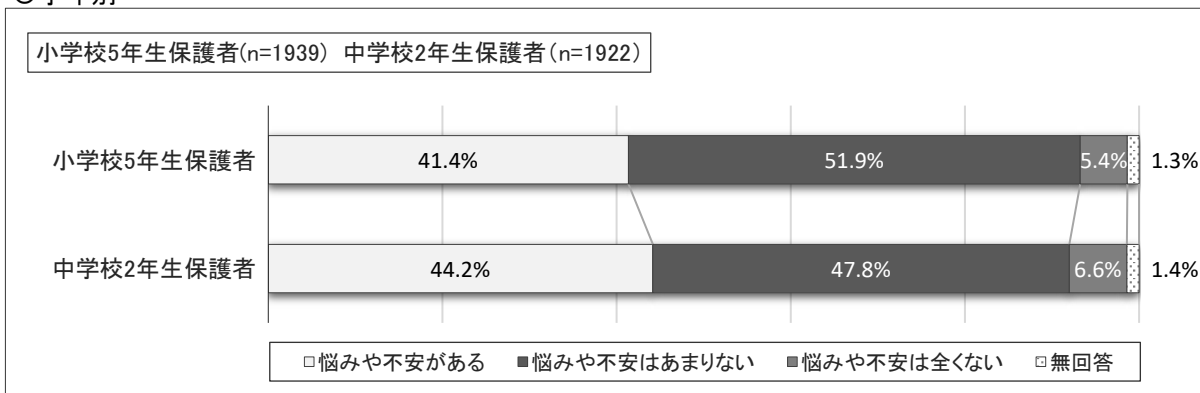


子育てについて、「悩みや不安があまりない」が49.9%、「悩みや不安がある」が42.8%と割れた。性別、学年別による違いが見られなかったが、家族形態別の「ひとり親家族(核家族)」では49.9%、「ひとり親家族(拡大家族)」では51.8%と、「悩みや不安がある」の割合が増えている。

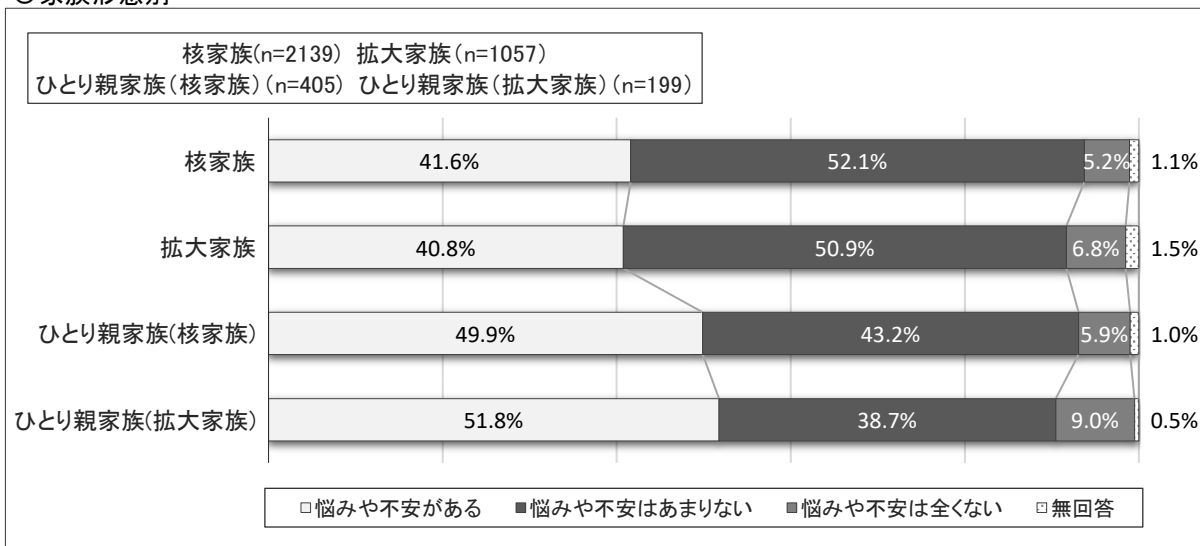
○性別



○学年別

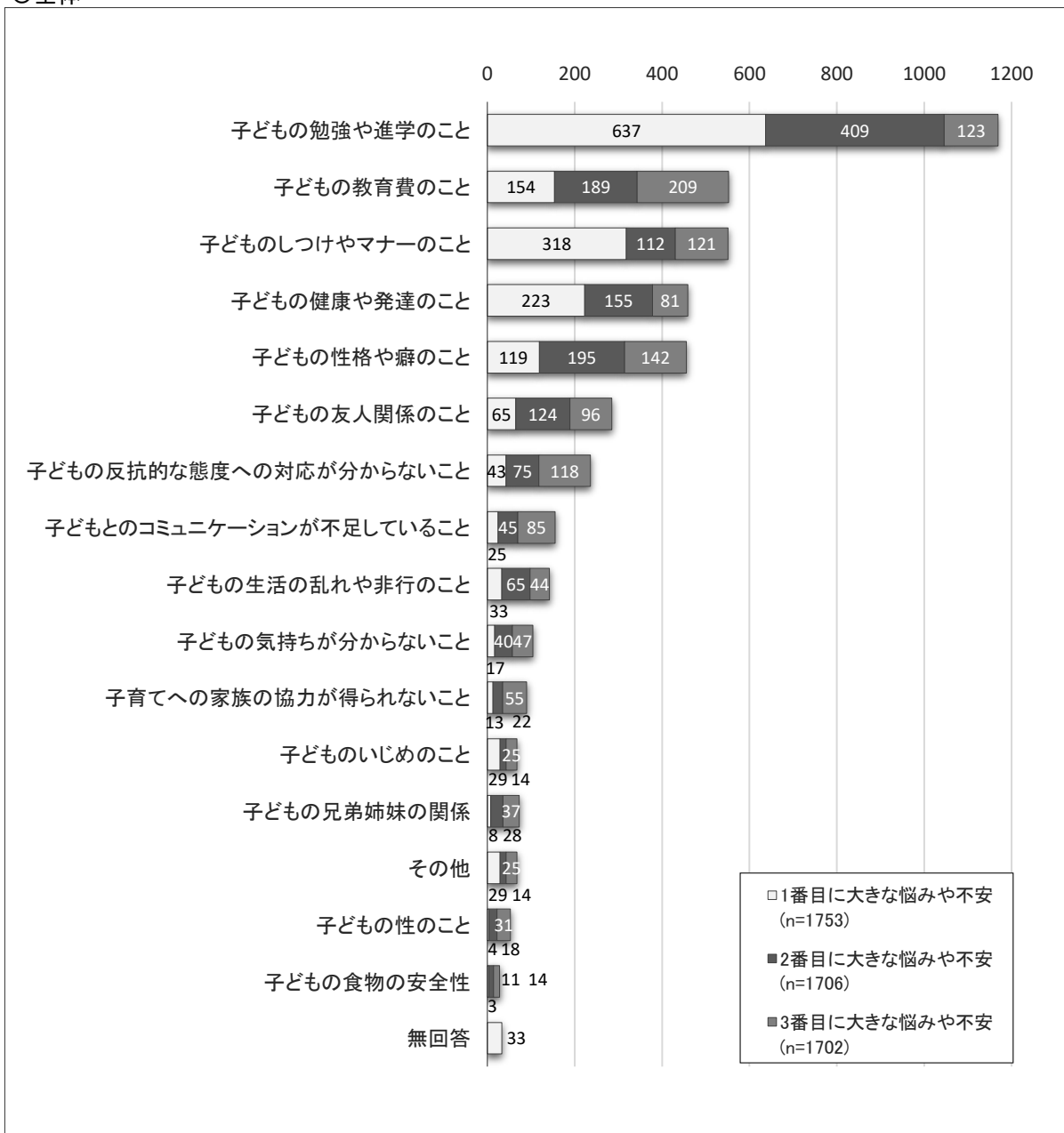


○家族形態別



問15 子育てについてどのような悩みや不安があるか

○全体



その他

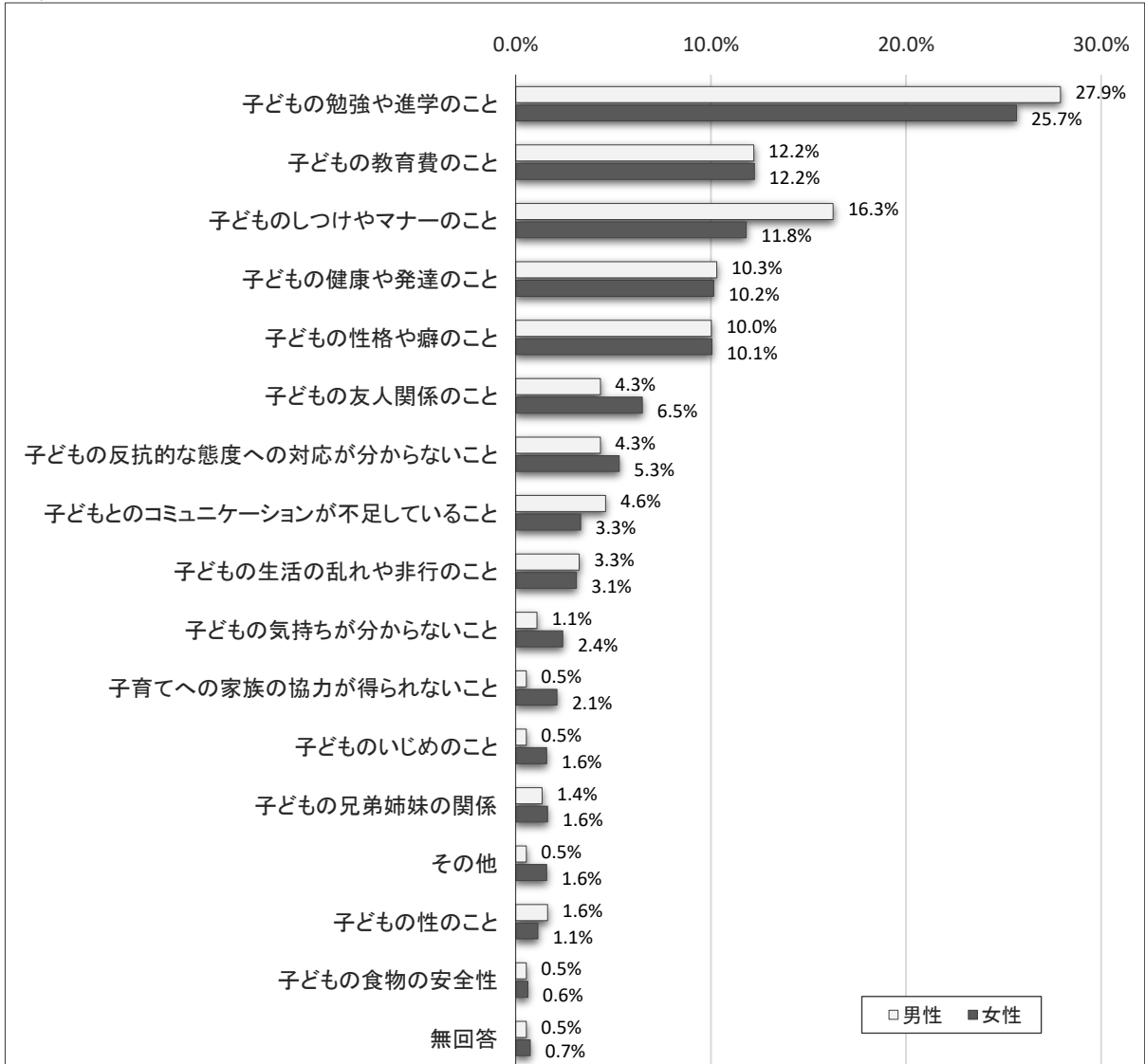
- 将来についての不安(7件) ● インターネット、ゲームとのかかわり(7件)
- 子どもの友人、部活動の親との付き合い(4件) ● コロナでいろいろ制限がかかること(2件) ● 経済的負担(3件)
- SNSとの関わり方。 ● スマホの利用について。 ● 社会人として役にたつことができるのか。
- コロナがこのまま続き、大学に行ってもリモートでの大学生活になるのか。就職先があるのか。
- 社会のこと、安全性など(コロナによる)。 ● 社会の急激な変化に親が対応しきれない。
- 家庭が健全に機能しているのか、子がどう思い、どのように成長していくのか、希望と不安が等しくある。
- 時間の余裕がなくひとりひとりと接する機会が少ない。もっとしっかりと話を聞いてあげたい。
- 自身の仕事量が多く、一緒に過ごす時間が少ないのではないかと感じる。 ● 子どもの部活動のこと。
- やりたいことがあっても、やらせてあげることがなかなかできない。 ● 進路に関すること。
- 生活環境。子どもの数に対して部屋が少なく、夫の両親は片付けしないので家の荷物がかかり多く子ども部屋を作れないこと。 ● 子どもにひとり部屋を与えられないこと(経済的な理由)。 ● 自分の体調、母子家庭のため。
- 家族のもつ教育に対する考えが違いすぎて、子どもに接する時、意思統一を図れないこと。義父のしつけに一貫性がない。 ● 学校にいる時間が長すぎて、習い事やその他の行動の時間が少ない。
- 配偶者もとてもよく子育てをしていますが、それ以上にひとりである子どもたちの面倒をみなければ、なので疲れる。協力者が欲しい。 ● 担任との関係が悪い(子どもが)。 ● 学校や行事で使う物などの用意に時々困る。
- 子どもの学校生活について。自分の体調不良時の子どもの生活について。 ● 不登校。
- 学校に行きたくないと言い、部活動に全く行かなくなり休部していて心の病にかかり、病院に行って薬を飲んでる。
- 部活の時の送迎、休校の時はスクールバスがないので通信簿や内申に響く為。 ● 障害があるため。
- 自分に持病があり、思うように子育てができていないこと。 ● 障害があり夫婦で意見が合わないことがある。
- 夫(男手)がいないため、生活していく中で、不便さを常に感じる。 ● 子どもがひとりになってしまった時のこと。
- 自分(母)“もしもの時”の子どもの将来。 ● 自傷行為。 ● 母である私にべったりで依存的なこと。
- 特別支援クラス在籍なので、将来の職業、高校進学について。(ADHD)(学習障害)→読みづらい、書きづらい。

問14で「悩みや不安がある」と回答された方に対し、具体的な悩みや不安要素を聞いたところ、1番目は「子どもの勉強や進学のこと」が637人(36.3%)と最も多く、次いで、「子どものしつけやマナーのこと」が318人(18.1%)であった。2番目、3番目の回答を合わせると、「勉強や進学のこと」が1,169人(66.7%)で最も多いのに変わりはないが、「教育費のこと」が552人(31.5%)、「しつけやマナーのこと」が551人(31.4%)と、ほぼ同じ値で次いだ。

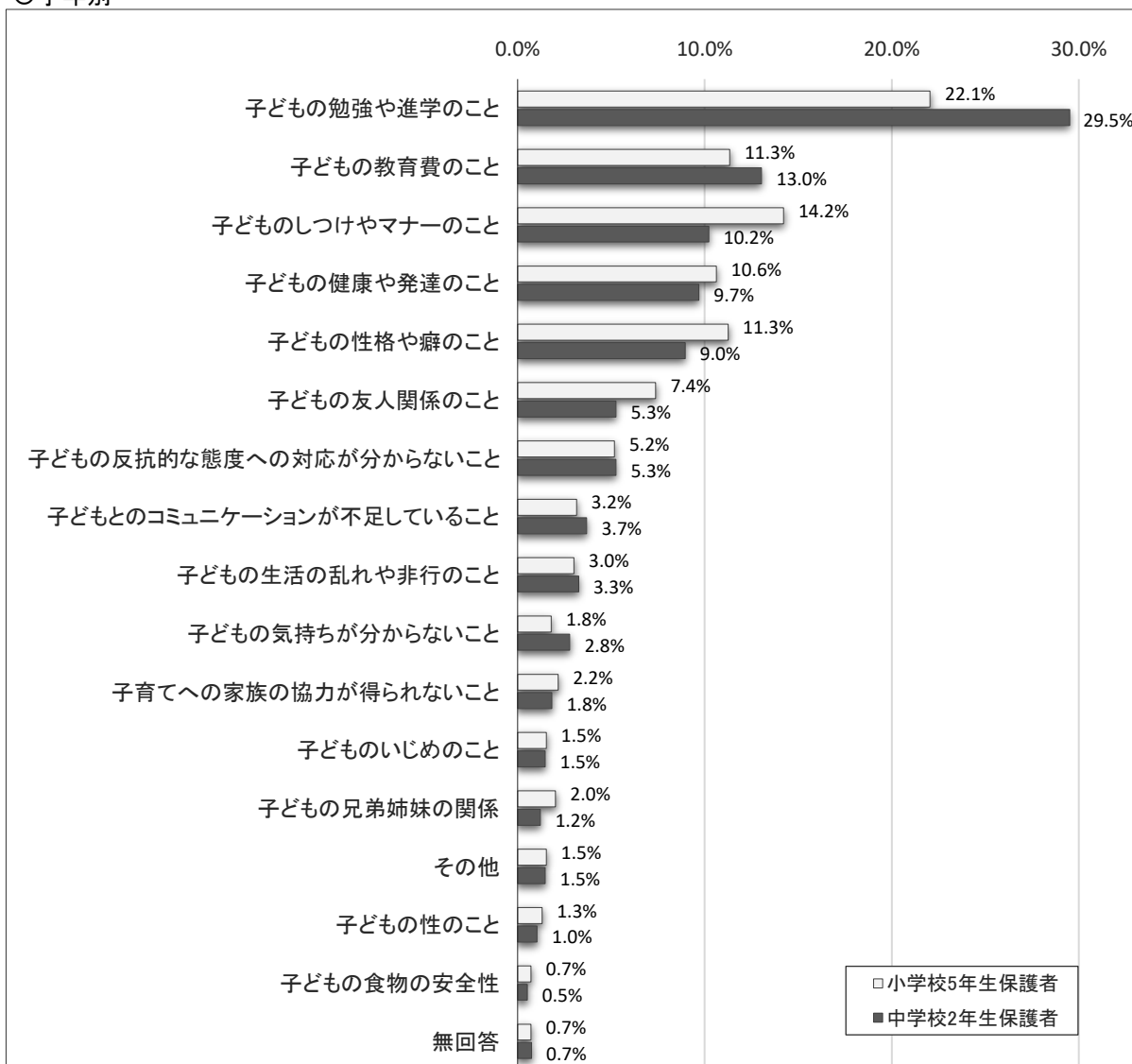
学年別の小学校5年生保護者では、「勉強や進学のこと」の22.1%に次いで、「しつけやマナーのこと」が14.2%であったが、中学校2年生保護者では、「勉強や進学のこと」が29.5%、「教育費のこと」が13.0%と次いだ。

家族形態別の「ひとり親家族」では、「勉強や進学のこと」に次いで、「教育費のこと」の回答が多くなっている。

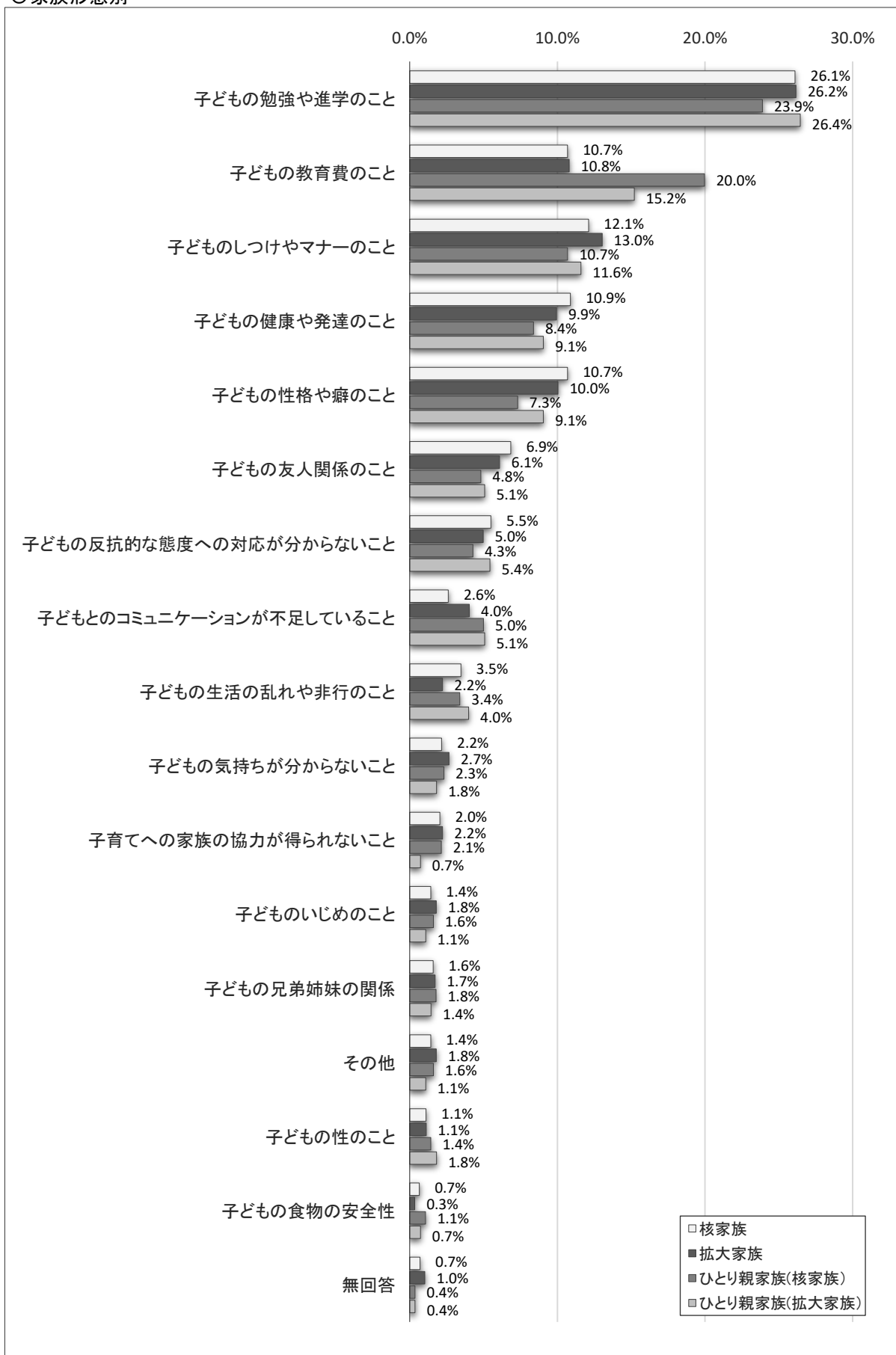
○性別



○学年別



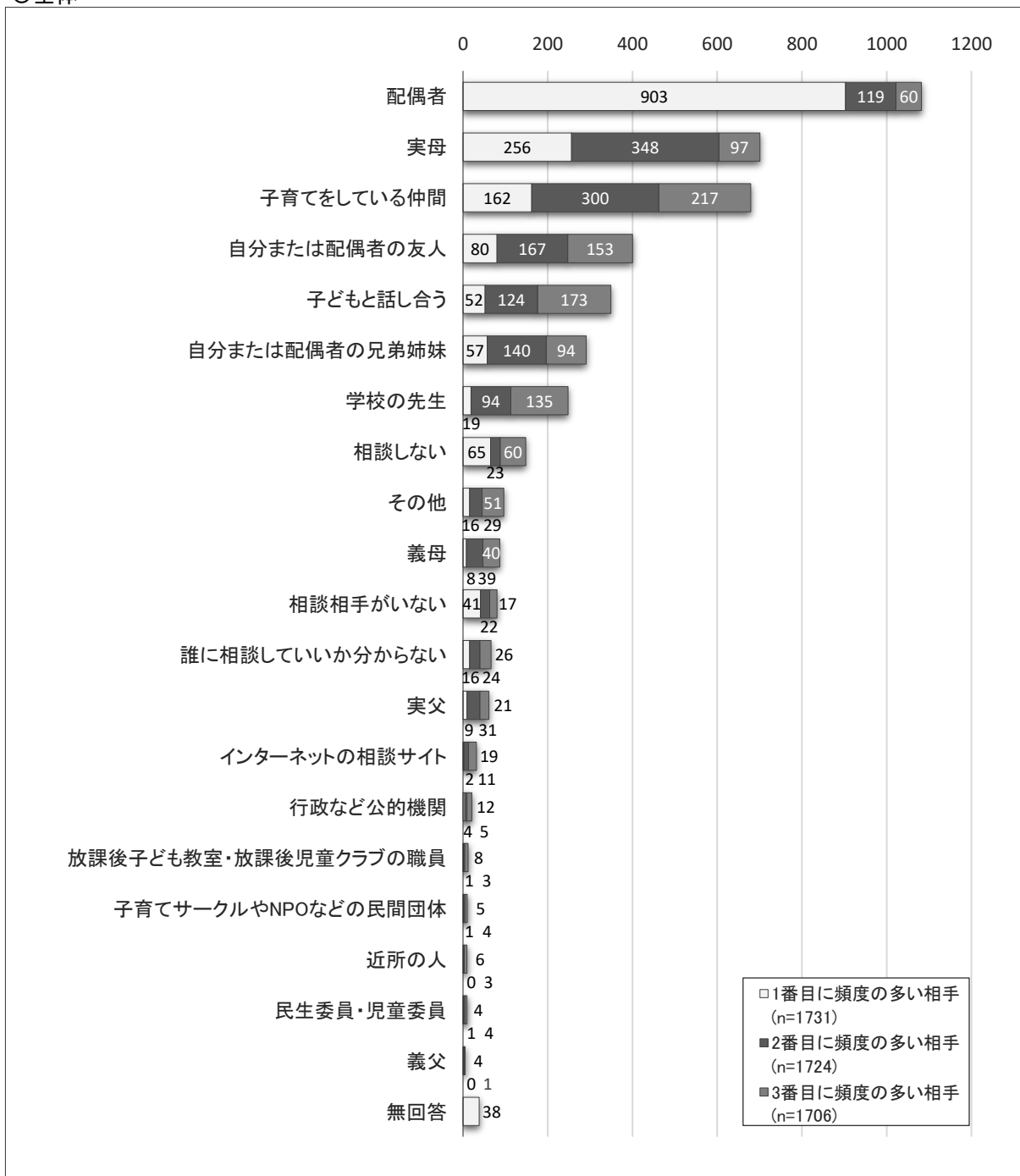
○家族形態別



性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」と「3番目」を合わせたものである。

問16 子育てについて悩みや不安があるとき、誰に相談するか

○全体

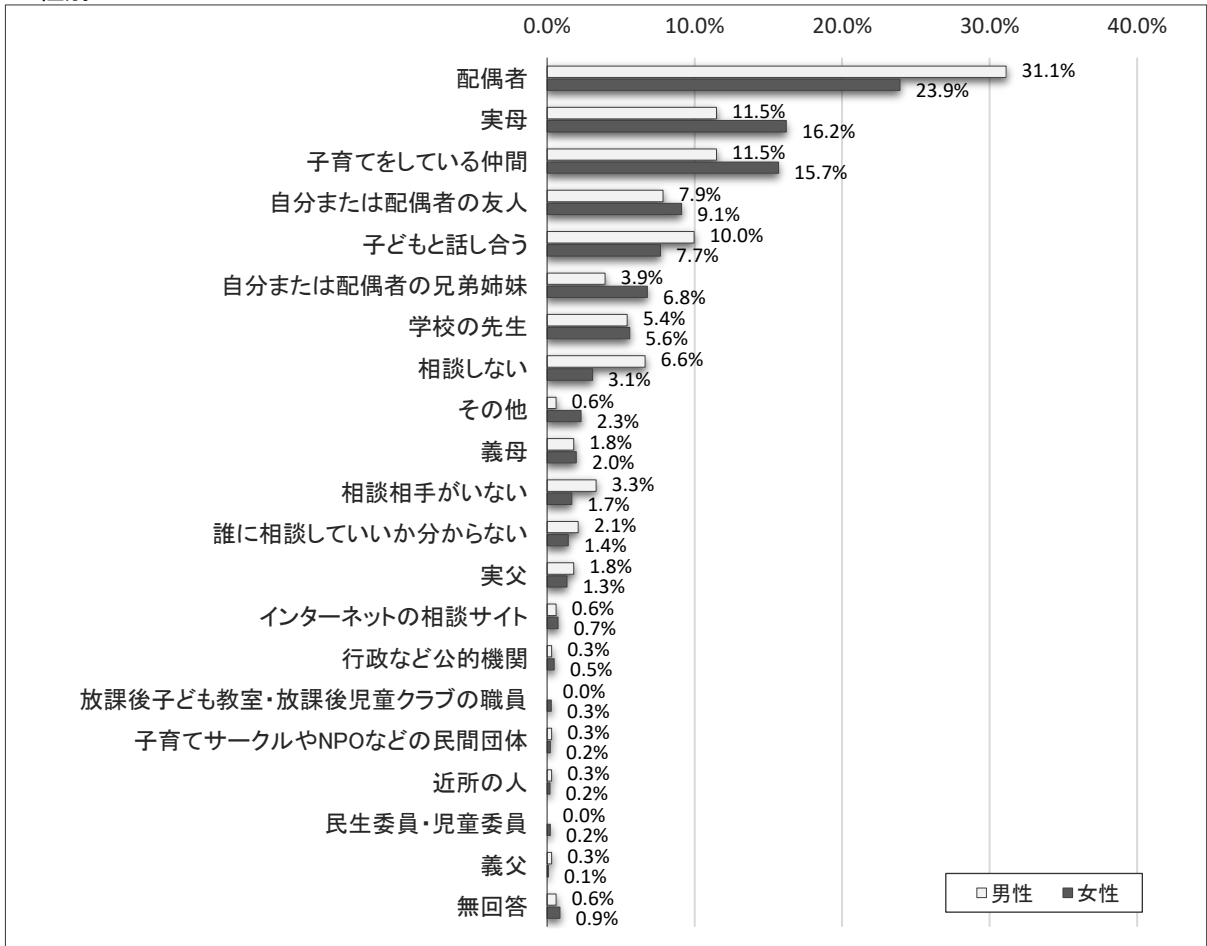


その他

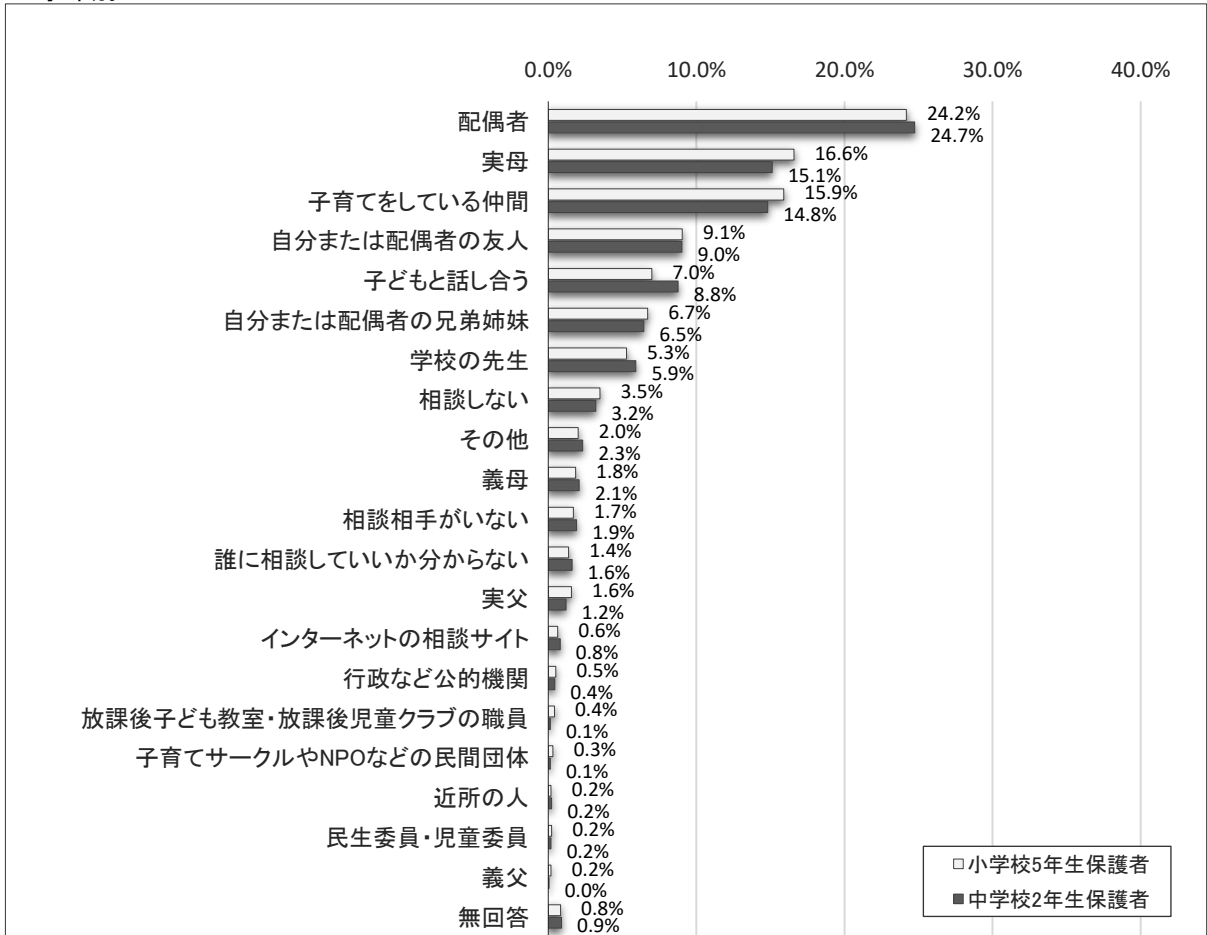
- 職場関係(37件) ●病院の先生(7件) ●友人(6件) ●自分の娘(4件) ●年上の子ども(4件)
- 放課後等デイサービス事業所(2件) ●病院のカウンセラー(2件) ●児相、警察、病院。
- SNSで直接の知人から解答をもらう(フェイスブックなど)。
- サイトで相談はしないけれど近い情報を探す。
- 読んで参考にする。 ●スクールカウンセラー。 ●スポ少を運営している町の協会員(バレーボール)。
- 兄弟。
- 親戚。 ●自分の姉、妹。 ●子どもの実母(娘)や実父(義息子)。

誰に相談する頻度が多いか聞いたところ、1番目は「配偶者」が903人(52.2%)で最も多く、「実母」が256人(14.8%)であった。2番目、3番目の回答を合わせると、「配偶者」が1,082人(62.5%)で最も多いのに変わりはないが、「実母」が701人(40.5%)、「子育てをしている仲間」が679人(39.2%)と、「実母」「子育てをしている仲間」に相談する割合が増えている。

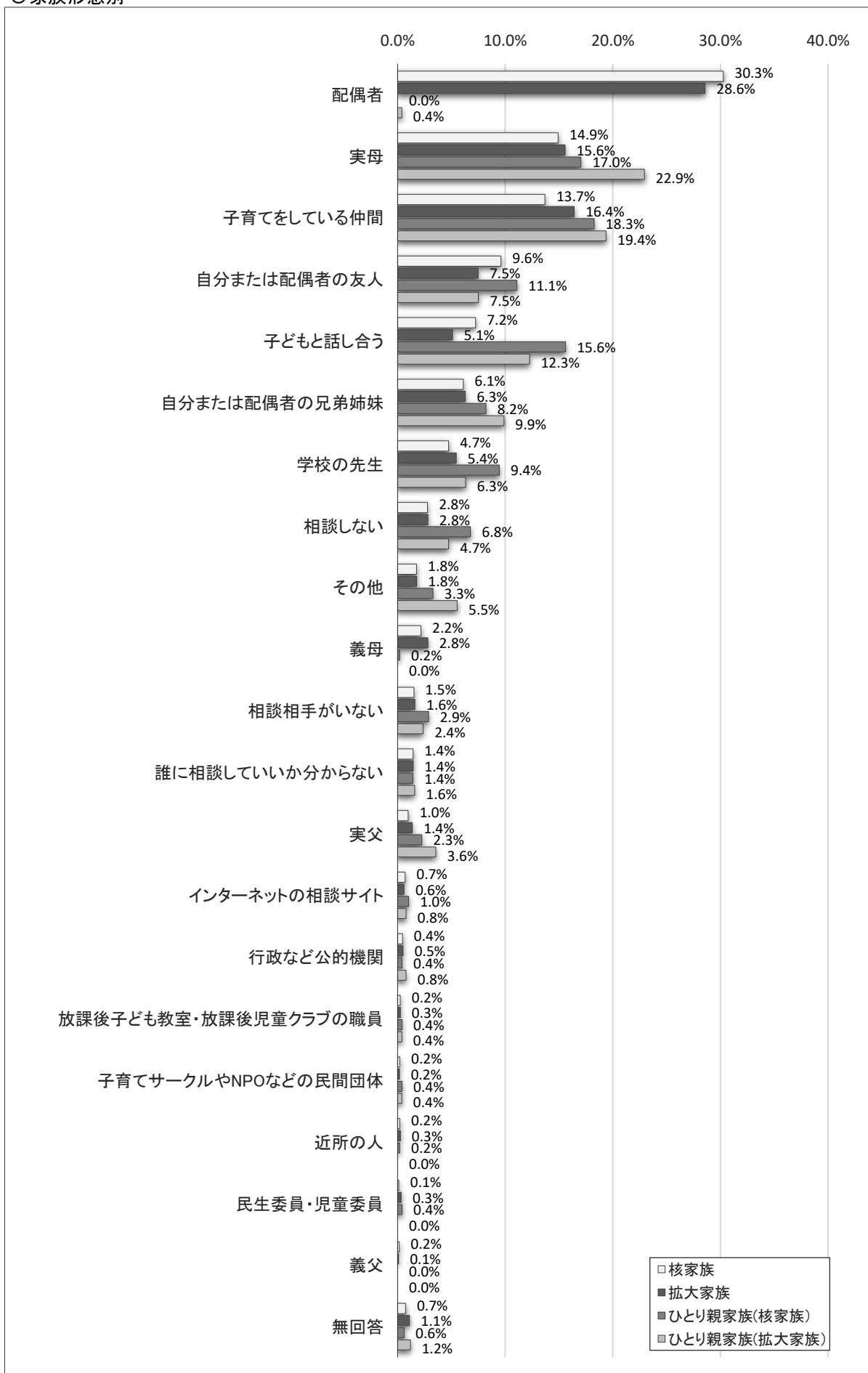
○性別



○学年別



○家族形態別

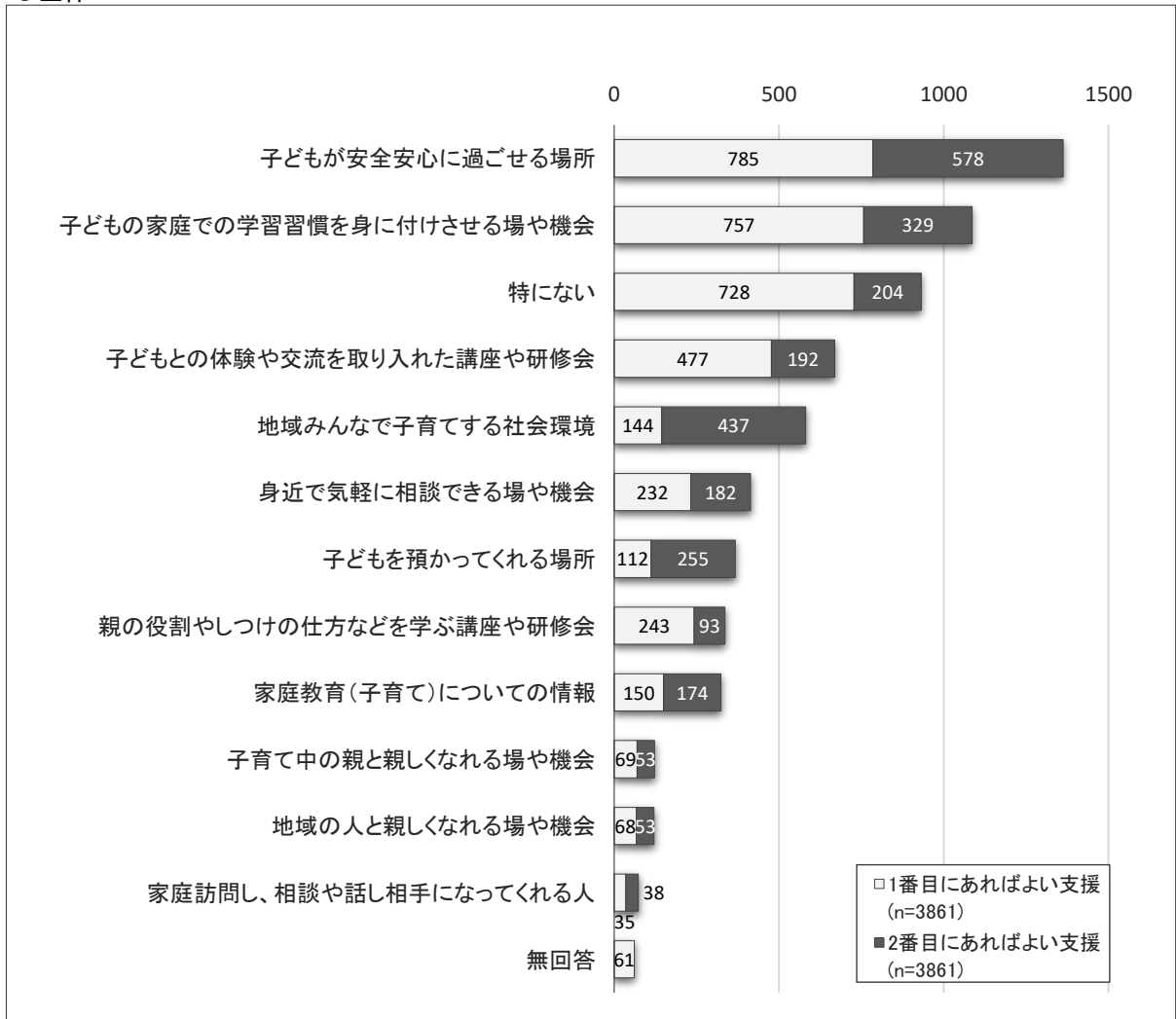


性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」と「3番目」を合わせたものである。

5 家庭教育(子育て)について

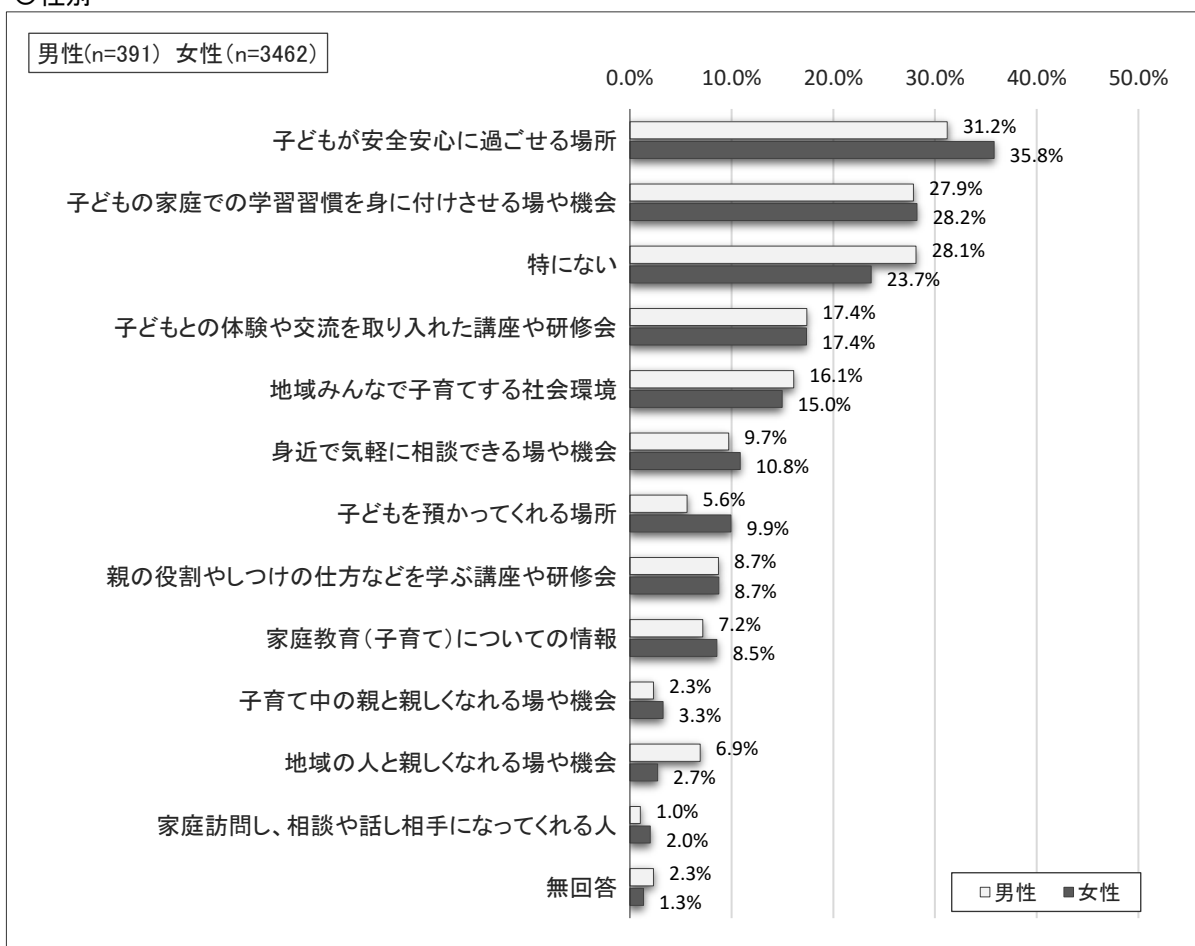
問17 どのような家庭教育(子育て)支援があればよいと思うか

○全体

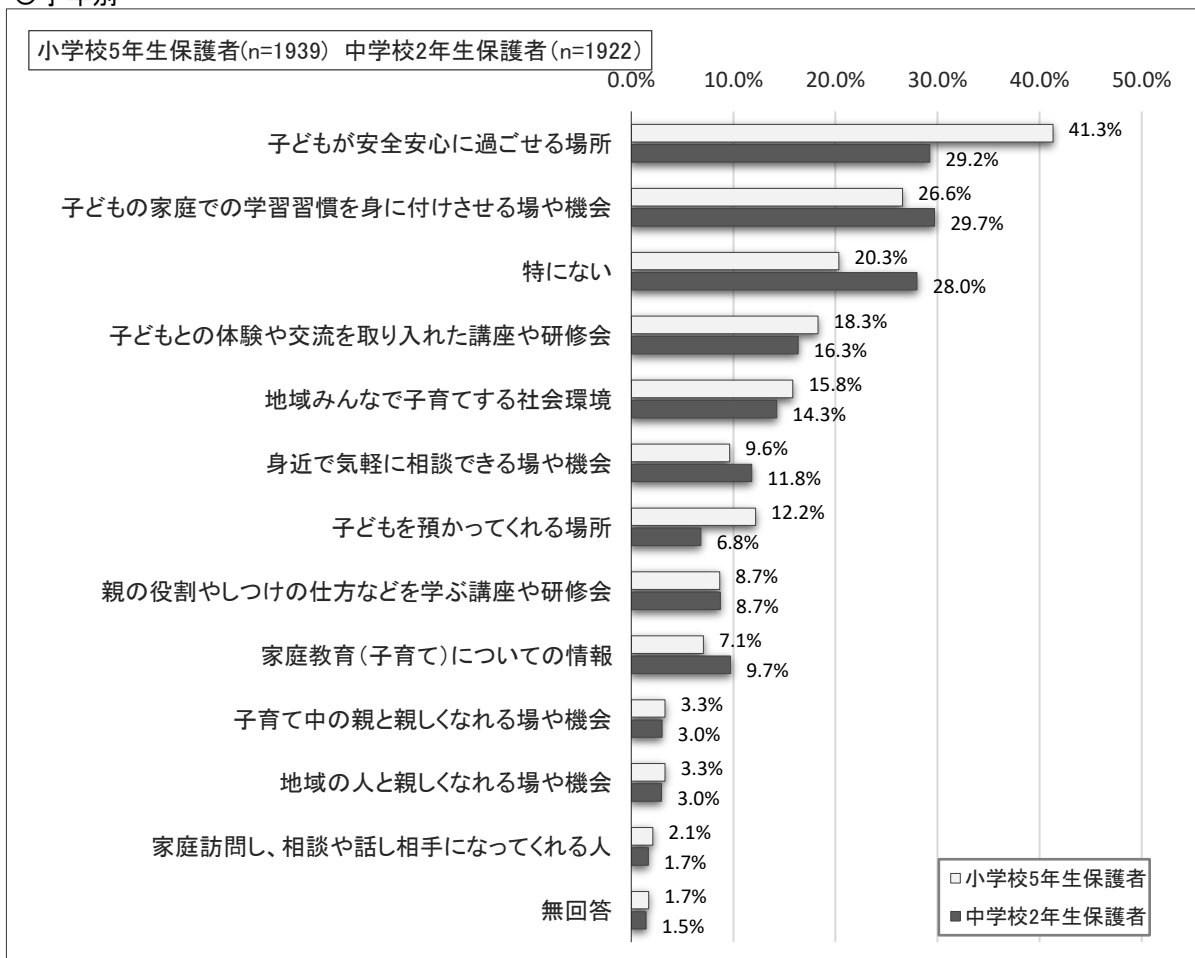


希望する家庭教育支援について聞いたところ、1番目は「子どもが安全安心に過ごせる場所」が785人(20.3%)で最も多く、次いで「子どもの家庭での学習習慣を身につけさせる場や機会」が757人(19.6%)であった。2番目を合わせても、違いは見られない。「特にない」という回答も2割強あった。

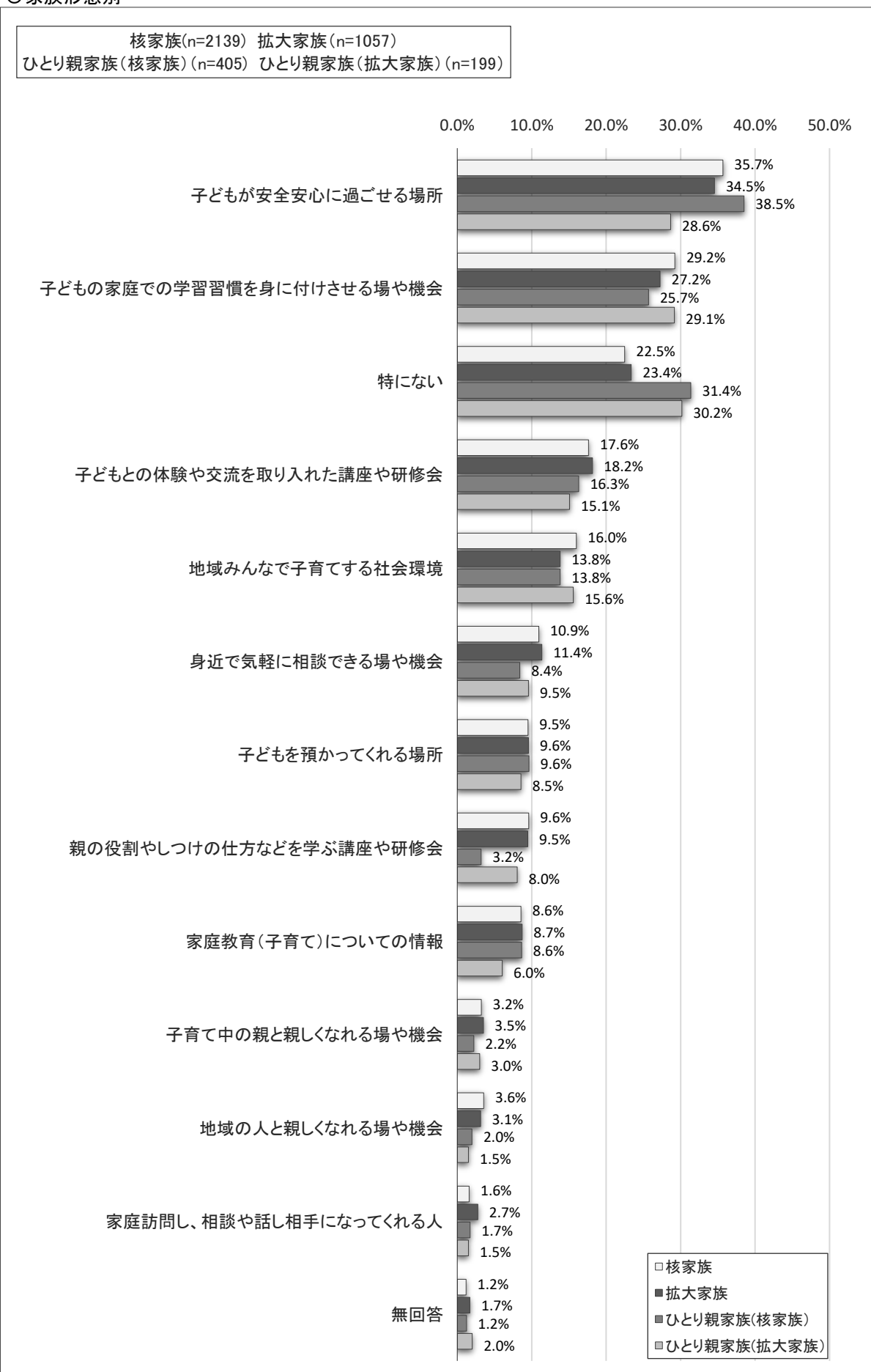
○性別



○学年別



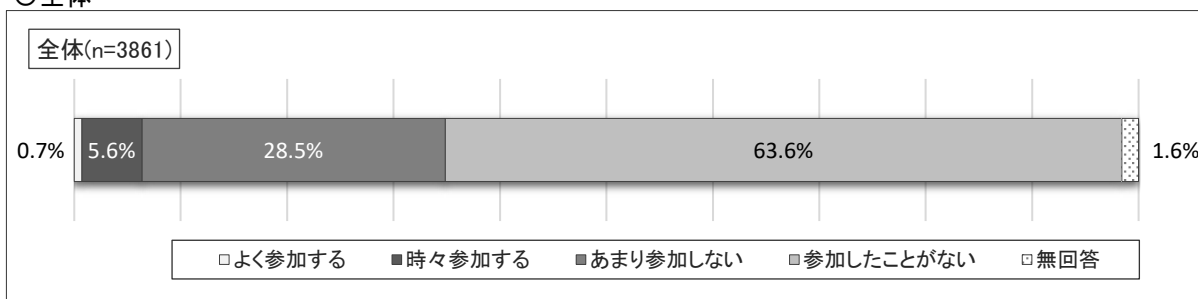
○家族形態別



性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」を合わせたものである。

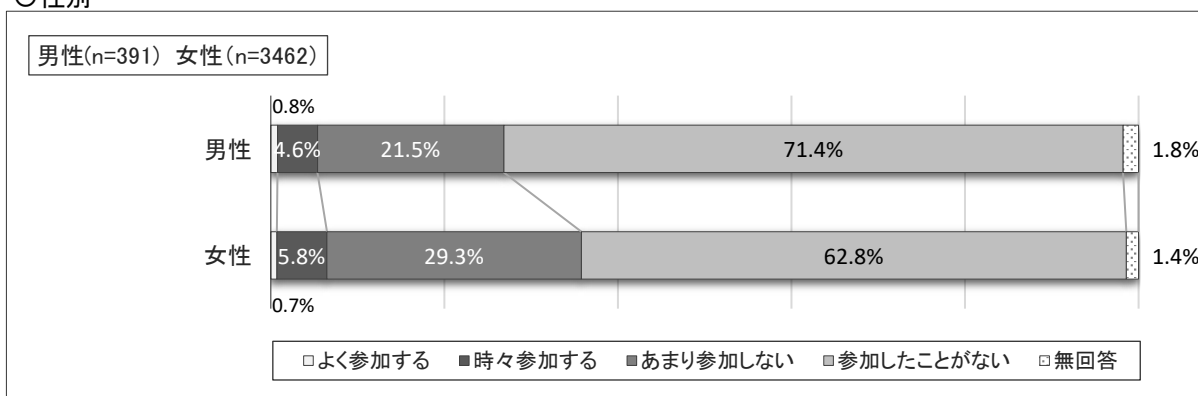
問18 家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加しているか

○全体

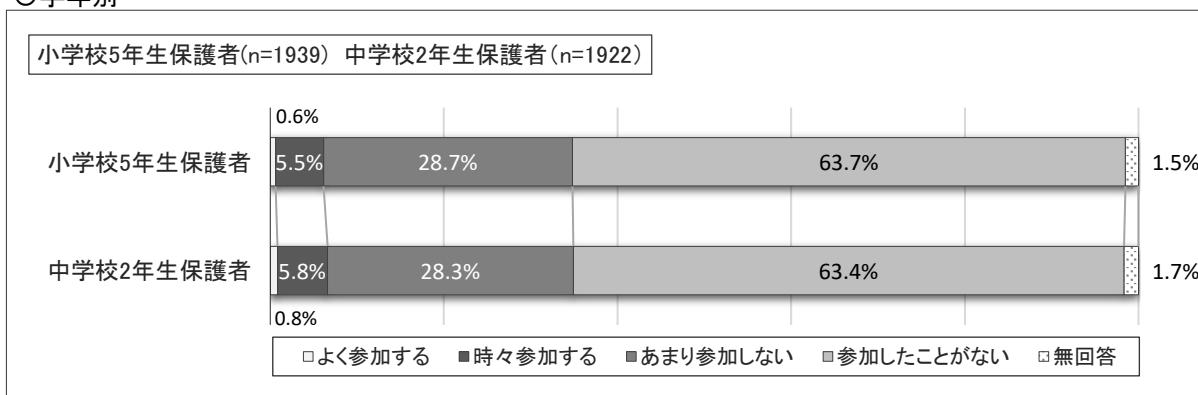


家庭教育に関する講座や研修会への参加を聞いたところ、「参加したことがない」が63.6%と最も多く、次いで、「あまり参加しない」が28.5%であった。

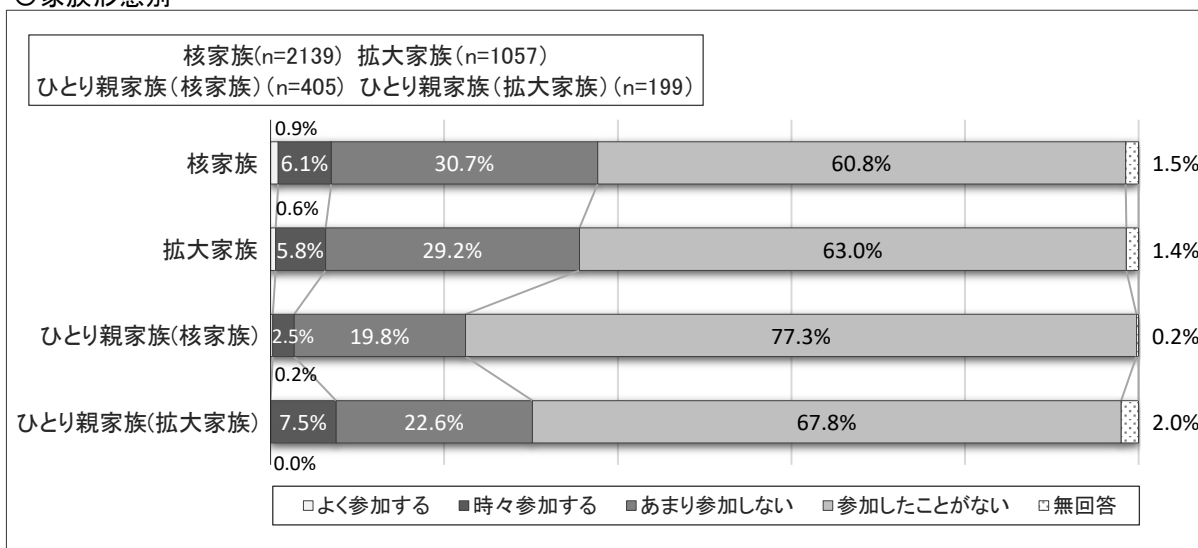
○性別



○学年別

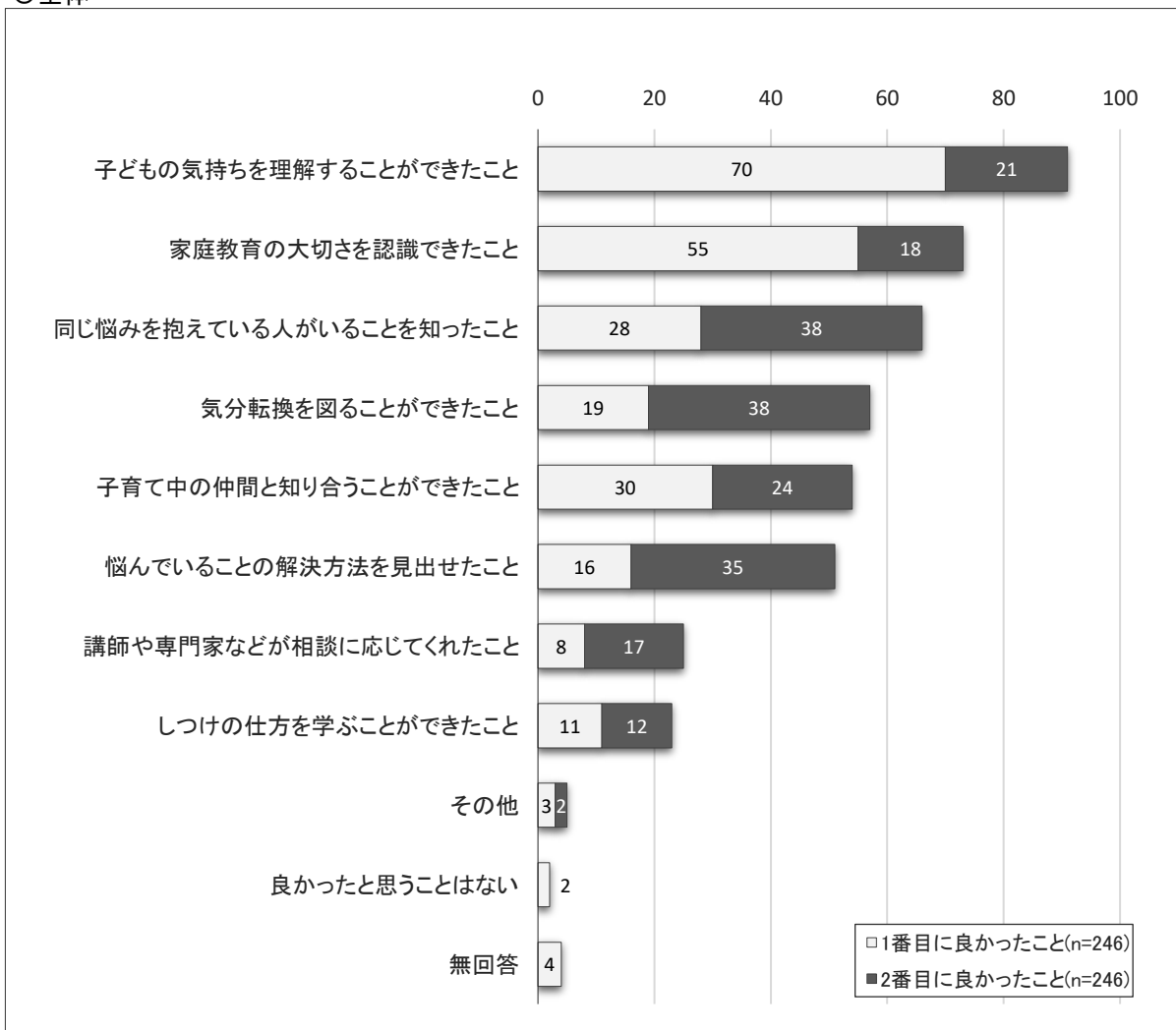


○家族形態別



問19 家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加してどのようなことが良かったか

○全体

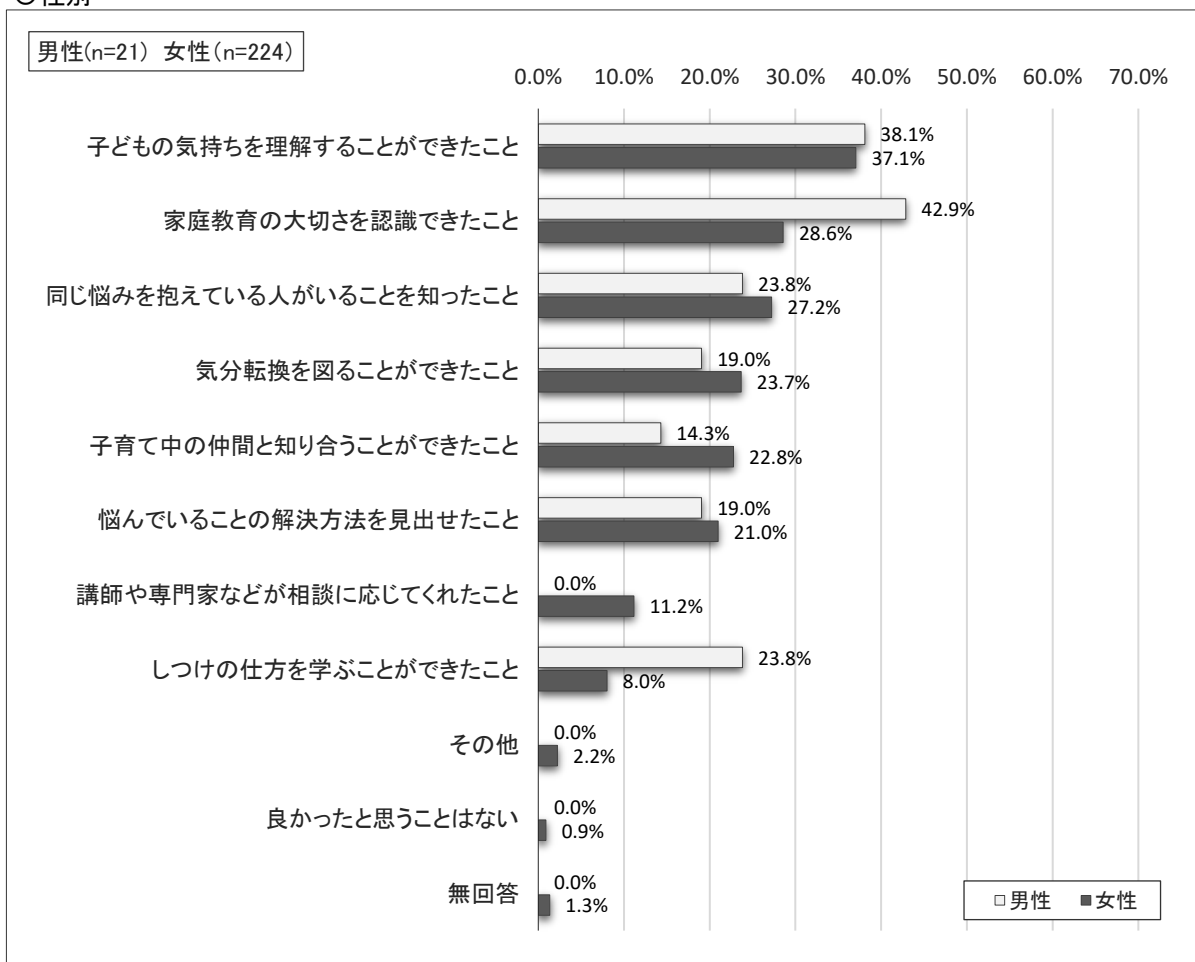


その他

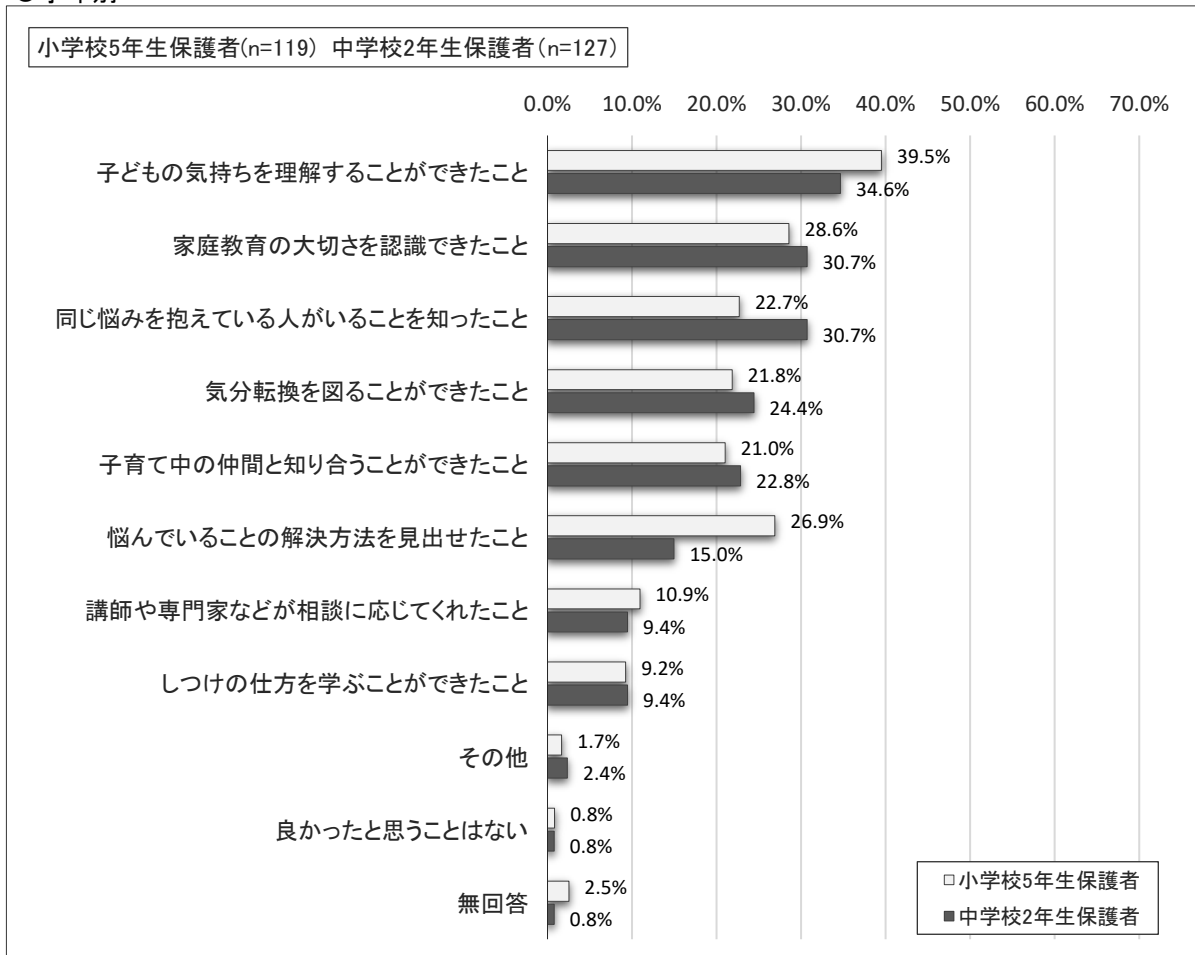
- 選択肢が増えた。考えが広がった。 ● 色々な考え方があると知れた。
- 自分が思っていることと同じ教育だったこと。 ● その時は良かったが、今それをいかせないのが残念。
- その研修で得たものを教育に役立てている。しかし、その考えが学校の先生と合わないこともあり、良かったとは言いきれない。 ● 県内の講師の方の話では、役に立たないことが多いため、県外の研修を受けることが多い。

問18で「よく参加する」「時々参加する」と回答された方に対し、参加して良かったことを聞いたところ、1番目は「子どもの気持ちを理解することができたこと」が70人(28.5%)で最も多く、次いで、「家庭教育の大切さを認識できたこと」が55人(22.4%)であった。2番目の回答を合わせると、「同じ悩みを抱えている人がいることを知ったこと」が続いた。

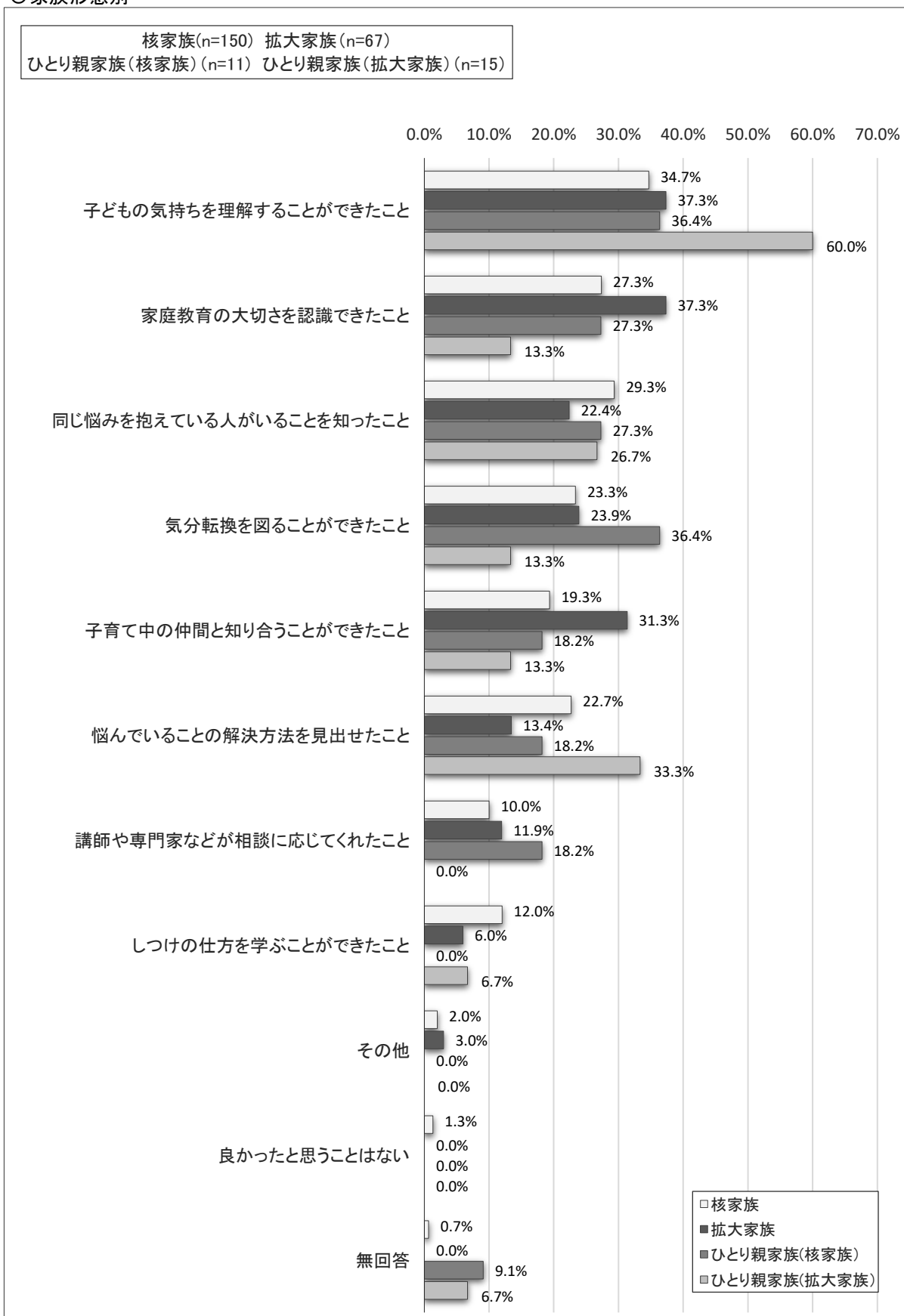
○性別



○学年別



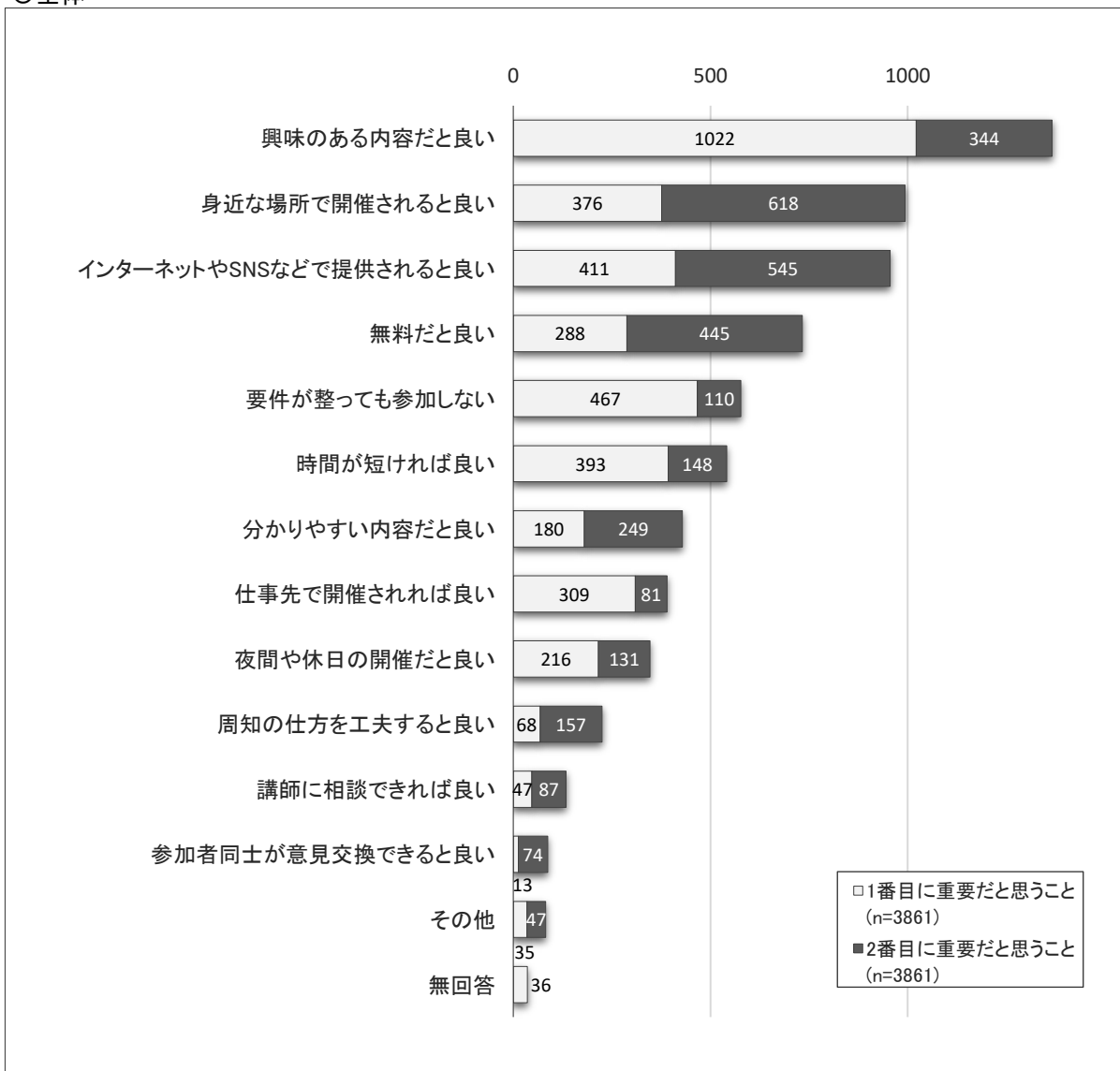
○家族形態別



性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」を合わせたものである。

問20 家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加しやすくなるため、どのようなことが重要か。

○全体

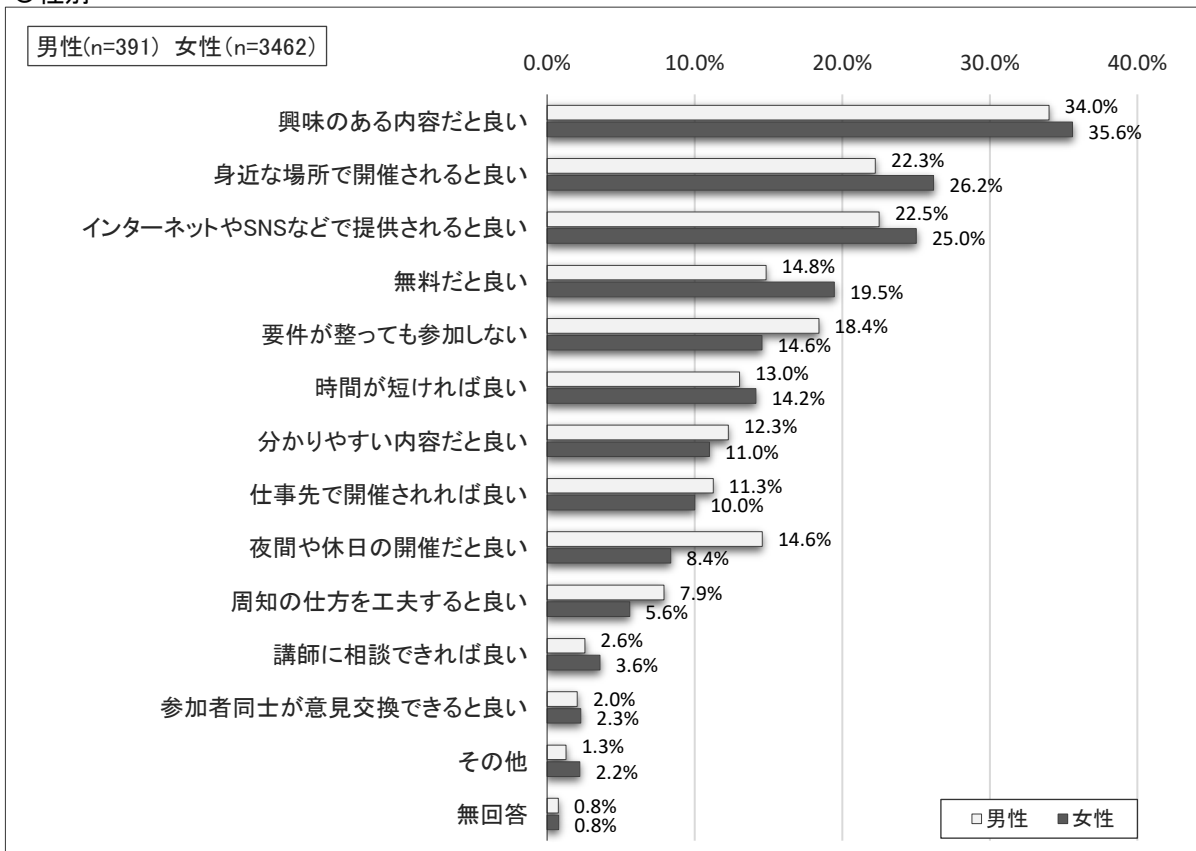


その他

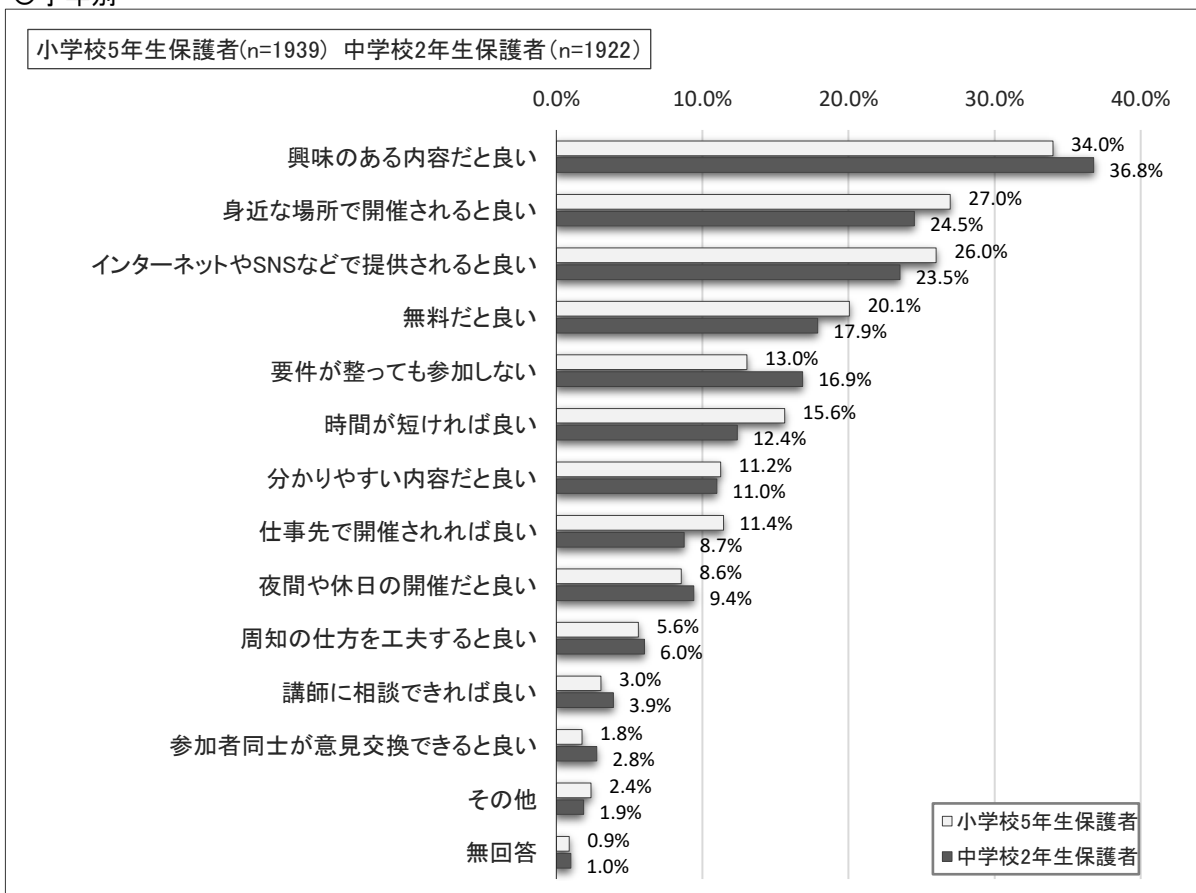
- 仕事、家事などで時間が確保できない(8件) ●子どもと一緒に参加(6件)
- 小さな子どもを預かって欲しい(5件) ●参観日などの学校行事の時にやって欲しい(3件)
- 講座や研修会があるのが分からない(2件) ●仕事を休むと減給されるため参加しにくいです。
- 大勢ではなくひとりひとり家庭で話ができるシステム。いろいろな人がいる中で自分の意見を言うのは難しい。
- リモートにしてもらうととても助かる。 ●自由な時間にどこでも見られる。
- よっぽど魅力的な講師でなければ興味がわかないかもしれません。 ●コロナなので参加はできない。
- 講座などはきれいごとばかりなので、違う形で子育ての支援して欲しいです。
- 参加したいと思った方がされたいと思ったから。子育ては親が思うようにはなかなか・・・。
- 私はシフト制の仕事なので急な予定は変更しにくい。そのため、1ヶ月以上前からの告知があればよい
- 開催日時が、早く分かるようになると助かります。休みがいただけないので。 ●参加しやすい環境。
- 開催日が複数(曜日違い)があると参加できる日があるかも。 ●自分の仕事が休みの平日だと良い。
- 職場で開催することで子育てに対して周囲の人々も理解できて、仕事がしやすくなる。仕事と子育ての両立に協力できる環境作りがあってのものだと思う。 ●農家なので参加しやすいように義両親の理解。
- 上の子達の時に参加して来たのでもう余り参加しなくても良いと思っています。
- なかなか、研修のために仕事を休むことは難しいので、社会全体が子育て中の親が休日取得しやすかったりしないといけない。 ●仕事を休んでも気負うことなく参加できるように、子どもの年齢で、10才の子どものいる保護者は義務参加みたいな・・・雇用者は仕事を休ませて参加させなければいけないみたいな、対象者は義務的に参加するような仕組みになればいいと思う。 ●講座、研修会に行くと子どもとの時間がさらになくなる。
- 送迎して欲しい。またはバスの時間に合わせて欲しい。 ●とつきやすさ、参加に対する敷居が下がると良い。
- 子育てに関心がない親が子育てに対して自覚を持つような呼び掛けがもっと必要と考える。
- 自分で図書館に行き情報を集めたり、友達と話せているので講習会への参加は不要だった。
- 心の余裕、時間の余裕、金銭的な余裕が無いため、何かに参加して他人に気を遣おうとは思えない。
- 「子育ては女がするもの」という男の気持ちを改善するもの。
- 産院での母親教室のように男性にも父親教室を義務化するべき。協力して分担して・・・とは思わないが何が起きて何が起こるのか知らない父親ばかりだと思う。 ●行政等のしがらみのない講師選定をして欲しい。
- ネットで分かる内容や誰でも分かっているような内容を、パワーポイントの資料でただ読んで話すだけの講座は必要ないと思う。大体、誰でもわかることを言っているだけのような気がする。 ●興味なし。 ●ない。

参加しやすくなるために重要なことを聞いたところ、1番目は「興味のある内容だと良い」が1,022人(26.5%)、次いで、「要件が整っても参加しない」が467人(12.1%)であった。2番目の回答を合わせると、「興味のある内容だと良い」が1,366人(35.4%)で最も多いのに変わりはないが、次いで、「身近な場所で開催されると良い」が994人(25.7%)、「インターネットやSNSで提供されると良い」が956人(24.8%)であった。

○性別

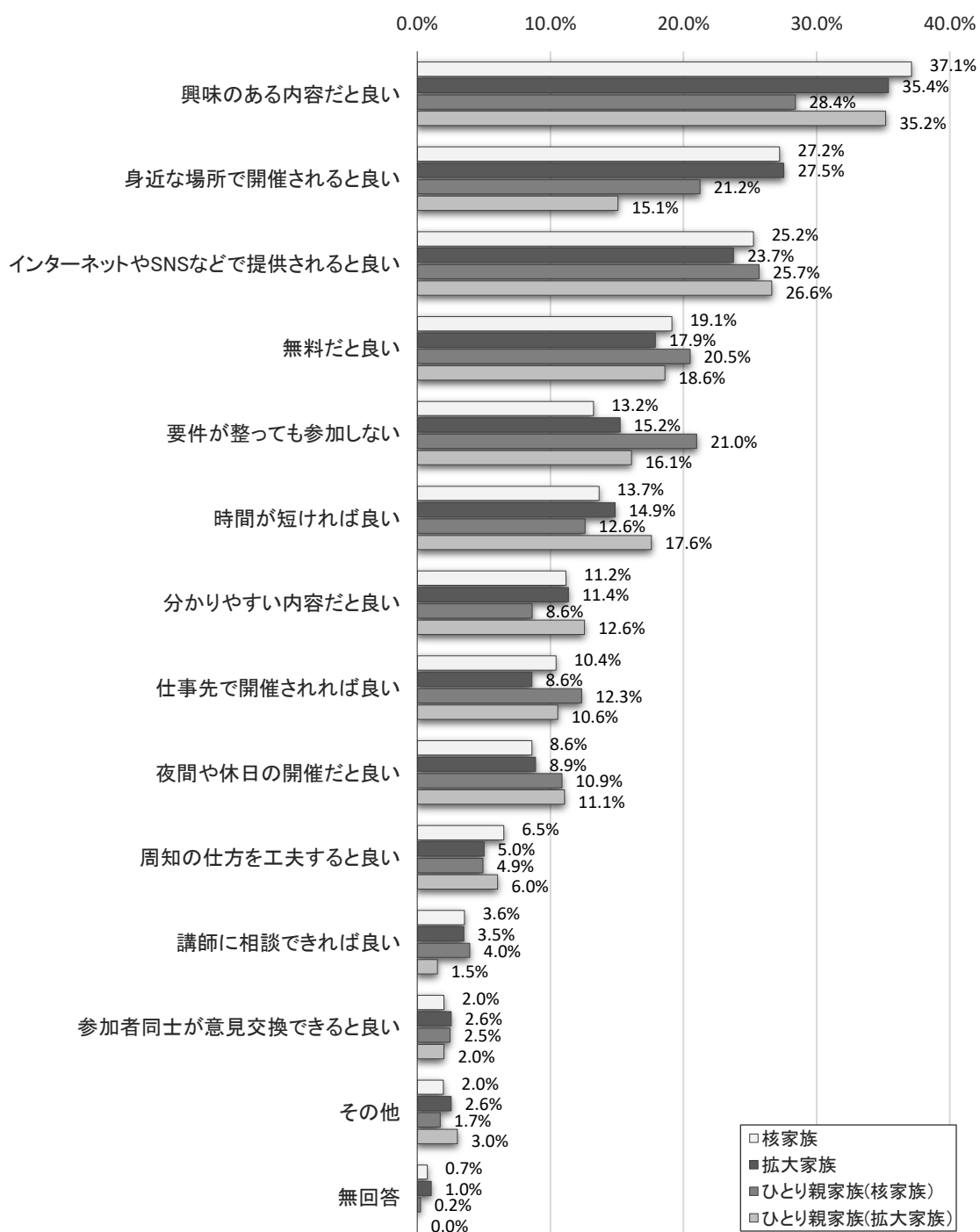


○学年別



○家族形態別

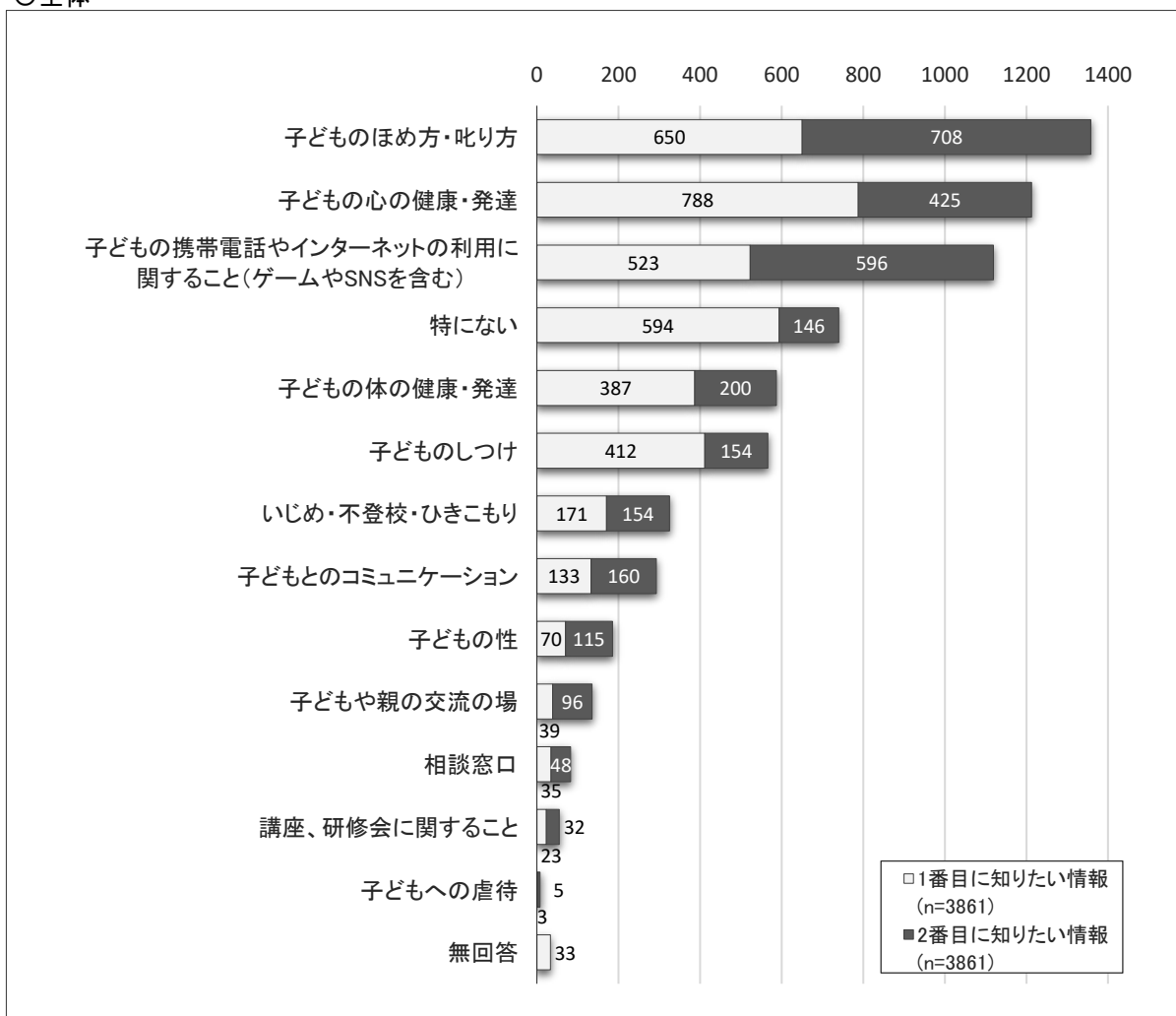
核家族(n=2139) 拡大家族(n=1057)
ひとり親家族(核家族)(n=405) ひとり親家族(拡大家族)(n=199)



性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」を合わせたものである。

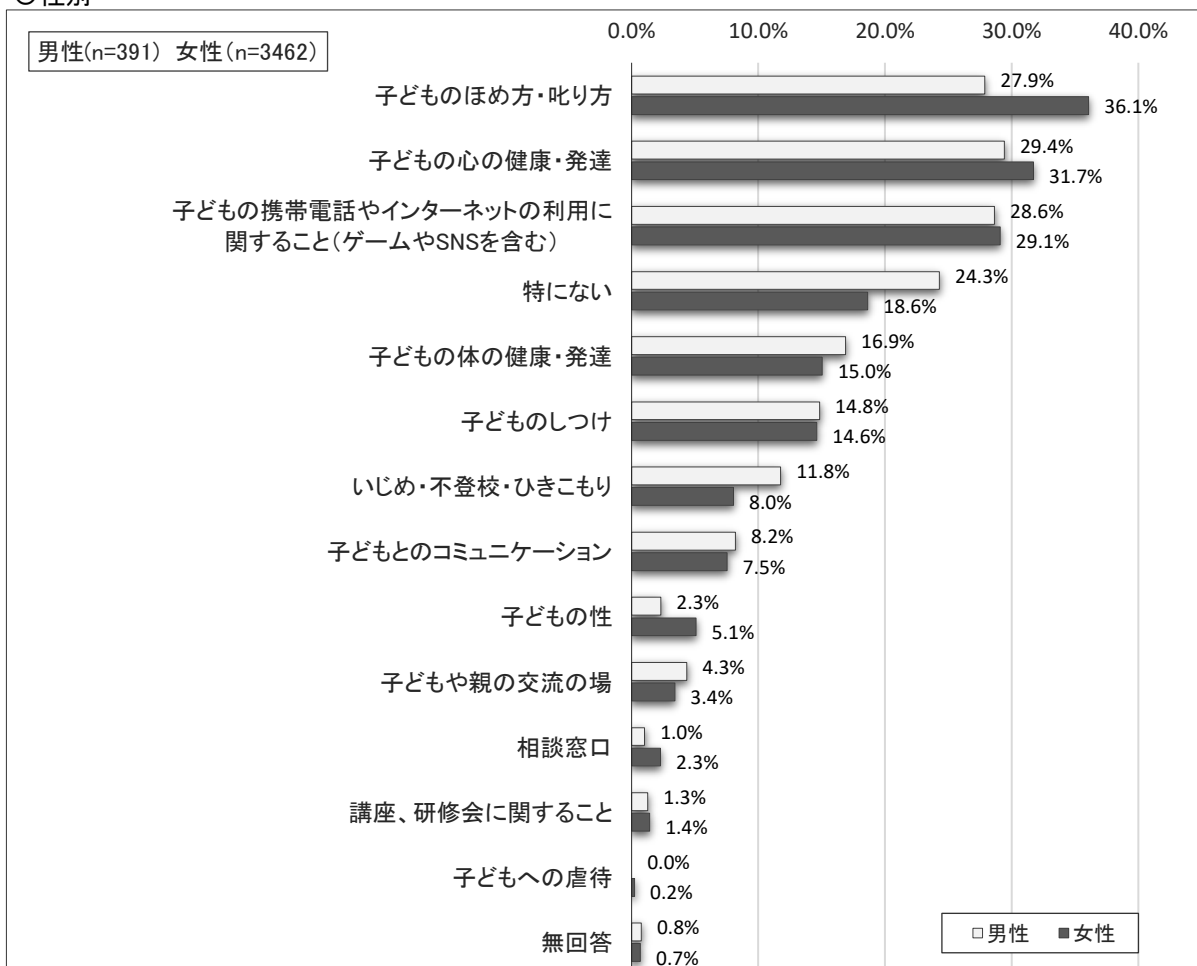
問21 家庭教育(子育て)について、知りたい情報はどんなことか。

○全体

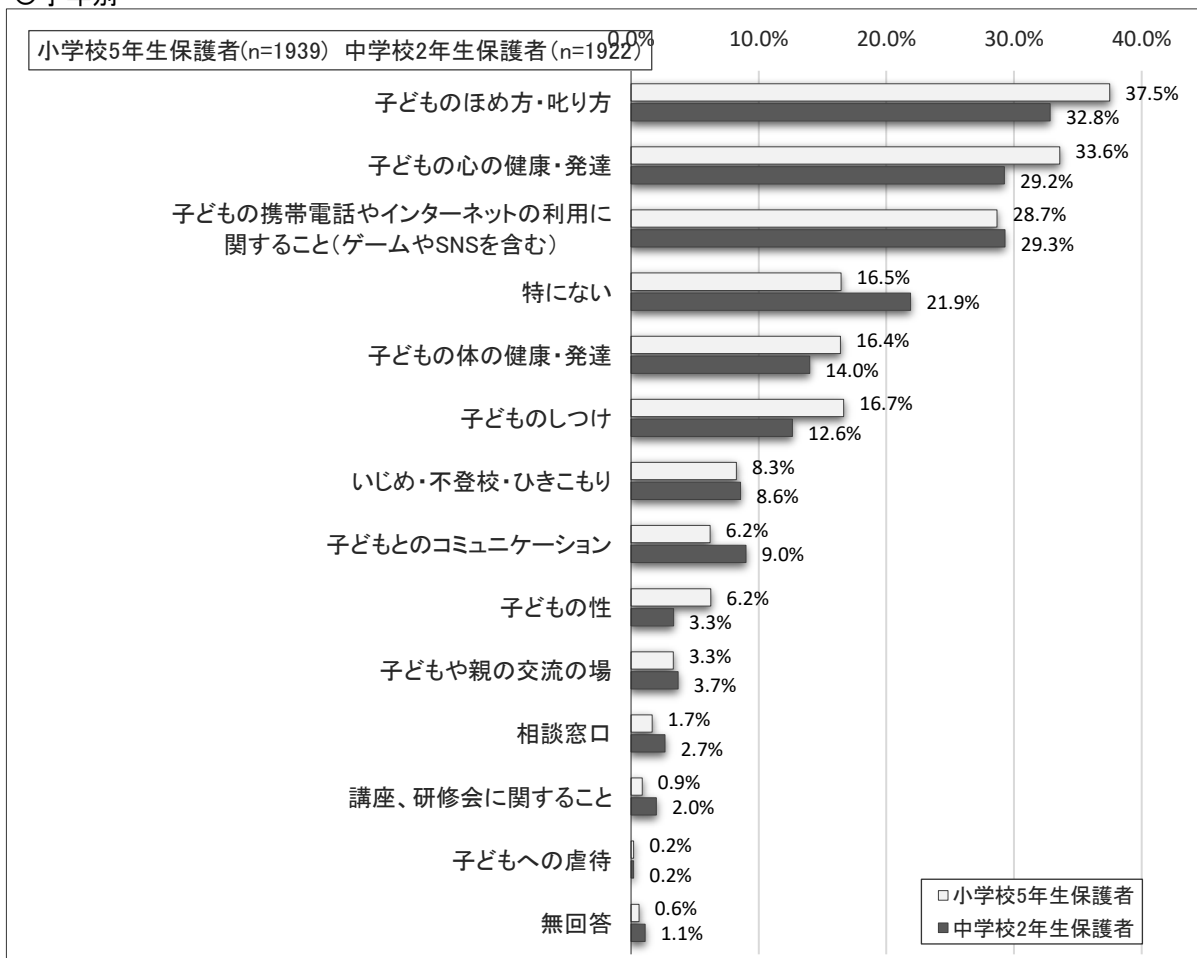


家庭教育について知りたい情報を聞いたところ、1番目では「子どもの心の健康・発達」が788人(20.4%)で最も多く、次いで、「子どものほめ方・叱り方」が650人(16.8%)であった。2番目の回答を合わせると順位が入れ替わり、「ほめ方・叱り方」が1,358人(35.2%)、「心の健康・発達」が1,213人(31.4%)であった。

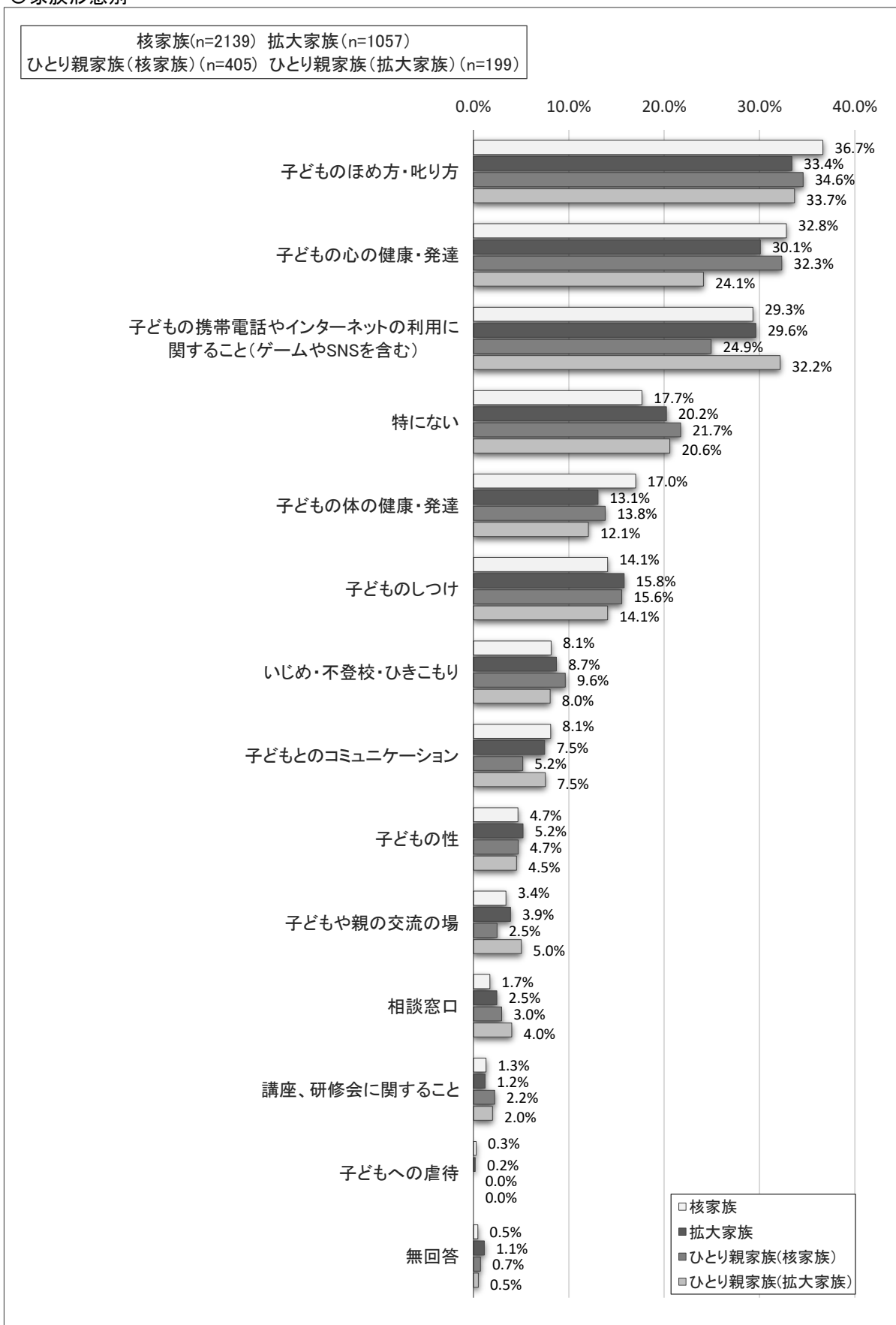
○性別



○学年別



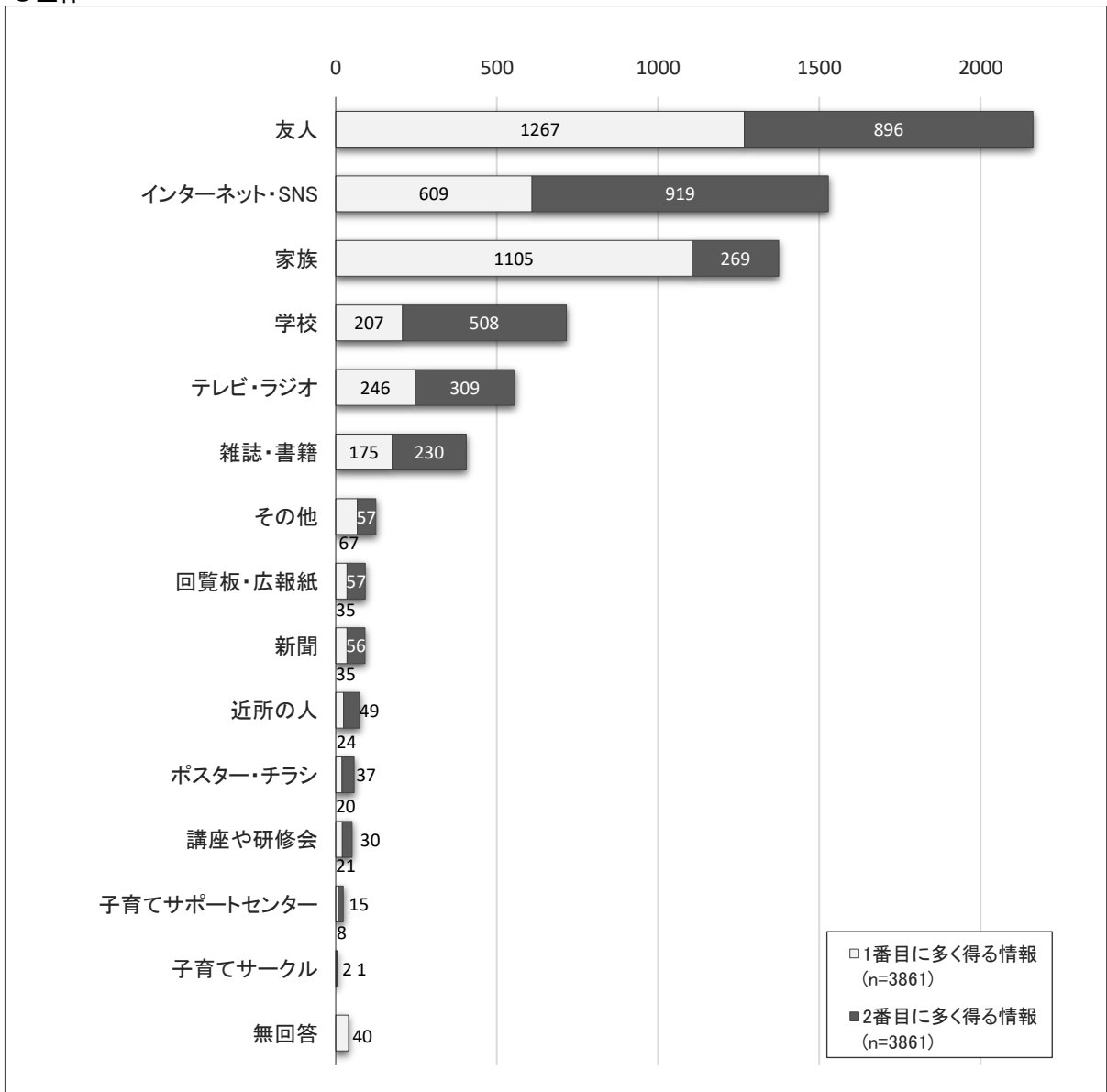
○家族形態別



性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」を合わせたものである。

問22 家庭教育(子育て)について、知りたい情報は誰から得ているか

○全体

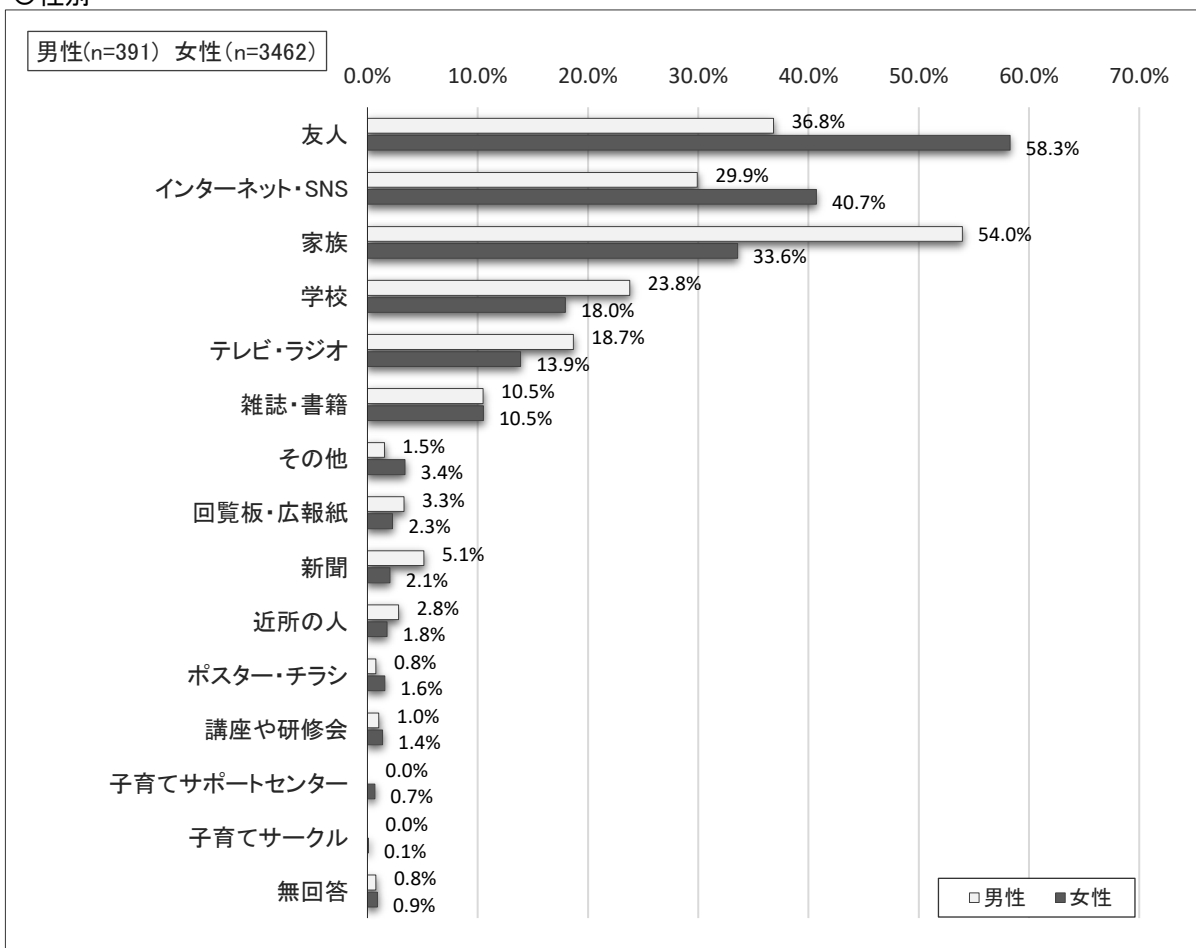


その他

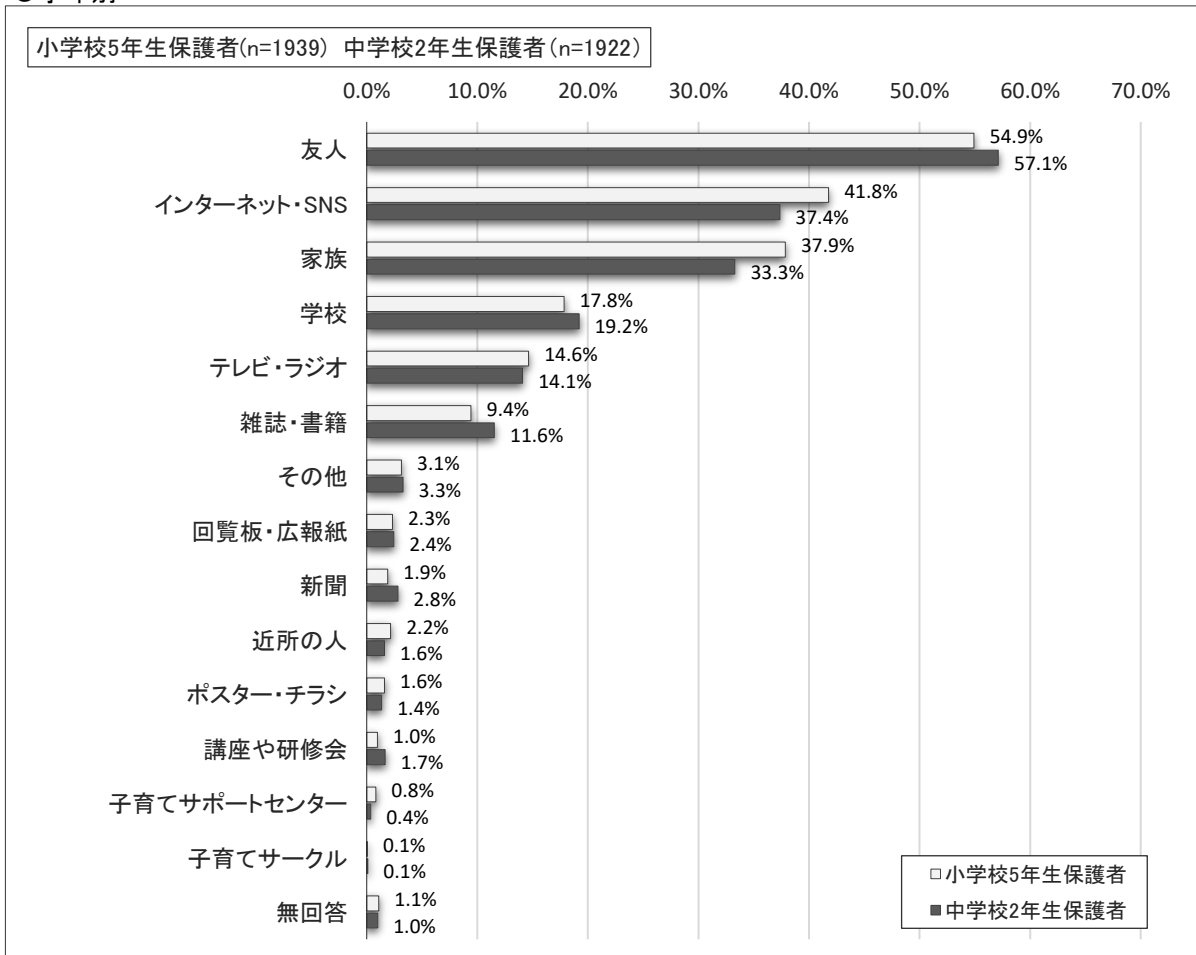
- 職場関係(24件) ●職場で学んだこと(3件) ●兄弟姉妹(2件) ●スクールカウンセラー。
- 子どものカウンセラー。 ●ベネッセ・中学講座。 ●放課後等デイサービス。 ●県立学校。
- 小学校や保育園。 ●長男の保育園。 ●子どもの同級生ママ友、先輩ママ友。
- 子どもの同じ学年のお母さん(部活が一緒に、上のお子さんがいるお母さんなど)。
- 自分の両親。 ●近くに住んでいる実母。 ●兄弟姉妹。 ●今までの経験。 ●仕事から子育ては専門なので。
- 子どもがお友達の様子を話してくれたりすることにより。
- 子育ては家庭環境によって異なるので、多情報はあてにならないし、いらぬ。 ●自分で考える。
- 得ることはない。 ●特に調べようと思う事はない。 ●特にない(2件)

家庭教育についての情報を誰(何)から得ているか聞いたところ、1番目は「友人」が1,267人(32.8%)と最も多く、次いで、「家族」が1,105人(28.6%)であった。2番目の回答で最も多いのは、「インターネット・SNS」が919人(23.8%)で、1番目と2番目を合わせると、「友人」「インターネット・SNS」「家族」の順であった。

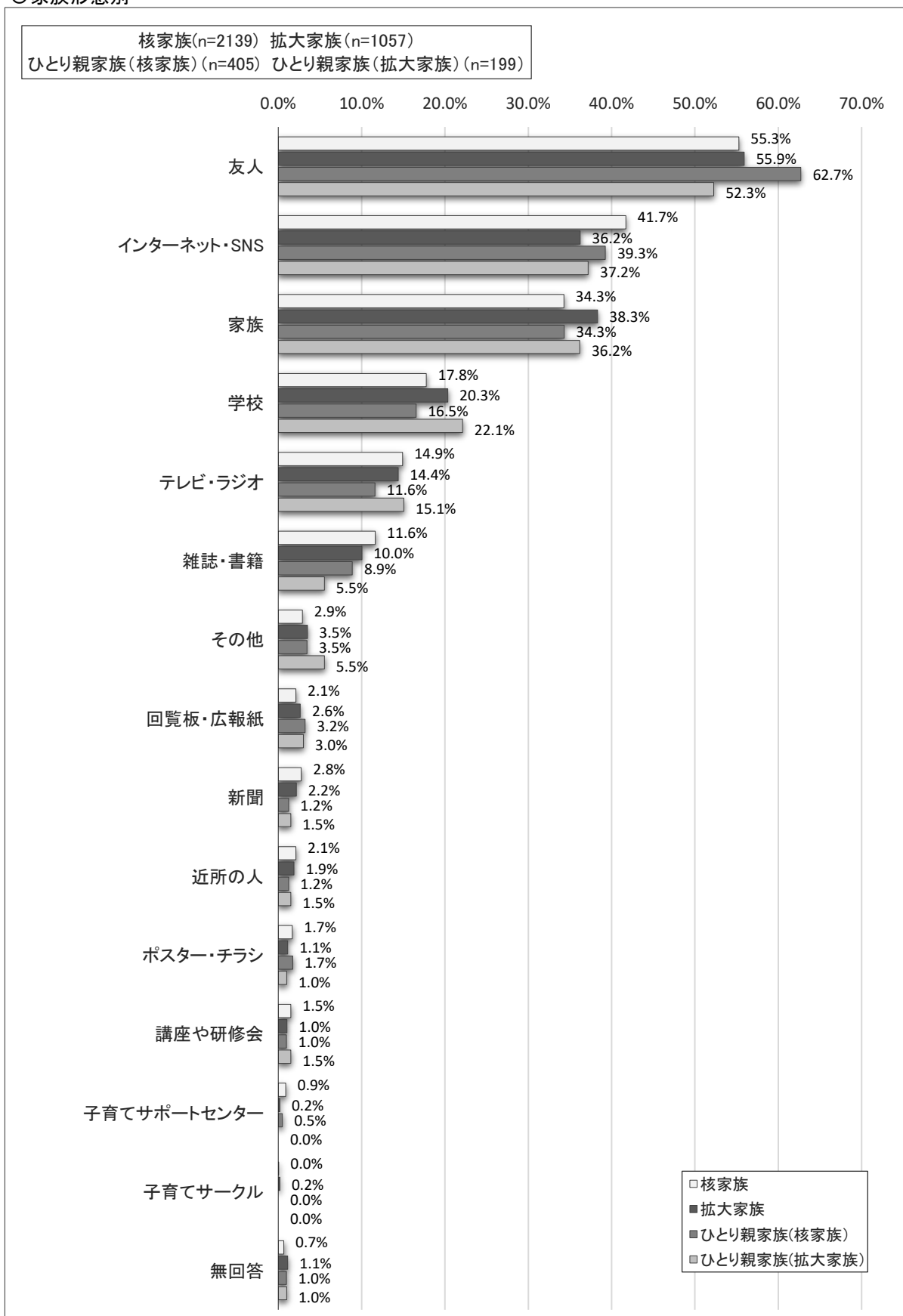
○性別



○学年別



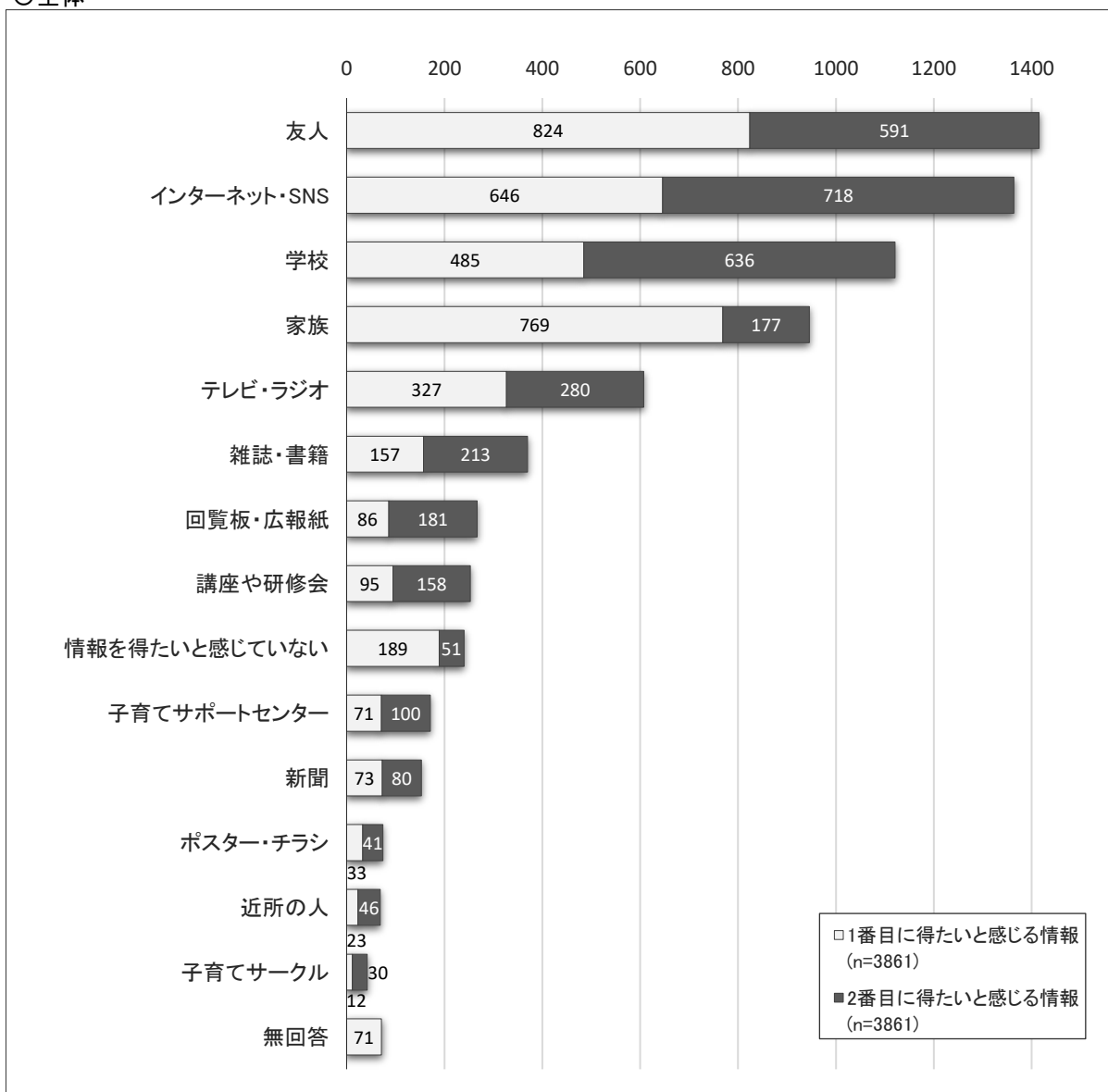
○家族形態別



性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」を合わせたものである。

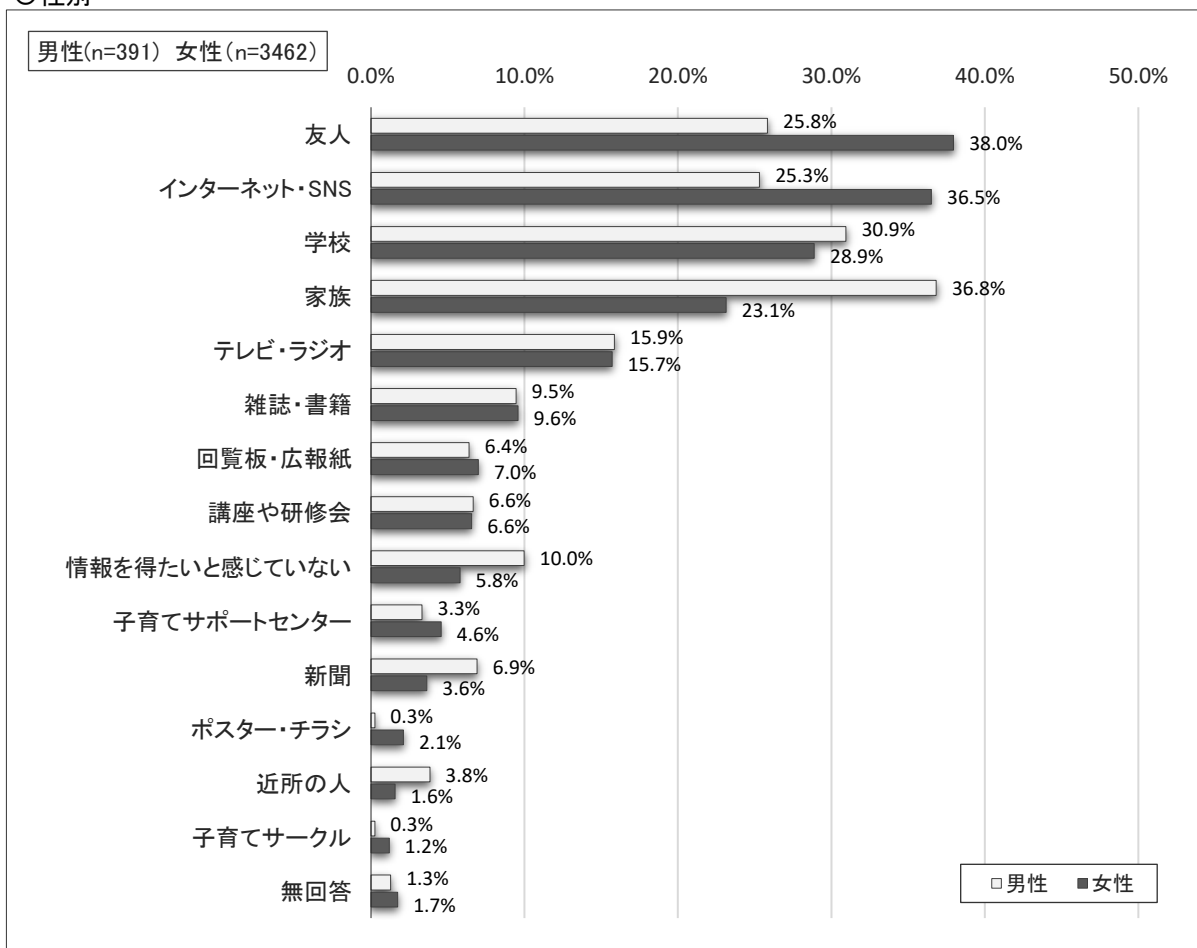
問23 家庭教育(子育て)について情報を誰(何)から得たいか

○全体

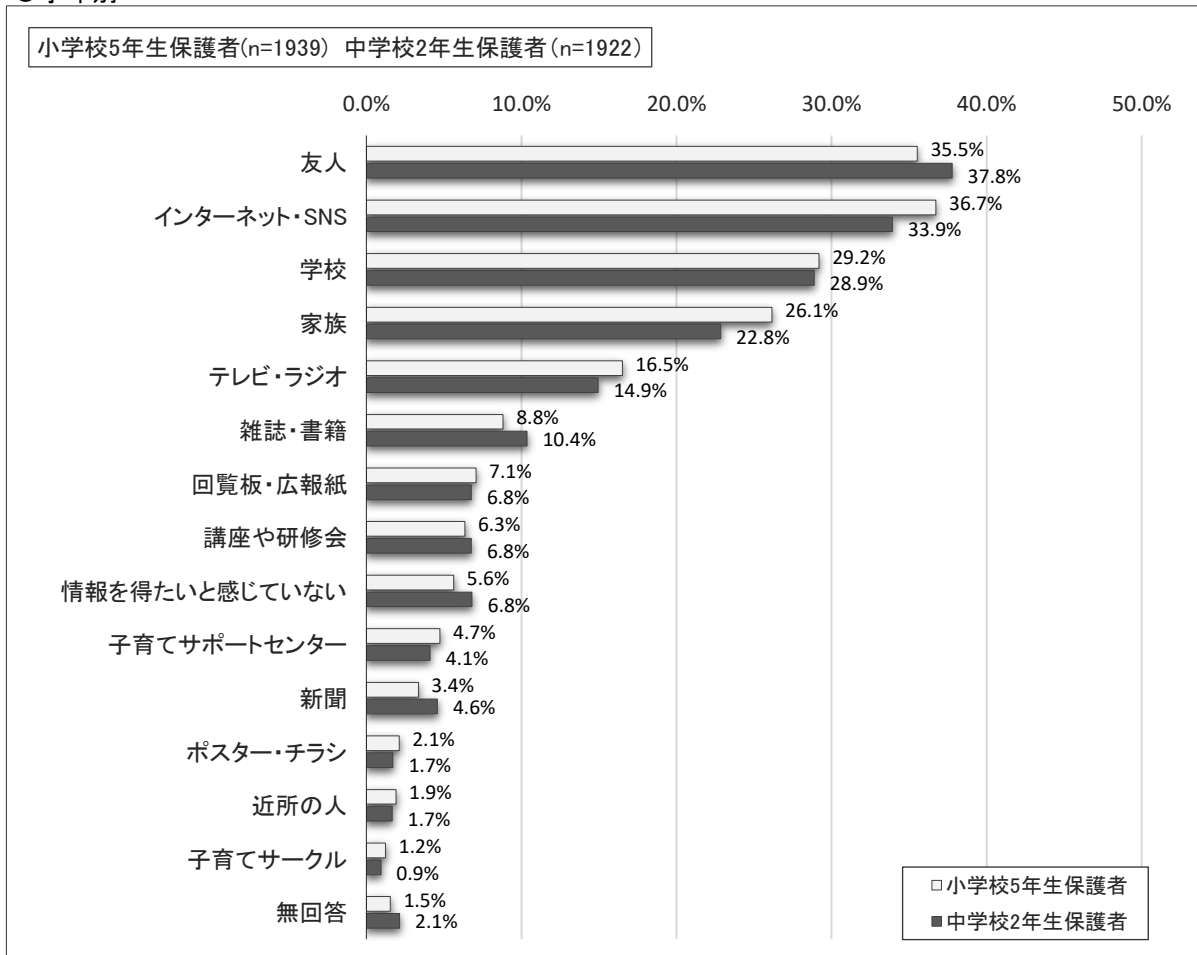


家庭教育についての情報を誰(何)から得たいと感じているか聞いたところ、1番目は「友人」が824人(21.3%)で最も多く、次いで、「家族」が769人(19.9%)であった。2番目では、「インターネット・SNS」が718人(18.6%)で最も多く、次いで、「学校」が636人(16.5%)であった。1番目と2番目を合わせると、「友人」「インターネット・SNS」「学校」の順であった。

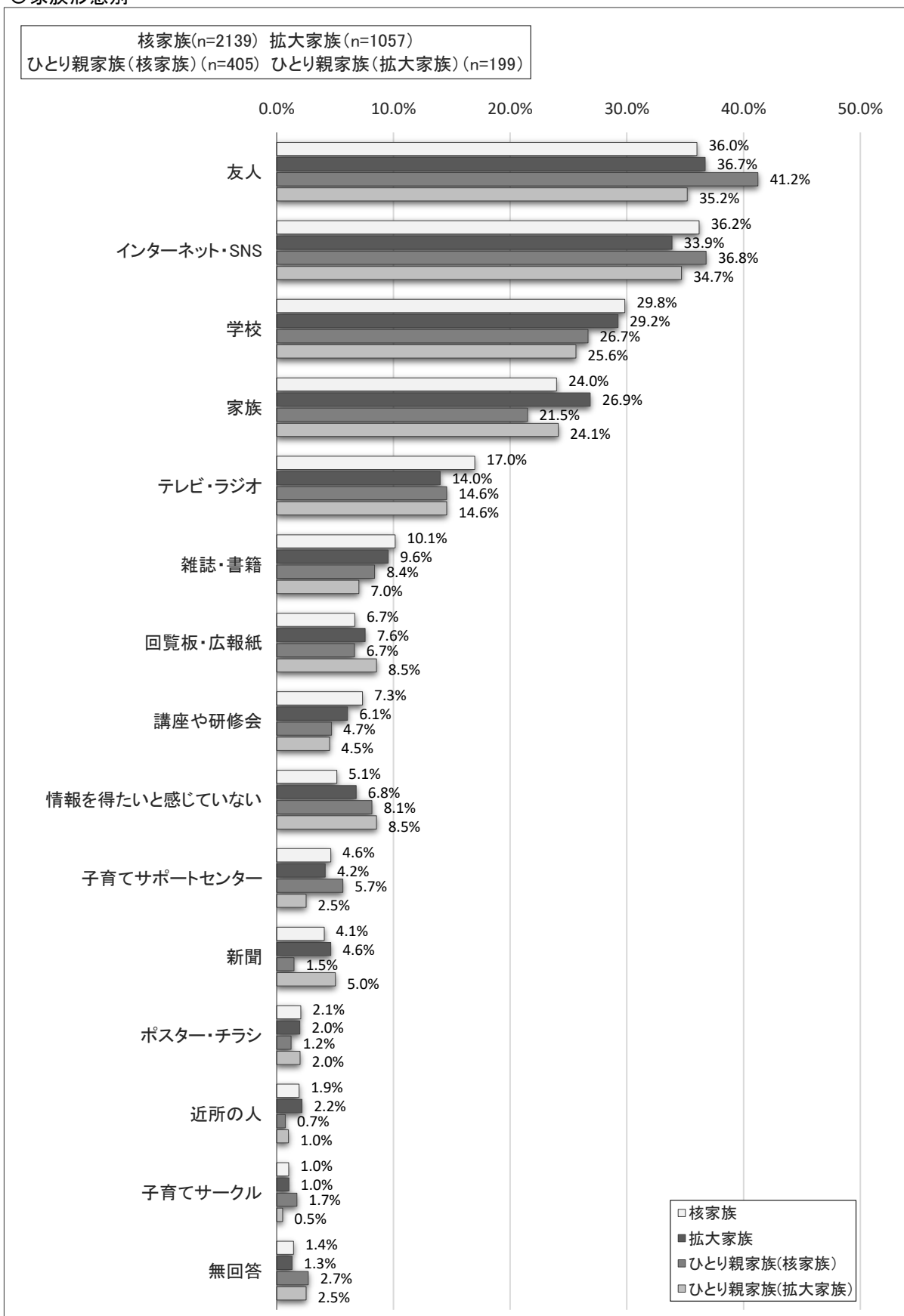
○性別



○学年別

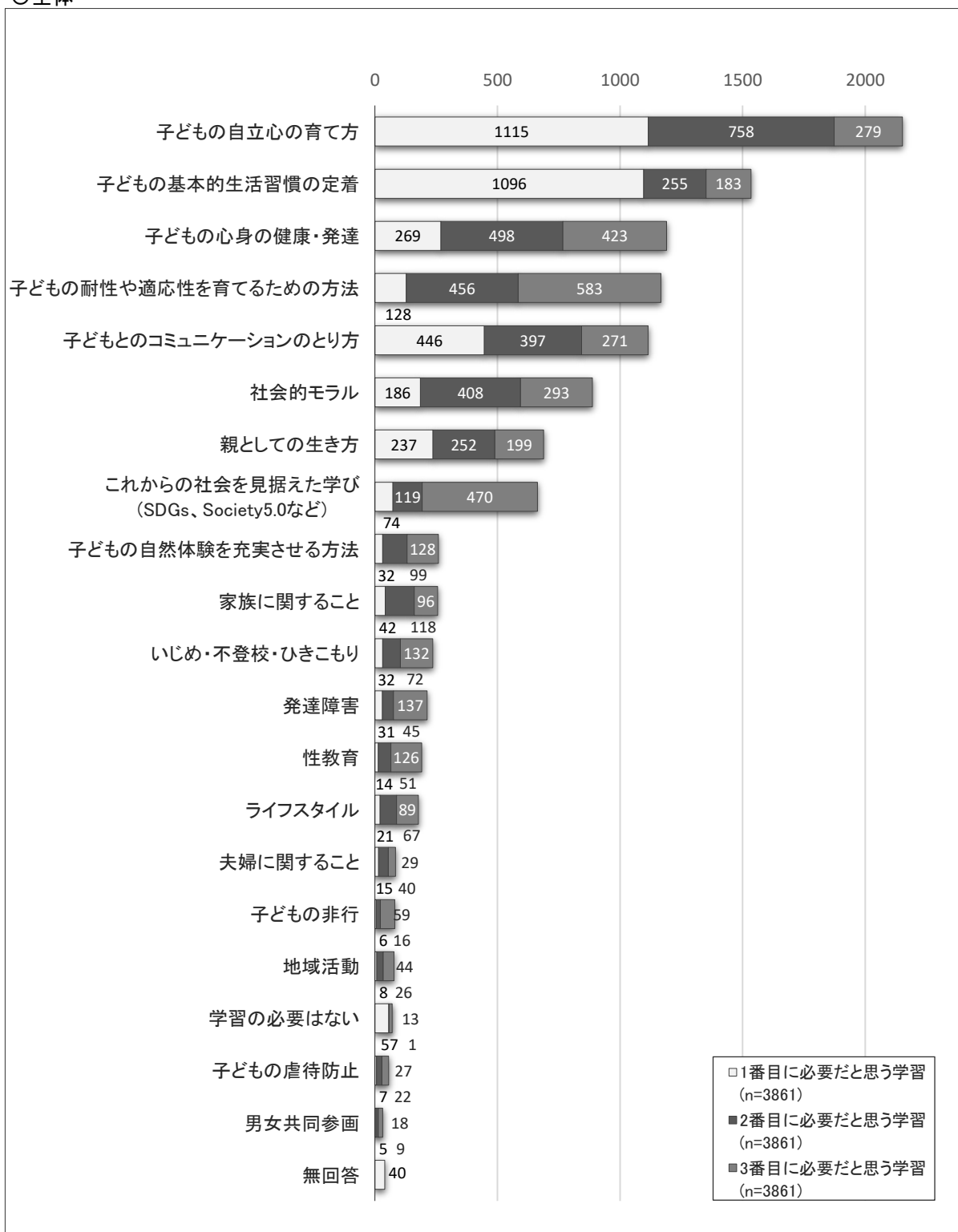


○家族形態別



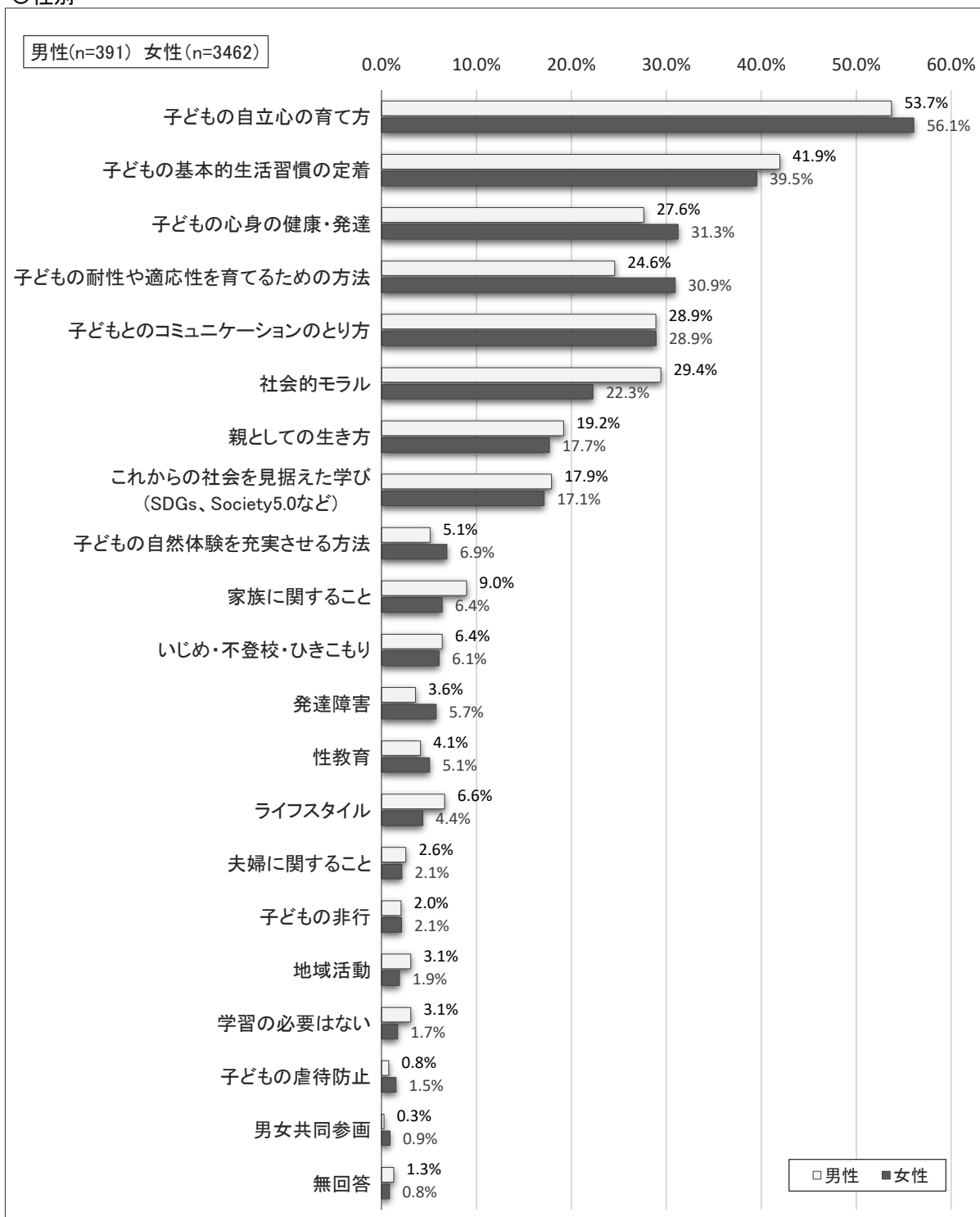
性別及び学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」を合わせたものである。

問24 子どもを育てるうえで、親の学習に大切だと思う内容は何か
○全体

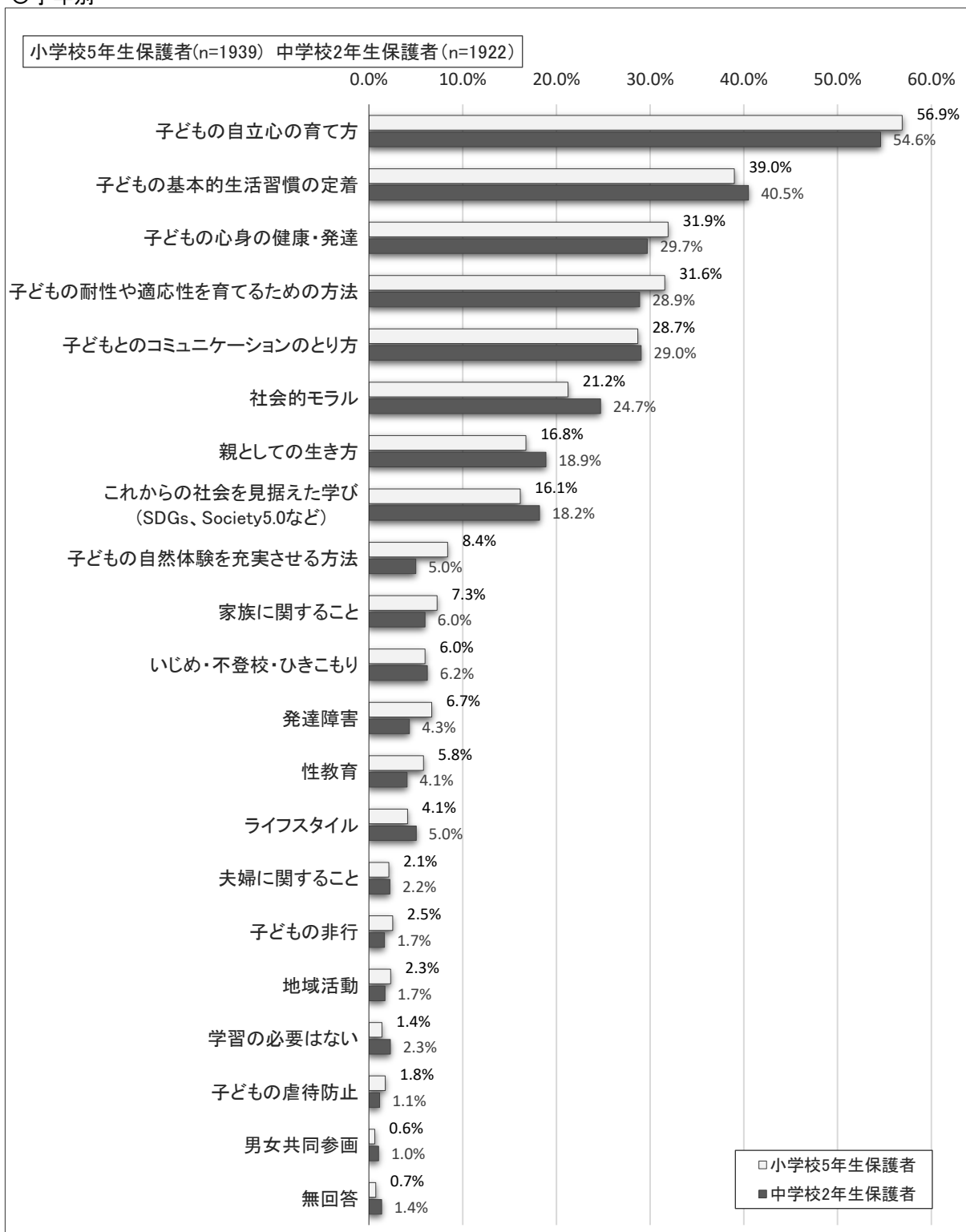


親の学習に大切だと思う内容を聞いたところ、1番目は「子どもの自立心の育て方」が1,115人(28.9%)で最も多く、次いで、「子どもの基本的生活習慣の定着」が1,096人(28.4%)であった。2番目の回答では、「自立心の育て方」が758人(19.6%)と最も多く、次いで、「心身の健康・発達」が498人(12.9%)であった。

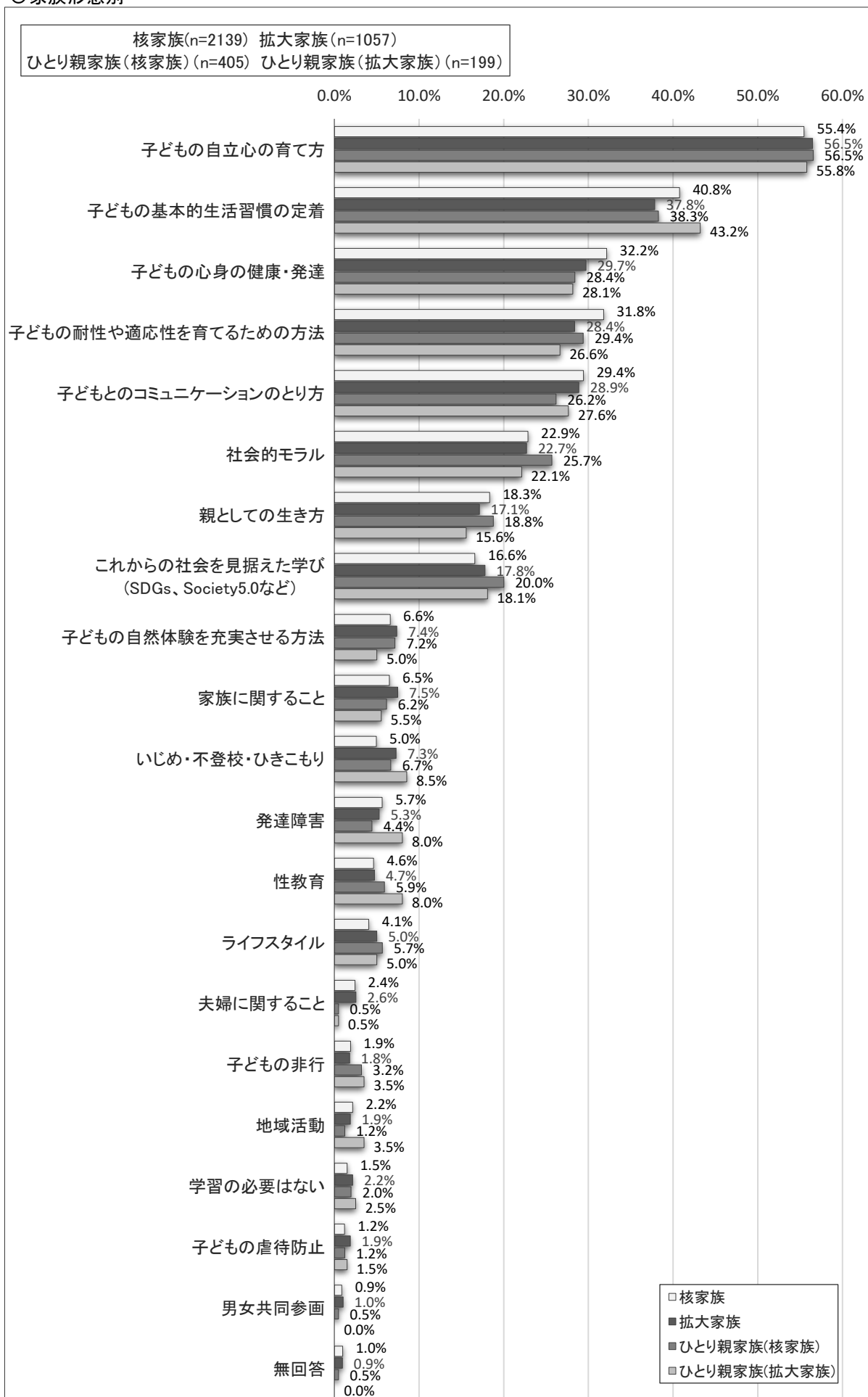
○性別



○学年別



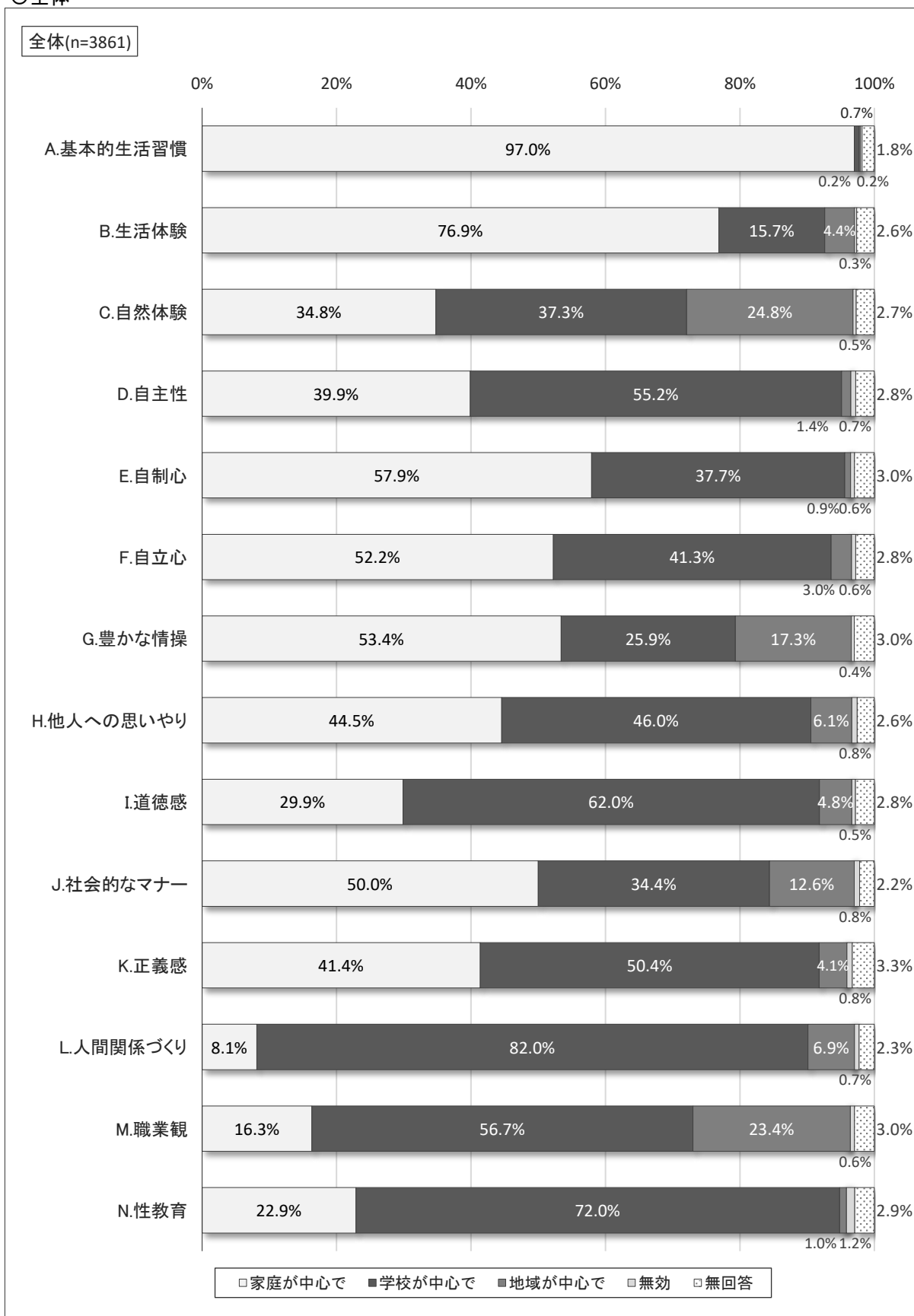
○家族形態別



性別及び、学年別、家族形態別の回答者数は、「1番目」と「2番目」と「3番目」を合わせたものである。

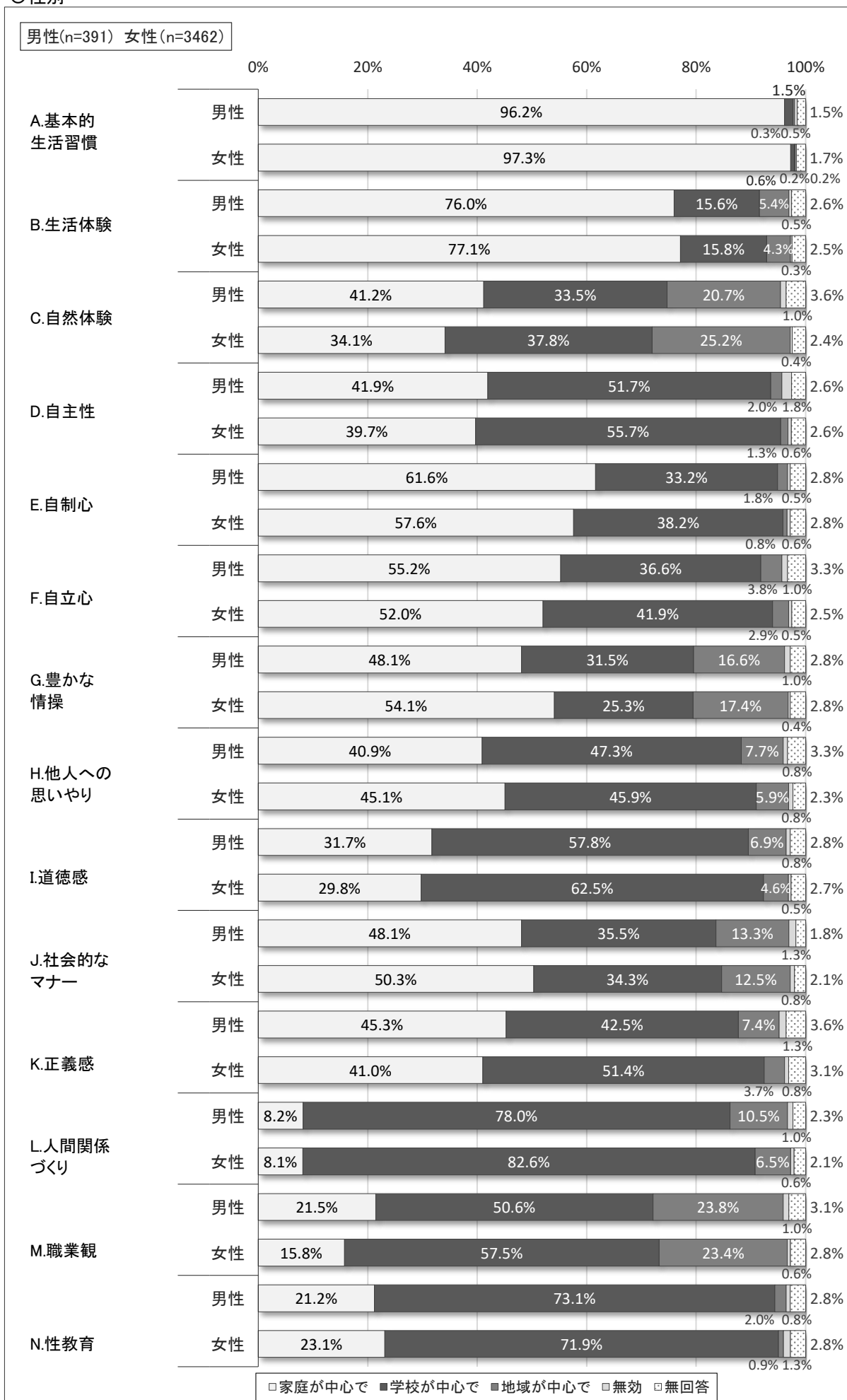
問25 教育項目について、家庭と学校、地域のどこで身につけさせる方がよいと思うか

○全体

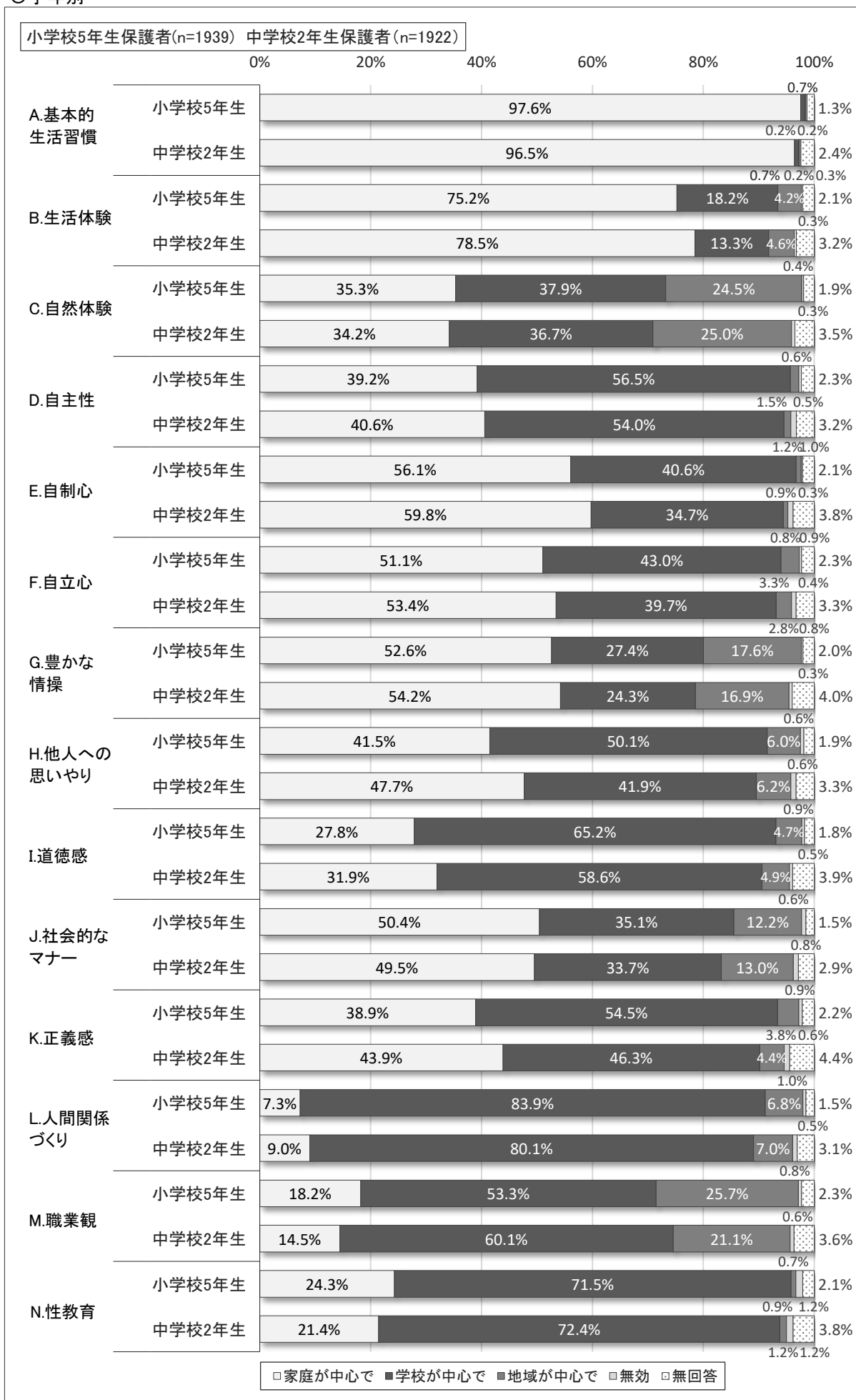


家庭で身につけさせるほうが良い教育としては、「基本的な生活習慣」が97.0%で最も多く、次いで、「生活体験」が76.9%であった。学校で身につけさせるほうが良い教育としては、「人間関係づくり」が82.0%で最も多く、次いで、「性教育」が72.0%であった。地域で身につけさせるほうが良い教育としては、「自然体験」が24.8%で最も多く、次いで、「職業観」が23.4%であった。

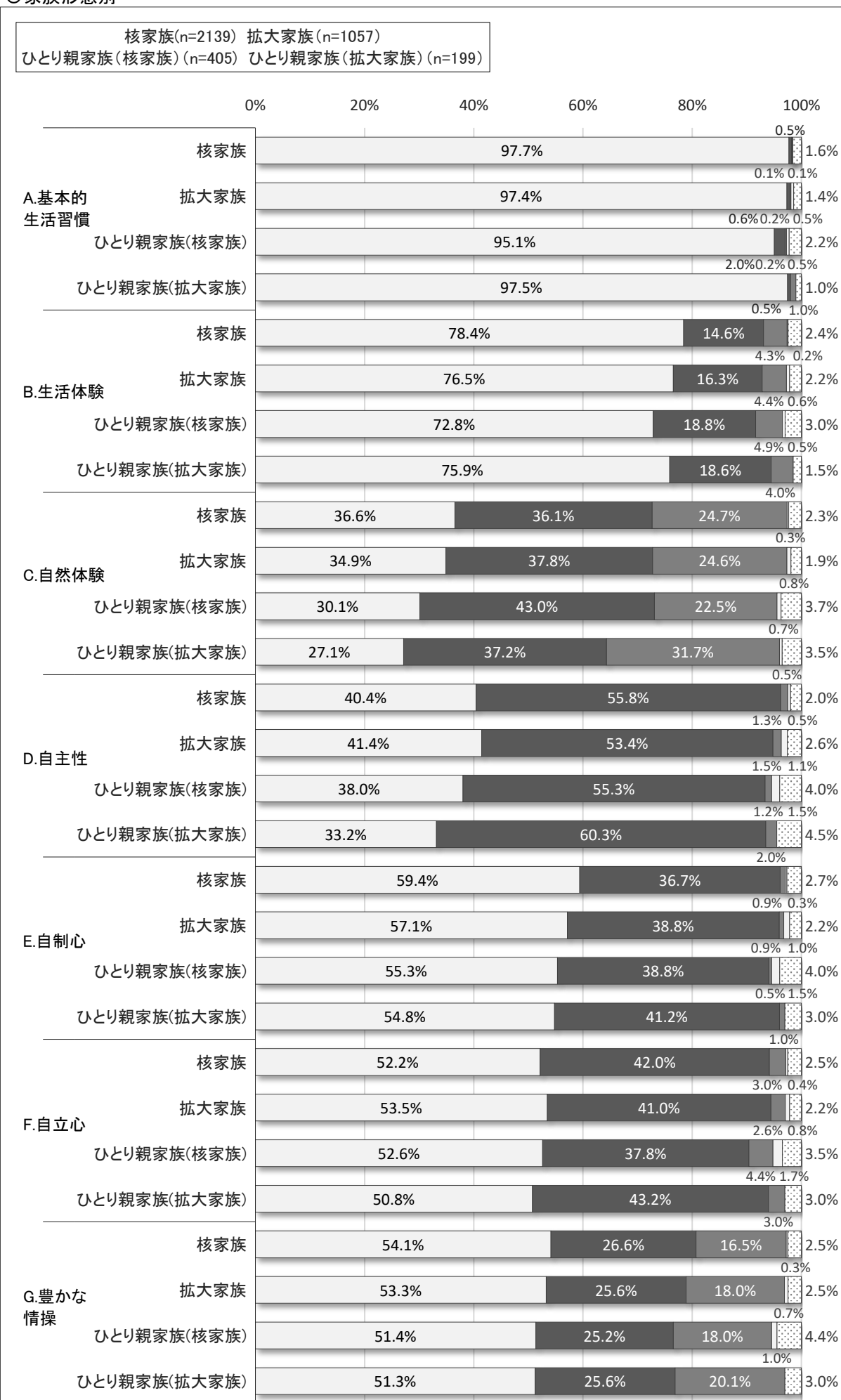
○性別

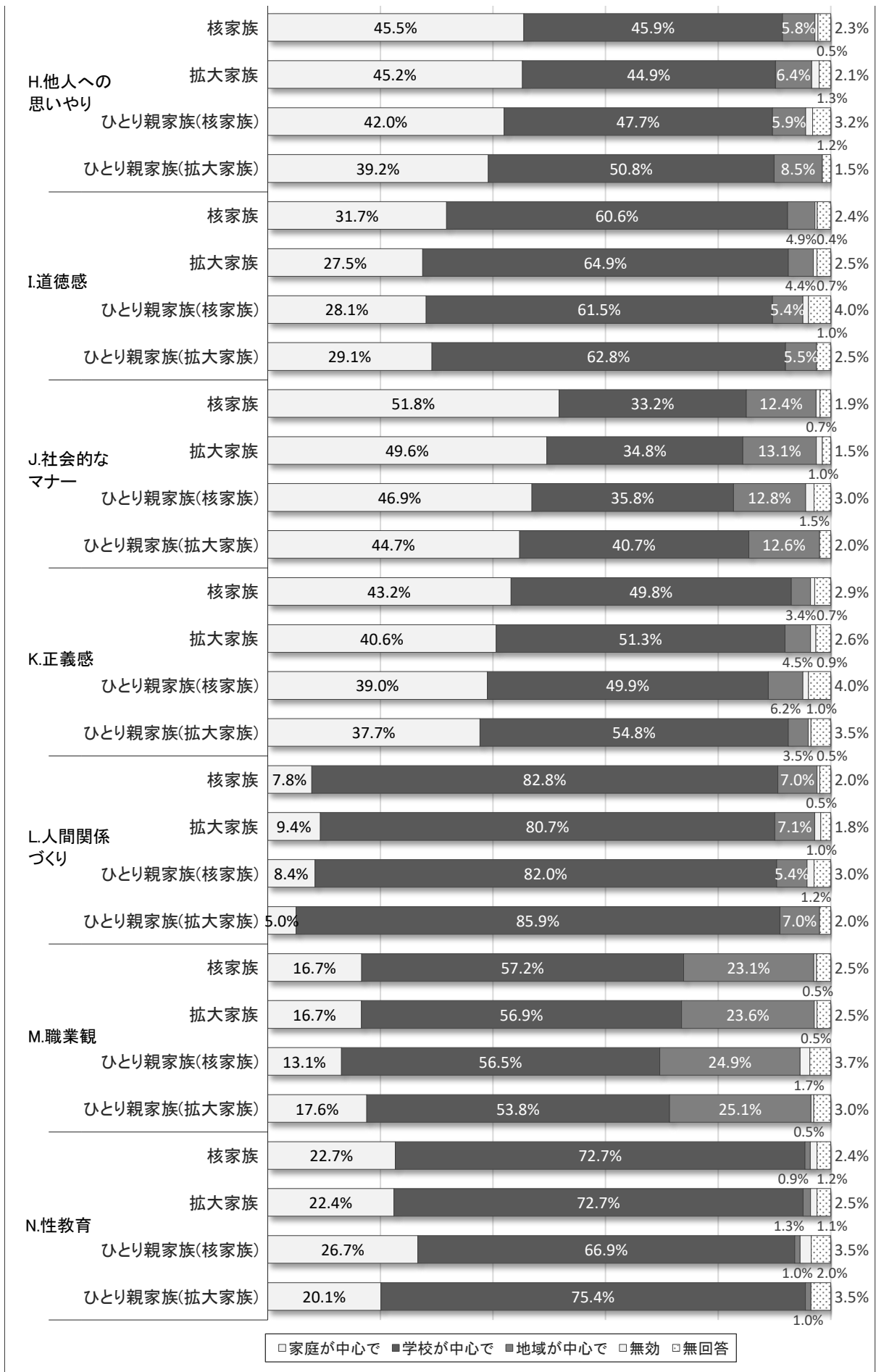


○学年別



○家族形態別





第3章 考察

I 青森県における子育て及び子育て負担感の状況

青森明の星短期大学 准教授 高橋 多恵子

はじめに

子育て支援の施策は進んでいるものの、子育てに対する不安や負担、ストレスといった言葉はなくなる。そこで、本紙に掲載されている、青森県教育委員会が実施した令和2年度『家庭教育の充実のための実態等把握調査』（以下、本調査とする）をもとに、青森県の子育て家庭は、子育てを通して何に喜びや不安、負担を感じているのかについて検討し、今後の家庭教育（子育て）支援の在り方について考察する。

1 保護者が子育てで感じる喜びや楽しさ

本調査の問12では保護者が子育ての中で感じる喜びや楽しさについて質問している。「子どもの喜んだ顔を見るとき」「子どもの成長を感じるとき」に喜びを感じると回答している割合が多く、次いで「子どもと話したり、遊ぶとき」「家族として一体感を感じるとき」「学校や習い事などで子どもの生き生きとした様子を見たとき」と続いている。これは性別や学年別にみても同じ傾向があり、半数以上の保護者が自分の子育てに満足していると言える。

家族形態別に比較すると、「子どもの喜んだ顔を見るとき」がどの家族形態でも多くの割合を占めているが、「子どもの成長を感じるとき」「子どもと話したり、遊ぶとき」「家族としての一体感を感じるとき」「学校や習い事などで子どもの生き生きとした様子を見たとき」と答えたひとり親家庭（核家族）の割合が極端に少なくなっている。このことに関して、本調査の問10と問11でのひとり親家庭（核家族）の子どもとのふれあいの時間や食事を一緒に取るかどうかについての質問への回答を見ると、平日・休日ともに過ごす時間に家族形態による違いはなく、朝食・夕食ともに家族全員で食べている割合はひとり親家庭（核家族）が他の家族形態に比べて多いと言える。H26年度に行われた「生涯学習・社会教育総合調査研究事業 学齢期における家庭教育支援の在り方に関する調査」と比較すると、ふれあいの時間については今回の調査と同じ傾向があるが、朝食・夕食を一緒に取る割合は家族形態別で大差がない状況であったH26年度の状況と比べると、今回の調査では一緒に食事をする割合が増えていると言える。これらのことから、ひとり親家庭（核家族）において精神的ゆとりが持てない状況があることや、回答を2つ選択するところを1つのみの回答だったことが予想される。

2 保護者が子育てで感じる負担や不安

本調査の問13の子育てにおける負担についての質問では、「経済的な負担」と「時間的な余裕がないこと」が大半を占めている。次いで「精神的な負担」「負担は感じていない」と続く。「負担を感じていない」が「肉体的な負担」や「親同士の付き合い

い」よりも上位に来るのは、保護者は乳幼児期の子育てを経験してきており、その経験を踏まえると「肉体的な負担」や「親同士の付き合い」に関しては負担感が減るのではないかと考えられる。

家族形態別に比較すると、「経済的な負担」がひとり親家族（核家族）、ひとり親家庭（拡大家族）ともに多くの割合を占めている。このことに関して、令和元年度青森県親子等生活実態調査によると、ひとり親家庭の就業状況は、母子世帯では「何らかの仕事を従事している」世帯は93.0%となっており、「正社員（常用雇用）」が46.5%と最も高くなっている一方、パート及びアルバイトの割合も35.4%と高くなっている。また、令和2年度新型コロナの影響下におけるひとり親家庭の困難に関する調査では新型コロナの影響による収入の変化は約4割の家庭で収入減として影響を受けていると報告している。以上のことから、経済的な負担が高いと考えられる。

問14では、子育てにおける不安や悩みがあるかどうかについて「悩みや不安がある」「悩みや不安があまりない」「悩みや不安は全くない」の3択で質問している。それぞれ「悩みや不安がある」42.8%「悩みや不安はあまりない」49.9%「悩みや不安は全くない」6.0%と、ほとんどの人が程度の差はあれ悩みや不安を抱えていること、家族形態別に比較すると、ひとり親家族は、核家族・拡大家族ともに半数近くが「悩みや不安がある」と感じていることが分かる。

では、子育てについてどのような悩みや不安があるのだろうか。問14で「悩みや不安がある」と答えた方を対象に、子育てについての具体的な悩みや不安を聞いたところ、「子どもの勉強や進学のこと」が多くの割合を占めた。これは、子どもの生活全体を考えたときに、勉強は大きな割合を占めており、そこに保護者が協力したり手助けをしたり管理したりしている状況があることによるものと考えられる。また、今年度に関しては、新型コロナウイルス感染防止を目的として取られた臨時休校措置により、「学習の遅れが出るのではないか」「学習内容が定着しないのではないか」といった不安も含まれていると考えられる。

学年別の比較では、小5層では「子どもの勉強や進学のこと」の22.1%に次いで、「しつけやマナーのこと」が14.2%と続いている。中2層では「子どもの勉強や進学のこと」の29.5%に次いで、「教育費のこと」が13.0%と続いている。このことについて発達の観点から考えると、小5・中2ともに肉体・健康面については、月齢差のような発達の個人差や体調不良の発生頻度はかなり減少していき、小学校高学年頃は、日常生活動作はほぼ確立する時期で、社会性も向上していくが一方で、学校生活で問題が発生する可能性が高まる時期でもあり、社会生活上の指導が必要である。一方、中学生は、社会生活上の指導については子どもの自立が進む反面、他者との関係が格段に広がり、受験や進学などの新たな問題が発生する。これらのことから、子どもの年齢が上がるにつれ、保護者の悩みや不安は、生活面のことから教育費を含む学業面に内容がシフトしていくと考えられる。

家族形態別の比較では、「子どもの勉強や進学のこと」が最も多くの割合を占めているが、「子どもの教育費」に関してひとり親家族（核家族）で10ポイント高い数値となっている。このことから、ひとり親家族（核家族）は経済的な負担も不安を抱

えていると考えられる。

3 不安がある場合の相談の現状

本調査の間 16 では、悩みや不安がある場合、誰に相談する頻度が多いか質問している。1 番目は「配偶者」が 52.2%と最も多く、次いで「実母」14.8%であった。2 番目、3 番目の回答を合わせると、「配偶者」が 62.5%と最も多いことに変わりはないが、「実母」40.5%、「子育てをしている仲間」39.2%と続き、悩みや不安がある場合、身近な相手に打ち明けたり相談したりする傾向が高いと言える。しかし、家族形態別にみると、ひとり親家族では、「子どもと話し合う」「相談しない」のポイントが高く、相談相手が限られている状況や、そもそも相談相手を求めている状況もあると考えられる。

実母以外の血縁関係への相談は頻度が少なく、同じように、「行政などの公的機関」「放課後子ども教室・放課後児童クラブの職員」「子育てサークルやNPO 法人などの民間団体」「近所の人」「民生委員・児童委員」も頻度がかなり低い。このことから子育てにおいて「身近な相手」の重要さがうかがえる。

しかし、自由記述において地域に関する記述は 27 件あり、「地域社会、様々な価値観の中で子どもを育てたい」「家庭での教育には限界がある」「地域で子育てをすることが理想」などの記述があり、地域への期待はあるが、相談先として認知されていないことや、地域のコミュニティの減少が影響していると考えられる。

一方で、「相談しない」「相談相手がいない」「誰に相談していいかわからない」と回答している割合は合わせると 7.1%である。相談すること自体を求めているなかったりあきらめていたり、また、相談したいと思っても周囲の支援がない状態なのであれば子育て負担感の増大につながると考えられる。

4 今後求められる家庭教育（子育て）支援とは

（1）地域を活用した個別支援体制の整備

大日向雅美は昨今の子育て事情を「育児情報は氾濫しているが、親が自分に本当に必要な情報を入手することは難しい実態がある。地域の間人関係も希薄化し、子育て家庭が孤立する傾向は年々強まっている」（大日向雅美、2017）と説明している。このような状況の中で、子どもについての悩みや不安は変化しながらもなくなることはなく、常に対応を迫られる状況であり、内容も子ども自身のことから家族関係に関わるものまで多岐にわたる。フォーマルな支援、インフォーマルな支援を充実させるため、地域を活用した個別支援体制を整備し、生活に密着した何気ない情報のやりとりが可能になる仕組みが必要である。

（2）経済的な支援

景気や雇用情勢は悪化しており、子育て家庭を取り巻く経済的な環境は依然として厳しいものがある。子育て家庭を支援する制度はある程度整備されているが、子どもの年齢進行に応じた費用の増加や新型コロナウイルスの影響による家計の変化に対

応しきれていない状況がある。家庭の経済状況による不安が、子育てに影響を及ぼさないよう経済的支援の充実が必要である。

(3) 働きながら子育てをする環境の整備

仕事と子育ての両立は重要な課題であるとされながらも、その両立支援は十分なものとは言えない。

仕事と子育てを両立していくためには、周囲のサポートを得やすい環境を整えていくことが必要である。子育て家庭がサポートの選択肢を広げることができるようにするためにも、公的機関やNPO法人など民間団体によるサポートについて、「このようなサポートがある」と周知していくことはもちろんであるが、申請を待つのではなく、支援を必要としている家庭に積極的に働きかけて情報や支援を届ける仕組みや、子育て家庭がそれらにより簡単に軽くつながることができる仕組みも必要である。

家庭教育（子育て）支援は、子育て家庭の負担を「軽減すること」のみが支援のゴールになるのではなく、子育てを通して保護者が「自分の人生を肯定し、自信が持てるようになること」も目指していく支援であると考え。現在、家庭の状況は様々であり、それぞれの家庭の自己決定や多様性を考慮した支援が必要である。

<引用文献>

- ・ 大日向雅美「少子化問題を考える」『医療と社会』27（1）：15-20 2017年

<参考文献>

- ・ 青森県教育委員会 「平成26年度 生涯学習・社会教育総合調査研究事業 学齢期における家庭教育支援の在り方に関する調査報告書」 2015年
- ・ 青森県健康福祉部こどもみらい課「令和元年度青森県親子等生活実態調査」2020年
- ・ 青森県健康福祉部こどもみらい課「新型コロナの影響下におけるひとり親家庭の困難に関する調査」 2020年

Ⅱ 青森県における家庭教育(子育て支援)の状況と課題

弘前大学 教育学部 講師 深作 拓郎

はじめに

本考察では、本紙に掲載されている、青森県教育委員会が実施した令和2年度『家庭教育の充実のための実態等把握調査』(以下、「本調査」と称す)で得られたデータをもとに、家庭教育(子育て支援)に着目して調査結果を検討していく。本考察によって、家庭教育(子育て)支援に対する意識について明らかにし、青森県における政策的な示唆を提示することが目的である。本調査は、児童・生徒数をもとに無作為抽出した小学校5年生、中学校2年生の保護者を対象に行った。質問紙の配布・回収は学校を通して行っている。小学校5年生の保護者に対しては、2,033人を対象に配布し、1,939人から回答が得られた。回収率95.4%である。中学校2年生の保護者に対しては、2,078人に配布し、1,922人から回答が得られた。回収率は92.5%である。

青森県教育委員会では、家庭教育をテーマにした県民調査を平成24(2014)年度に実施している(青森県教育委員会『学齢期における家庭教育支援の在り方現状調査報告書』、平成25年3月)(以下、「前回調査」と称す)。対象学年、抽出方法、配布方法は今回の本調査と同様であるが、郵送による回答としているため、回収方法に違いがある。回答数は、小学校5年生の保護者が856人、回答率34.2%、中学校2年生の保護者の回答数は756人、回収率は30.8%であった。

また、本調査を実施した2020年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大による学校等の休校措置をはじめとする社会生活の大幅な自粛が要請されている最中でもある。すなわち、調査の方法、社会情勢を鑑みると単純に比較対象にすることはできない。よって、前回調査は比較対象としてではなく「参考資料」として扱うこととする。

1 家庭教育(子育て支援)支援の現状

本調査の問18では、家庭教育(子育て)に関する講座や研修会への参加経験について質問している。家庭教育に関する考査や研修会への参加は、「参加したことがない」との回答が全体で63.6%、「あまり参加しない」が28.5%と回答しており、合わせると92.1%の高値を示した。一方で、「よく参加する」が0.7%、「ときどき参加する」が5.6%と低値であった。性別での比較では、「参加したことがない」と回答した男性が71.4%、女性で62.8%であった。学年別での差異はなく、家族形態別で見ると、ひとり親家族の核家族では「参加したことがない」と回答した割合が77.3%の高い数値を示している。

この設問で「よく参加する」「時々参加する」と回答した人に対して、問19にて講座や研修会に参加して良かったことを2つ選択してもらっている。結果をみると、1番目に良かったこととして「子どもの気持ちを理解することができたこと」次いで「家

庭教育の大切さを認識できたこと」「子育て中の仲間と知り合うことができたこと」と続いている。2番目に良かったことでは、「同じ悩みを抱えている人がいることを知ったこと」「気分転換を図ることができた」が同数の38人、次いで「悩んでいることの解決方法を見いだせたこと」を挙げていた。さらに詳しくみていくと、「家庭教育の大切さを認識できたこと」は男性で高い数値が出ている。学年別では、「同じ悩みを抱えている人がいることを知ったこと」では中学校2年生の保護者層が、「悩んでいることの解決方法を見いだせたこと」では小学校5年生の保護者層でそれぞれ高い数値を示している。家族形態別でみると、ひとり親家族(拡大家族)では「子どもの気持ちを理解することができたこと」と「悩んでいることの解決方法を見いだせたこと」で、ひとり親家族(核家族)では「気分転換を図ることができた」で、それぞれ高い数値を示している。

2 家庭教育(子育て)支援へのニーズ

(1) 家庭教育(子育て)支援へのニーズ

本調査の間17にて、家庭教育(子育て)支援のニーズについて質問している。1番目にあればよい支援では、「子どもが安全安心に過ごせる場所」最も多く785人が選択している。次いで「子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会」が多く757人、「特になし」を選択している人も728人いる。2番目にあればよい支援では、「子どもが安全安心に過ごせる場所」が578人と最も多く、次いで「地域みんなで子育てをする社会環境」を選んだのが437人、「子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会」が329人選択している。「子どもが安全安心に過ごせる場所」については、学年別でみると小学校5年生の保護者層で特に高い数値を示している。一方で、「特になし」は、ひとり親家族(核家族)(拡大家族)ともに高い数値となっている。

(参考)表1 「どのような家庭教育(子育て)支援があれば良いか」前回と今回の調査

(人)

	前回(H26)	今回(R2)
子どもが安全安心に過ごせる場所	730	1363
子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会	435	1086
子どもとの体験や交流を取り入れた講座や研修会	438	669
地域みんなで子育てする社会環境	374	581
身近で気軽に相談できる機会	127	414
子どもを預かってくれる場所	156	367
親の役割やしつけの仕方などを学ぶ機会	210	336
特になし	291	932

H26:N=3324 R2:N=7722 数値は1番目の希望と2番目の希望を合算した値

前回調査では、「子どもが安全安心に過ごせる場所」への回答が一番多かった。児童館・児童センターをはじめ、放課後児童クラブや放課後子ども教室の取り組みもなされているものの、子ども被害者となる交通事故や犯罪への強い不安感を持っている

こと、また新型コロナウイルス感染拡大によって、学校が「休校」となり、休校期間中の対応が保護者に求められたことも、その背景にあると考えられる。

加えて、本調査から「子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会」を希望している数も大幅に増加している。「基礎学力の向上」や「脱・ゆとり教育」が社会の潮流となり、学校だけでなく宿題や課題など家庭学習の量も明らかに増えている。しかし、細やかに対応できない保護者の事情が反映していること、近年、学習支援などの地域活動が盛隆していることへの期待があるのではないだろうか。

一方で、「特になし」に回答した人が932人(約12.0%)もいる。これは支援が充実しているということではない。「各家庭の状況があるので全てのニーズに対応出来ないと思う。」「自分で解決していくしかない。」という自由記述が散見された。「あきらめ」に近い反応であることが読み取れる。これらの声を真摯に受け止めていかなければならない。

(2) 家庭教育(子育て)支援講座や研修会への参加促進

家庭教育(子育て)支援に関する講座や研修会へ参加しやすくなる要件を問20で質問している。1番目に重要だと思うことでは「興味のある内容だと良い」を選択した人が1,022人であった。次いで「要件が整っても参加しない」が467人も「インターネットやSNSなどで提供されると良い」が411人、「時間が短ければ良い」が393人であった。2番目に重要だと思うことでは、「身近な場所で開催されると良い」と回答した人が618人で最も多く、次いで「インターネットやSNSなどで提供されると良い」が545人、「無料だと良い」が445人であった。1番目・2番目を合わせると「興味のある内容だと良い」が圧倒的に多く1,366人が回答しており、次いで「身近な場所で開催されると良い」が994人、「インターネットやSNSなどで提供されると良い」が956人、「無料だと良い」が733人であった。

以上のことから、保護者の学びたいテーマや内容を反映できるようにするとともに、生活圏での開催すること、SNSやYouTube、ZOOMなどのオンラインツールを活用することで時間帯に縛られずにアクセスできるしつみを整えることも重要である。加えて、「要件が整っても参加しない」との回答が577人もいる。これは、家庭教育や子育てに対して「否定的」なのではなく学習することへの拒否でもない。従来、社会教育が主たる手法をしてきた講座や研修会へ「参加することへの拒否」である。この層への新たなアプローチ方法を真剣に考えていく時期に来ていると考える。

(3) 家庭教育(子育て)について知りたい情報とその手段

家庭教育(子育て)をしていく上で「知りたい情報」の内容と、それを「誰から得ているのか」、「今後誰から得たいのか」について、問21~23で質問している。

① 知りたい情報

この質問は、1番目に知りたい情報、2番目に知りたい情報について選択してもらっている。1番目に知りたい情報としては、「子どもの心の健康・発達」を選択した

人が最も多く 788 人、次いで「子どものほめ方・叱り方」650 人、「特になし」594 人、「子どもの携帯電話インターネット利用に関すること」523 人、「子どものしつけ」412 人であった。2 番目に知りたい情報では、「子どものほめ方・叱り方」を選択した人が最も多く 708 人、次いで「子どもの携帯電話インターネット利用に関すること」596 人、「子どもの心の健康・発達」425 人、「子どもの体の健康・発達」200 人であった。総合すると、「子どものほめ方・叱り方」が 1,358 人と最も多く選択しており、次いで、「子どもの心の健康・発達」1,213 人、「子どもの携帯電話インターネット利用に関すること」1,119 人、「子どもの体の健康・発達」587 人であった。

男女比でみると、「子どものほめ方・叱り方」は女性が志向する傾向が強く、男性より約 9 ポイント高い。「特になし」では、男性の方が女性より 5.7 ポイント高かった。学年別では、小学校 5 年生の保護者層は「子どものしつけ」「子どものほめ方・叱り方」を志向する傾向が高い。中学校 2 年生の保護者層では、「特になし」を選択した人が小学校 5 年生の保護者層より 5.4 ポイント高かった。家族形態別でみると、ひとり親家族(拡大家族)では、「子どもの心の健康・発達」を選択した人の割合が他の家族より 5 ポイント以上低い。ひとり親家族(核家族)では、「子どもの携帯電話インターネット利用に関すること」を選択した人が、他の家族形態より 5 ポイント低いことが明らかとなった。

また、前回調査と見比べてみると大きな差異はみられなかった。

(参考)表 2 「知りたい情報はどんなことか」 前回と今回の調査		
	(人)	
	前回 (H26)	今回 (R2)
子どものほめ方・叱り方	622	1358
子どもの心の健康・発達	563	1213
子どもの携帯電話インターネット利用に関すること	339	1119
子どもの体の健康・発達	257	587
子どものしつけ	321	566
いじめ・不登校・ひきこもり	271	325
こどもとのコミュニケーション	131	193
特になし	274	740

H26:N=3324 R2:N=7722 数値は 1 番目の希望と 2 番目の希望を合算した値

② 情報は誰から得ているのか

この質問も、1 番目と 2 番目に、誰から得ているのかを質問している。

1 番目に得ているのは誰かについては、「友人」が一番多く 1,267 人、次いで「家族」1,105 人、「インターネット・SNS」609 人、「テレビ・ラジオ」246 人、「学校」207 人の順であった。2 番目に誰から得ているかについては、「インターネット・SNS」が一番多く 919 人、次いで「友人」896 人、「学校」508 人、「テレビ・ラジオ」309 人であった。総合すると、「友人」が最も多い 2,163 人、次いで「インターネット・SNS」

1,528人、「家族」1,374人、「学校」715人、「テレビ・ラジオ」555人であった。

	前回 (H26)	今回 (R2)
友人から	617	2163
インターネット・SNS	240	1528
家族	565	1374
学校	498	715
テレビ・ラジオ	338	555
雑誌・書籍	180	405
その他	190	124
回覧板・広報紙	54	92

H26:N=3324 R2:N=7722 数値は1番目の希望と2番目の希望を合算した値

男女差でみてみると、女性は「友人」、「インターネット・SNS」を志向する傾向があり、それぞれ20～10ポイント男性より高かった。男性は「家族」を選択した割合が20ポイント、「学校」を選択した割合が5ポイント、それぞれ女性より高かった。家族形態別では、全般に「友人」を選択する割合が高いが、「インターネット・SNS」は、核家族とひとり親家族(核家族)での回答が多く、拡大家族、ひとり親家族(拡大家族)では、「家族」と回答している数が多い。

前回の調査と見比べてみると、「インターネット・SNS」を選択した人の割合が、前回の調査では約7%であったのに対し、本調査では約19%と増えていることがわかる。コロナ禍で人と逢って話す機会が少なくなっていることも考えられるが、場所や時間に縛られないwebコンテンツへの志向が定着しているものと考えられる。

③ 知りたい情報を誰から得たいか

「知りたい情報を誰から得たいか」について、さきほどと同様に1番目と2番目にそれぞれ得たい人や機関について質問している。

1番目では、「友人」が一番多く824人、次いで「家族」769人、「インターネット・SNS」646人、「学校」485人の順であった。2番目に誰から得たいか、では「インターネット・SNS」が718人と一番多く、次いで「学校」636人、「友人」591人、「テレビ・ラジオ」280人であった。総合すると、「友人」が最も多い1,415人、次いで「インターネット・SNS」1,364人、「学校」1,121人「家族」946人の順であった。

男女差では、女性は「友人」で20ポイント、「インターネット・SNS」は10ポイント男性より高かった。一方、男性は「家族」を選択した割合が20ポイント、「学校」を選択した割合が5ポイント、それぞれ女性より高かった。家族形態別では、全般的に「友人」を選択する割合が高いが、核家族とひとり親家族(核家族)は「インターネット・SNS」が多く、拡大家族、ひとり親家族(拡大家族)では「家族」と回答している割合が

高い。

前回調査では、「学校」、「家族」、「友人」の順で多かった。「学校」を選択する割合は、前回調査では約24%であったのに対し、本調査では約14%であり、10ポイントダウンしている。「家族」と回答した割合は約12%で変化はなかった。「友人」は前回調査では約11%であったのに対し、本調査では約18%と7ポイント上昇している。また、「インターネット・SNS」を選択した割合は、前回調査では約7%だったのに対し、本調査では約17%と大幅に増えていることも明らかとなった。

(参考)表4「知りたい情報は誰から得たいか」前回と今回の調査

	前回 (H26)	今回 (R2)
友人から	381	1415
インターネット・SNS	246	1364
家族	432	946
学校	814	1121
テレビ・ラジオ	281	607
雑誌・書籍	138	370
情報を得たいと感じていない	148	240
回覧板・広報紙	134	267

(人)

H26:N=3324 R2:N=7722 数値は1番目の希望と2番目の希望を合算した値

家庭教育（子育て）に関する情報について、保護者の要望は「子どものほめ方・叱り方」、「子どもの心の健康・発達」「子どもの携帯電話インターネット利用に関すること」について、特に情報を得たい(学習)したいと考えていることが明らかになった。そのほか、自由記述からは、「性教育について学校できちんと教えてほしい。命の大切さを教える前に命がどのようにして出来るのかを子どもの時からきちんと教育の場で教えてほしい」「親の世代も、きちんと性教育を受けていないので、伝え方も分かりません」というように、「性教育」に関する要望が10件寄せられた。調査対象とした子どもが、小学校5年生と中学校2年生であり、思春期を迎える段階であることが背景にあるものと考えられる。

情報を得る手段として、「友人」と「インターネット・SNS」の利用が前回の調査と比較しても明らかな伸びを示している。時間は場所に制約されないweb利用が私たちの日常生活に浸透しており、弘前市など県内でも育児情報のアプリを開発・配信しているほか、県総合社会教育センターではテレビとYouTubeを用いた子育て情報を発信している。対面式の講座や研修会にとらわれない、新しい情報発信、学習方法の開発が求められていると言えるだろう。加えて、前回トップだった「学校」との回答は下がっているものの、一定のニーズを保っている。対象学年からすると、児童館や放課後児童クラブの利用は少ないと推察できる。そうすると、第三者であり最も身近な存在と

して「学校」への期待が高いものと考えられる。これらのことから、社会教育としては学校と協働で、子どもの育ちと親の育児を支援していくことが求められよう。

3 家庭と地域の教育力について

(1) 子どもを育てるうえでの親の学び

子どもを育てるうえでの親の学習に大切だということについて、問 24 で質問している。この設問では、1 番目、2 番目、3 番目に必要な学習はなにか質問している。

1 番目に必要な学習としては、「子どもの自立心の育て方」が 1,115 人と最も多く、次いで「子どもの基本的生活習慣の定着」1,096 人、「子どもとのコミュニケーションのとり方」446 人、「子どもの心身の健康・発達」269 人の順であった。2 番目に必要な学習では、「子どもの自立心の育て方」758 人、「子どもの心身の健康と発達」498 人、「子どもの耐性や適応性を育てるための方法」456 人、「社会的モラル」408 人であった。3 番目に必要な学習では、「子どもの耐性や適応性を育てるための方法」583 人、「これからの社会を見据えた学び」470 人、「子どもの心身の健康・発達」423 人、「社会的モラル」293 人の順であった。総合すると、最も多いのが「子どもの自立心の育て方」で 2,152 人、次いで「子どもの基本的生活習慣の定着」1,534 人、「子どもの心身の健康・発達」1,190 人、「子どもの耐性や適応性を育てるための方法」1,167 人の順となった。

男女差でみると、女性は「子どもの耐性や適応性を育てるための方法」と回答した割合が男性より 6 ポイント高く、「社会的モラル」では男性の回答が女性より 7 ポイント高かった。学年別、家族形態別では、大きな差異は見られなかった。

前回調査は、「子どもの自立心の育て方」、「子どもの基本的生活習慣の定着」、「子どもとのコミュニケーションのとり方」の順であった。前回調査での選択肢になかった「子どもの心身の健康・発達」「これからの社会を見据えた学び」が本調査では上位に入っている。『令和元年版自殺対策白書』（厚生労働省、2020 年）によると、本

(参考)表 5 「子どもを育てるうえでの親に大切な学習」 前回と今回の調査		
	(人)	
	前回 (H26)	今回 (R2)
子どもの自立心の育て方	990	2152
子どもの基本的生活習慣の定着	951	1534
子どもの心身の健康・発達	-	1190
子どもの耐性や適応性を育てるための方法	414	1167
子どもとのコミュニケーションのとり方	649	1114
社会的モラル	597	887
親としての生き方	250	688
これからの社会を見据えた学び	-	663
H26:N=4836 R2:N=11583 数値は1番目から3番目の希望を合算した値		

調査の対象となる10～14歳の死因の第1位は「悪性新生物」を抜いて「自殺」であることが明らかとなり、大きく報道された。また、コロナ禍や大きく進展する社会に適応していく必要性が保護者に大きな関心となっていることが考えられる。

（2）地域・学校・家庭の教育機能

「基本的生活習慣」「生活体験」「自制心」「豊かな情操」「自立心」「社会的マナー」は家庭で育むほうが良いとする回答が5割を超えた。「人間関係づくり」「性教育」「道徳感」「職業観」「自主性」「正義感」は学校で育むほうが良いとする回答が5割を超えている。前回選択肢になかった地域で育むほうが良いという回答は、「自然体験」「職業観」が多いという結果が得られた。

男女比では、大きな差異がみられないが、しいて取り上げれば、家庭で育むほうが良いとする回答が高かった項目のうち、「豊かな情操」は家庭を志向する女性の割合が高かった。学年別、家族形態別では大きな差異は見られなかった。

先にも記したとおり、前回の調査では「地域」の設問がないため、単純に比較することはできないが、家庭で育むほうが良いと回答したものとして、「基本的生活習慣」「生活体験」「自制心」の順となっている。学校で育むほうが良いものとして、「人間関係づくり」「性教育」「職業観」の順となっていることから、傾向は変わらないのではないかと予見される。

このことから、保護者が考える(期待する)家庭・学校が担う教育機能として、家族の愛情のもとで愛着形成や自立心、基本的生活習慣を家族が中心となって育み、集団での学びや専門的知識を必要とするものを学校で担うことを期待しているものと考えられる。

そして、それと呼応するように、保護者にとって大切だと思う学習には「子どもの自立心の育て方」「基本的生活習慣の定着」が上位に挙げられている。このことから、保護者自身も日常生活における家庭教育の重要性を認識しており、知識や方法についての学習や情報提供の機会を求めていると言えるだろう。

自由記述にて「地域とはどこまでの事を指すのか不明だった」という指摘があり、設問のわかりづらさは否めない。そして、「地域は期待できないが、学校と家庭での教育力が必要だと思う」「子どもも、学校の他、クラブや習い事で家にいません」「子育ては、家庭での教育にも限界があるし、かといって学校や地域の負担になっても嫌なので、家庭と周囲の人々とで協力していかなくてはいけない。」「地域活動(子ども会を含む)には限界があり、現実的には昔のようにはいかないと考える。」

「地区の高齢化率の高まりに加え、地域の方々と結びつくための施設(公民館等)がない」という自由記述が散見された。地域とともに社会教育が主導して展開しているスポーツ少年団は、青森県では「部活」と称されることが多く、学校主導で展開されてきた歴史がある。放課後児童クラブや放課後子ども教室などの地域学校協働活動も学校内での実施が多い。地域子ども会やジュニアリーダー等の衰退に示されているように、生活圏内で展開される地縁型社会教育活動に触れる機会が乏しくなっていることから、地域社会の教育機能を実感する機会がなくなっていることが、地

域への期待値の低さとして表れているものと考えられる。

しかしながら、「学校・地域を主体とする項目が多いが、そういうものに参加できない子や親への支援も考えて欲しい。」「家庭・学校・地域の相互理解と連携が必須だと思います」「子育てが地域で出来るように、家庭教育が受けやすい環境に、未来を担う子ども達を育てやすい環境を、支援を、地域に学校を」「親も子どもも自分のことを認めてくれる、認められる場があればあるほど心の豊さにつながると思います。家庭、教育地域それぞれでおぎないあいながら子育てできたらと思います。困ったとき助けを求められるような関係性をつくれる場づくりも必要なのかなと思います」「家庭（PTA）と学校と地域の絆が強いと子ども達にとてもよい影響を与えていると感じる」など、地域へ期待する意見も散見された。

おわりに - 政策的示唆 -

この章では、家庭教育（子育て）支援の観点から本調査で得られた内容を検討した。本調査では設問を設けていないが、ひとり親家庭を対象に行った『令和元年度青森県親子等生活実態調査』（青森県健康福祉部こどもみらい課、2020年）によると、特に母子世帯では、71.4%が年収250万を下回っていることが明らかとなっている。本調査の自由記述をみても、経済的支援や教育費・生活費への不安を記した記述が30件みられた。問17では、家庭教育（子育て）支援に対する要望は「何もない」と回答する割合が約12%も占めていた。その他の自由記述からも類似する記述は散見されており、精神的にも余裕のない状況にあることが読み取れる。すなわち、家庭生活を営むことそのものが困難な状況であり、経済的支援に留まらず、文化的支援を緊急的にしていかなければならない状況であると言える。

このような状況において、これからの家庭教育（子育て）支援について、本調査から明らかとなったことを踏まえ、今後検討すべき政策的示唆を記してまとめとする。

1点目は、**「新しい家庭教育（子育て）支援プログラムの開発－講座主義からの脱却」**である。第3次産業が主流となった現代社会、保護者の労働形態も多様化している。休日や労働時間がシフト制となっている職種も多く、かつてのように「土・日が休日」とは限らない。仕事に家事と育児、人によっては介護を抱えている育児世代では、従来型の「講座」「研修会」は、そもそも参加しにくいのである。だからこそ、時間や場所が制約されない「インターネット・SNS」が志向されるのである。そこで、「講座」「研修会」形式にとらわれず、**育児情報を掲載したアプリの開発、SNSやYouTube、ZOOMなどのオンラインを用いた学習プログラムを開発し、対面型のものと組み合わせたハイブリット型の学習方法を展開していく必要があると考える。**その際、「カフェ」「サロン」「おさがり交換会」など、ちょっとした困りごと（愚痴）を聞いてもらえる「場」を設けるなど、気軽にかつライトに人との交流ができるプログラムを取り入れていくことが重要である。加えて、「講座」「研修会」についても、講義形式のものだけでなく、参加者同士が「交流できる」「話をする」「話を聴く」「一緒に考える」などの多様な学習方法を取り入れること、保護者の学びたい（知りたい）テーマや内容を反映した内容にしていく、短時間で完結できるプログラムなどの工夫も必

要である。

2点目は、「さまざまな機関との協働」である。本調査だけでなく前回の調査からも、「知りたい情報を誰から得ているのか」「知りたい情報を誰から得たいか」という設問に対して、「学校」と選んだ人が一定数あった。調査対象の学年からすると、第三者であり最も身近な存在として「学校」からへの期待が高い。対象児童の年齢によっては、「児童館・児童センター」や「放課後児童クラブ」「保育所・こども園」への期待も高いのではないかと推察される。青森県では「小学生のみが利用する」というイメージが強いが、児童館・児童センターは、0歳から18歳の児童が利用できる児童福祉施設である。乳幼児やその保護者向けの多彩なプログラムが実施され、子どもだけでなく保護者の利用や相談にも応じている。このことから、児童館・児童センターや学校と協働していくことで、**保護者が気軽かつ手軽に利用できる「ワンストップ」に近いしくみを構築していけるのではないかと考える。**

3点目は、「支援する人材の資質の検討」である。上記のとおり、教授型の講座・研修会にとらわれない支援プログラムの開発が求められている。**企画はもちろんのこと、その「場」をコーディネートする力量形成が求められる。**具体的には、問題が起きた時に行く場所というよりは、困るより前に、**ちょっと誰かに話を聞いてもらいたいな、という「場」をコーディネートし、それを聴く受け止める力量である。**「ユースワーク」や「居場所」の研究や実践では既知の力量で、阿比留久美は「何かをして『あげる』存在としてではなくそこに居ることのできる仲間の一員となる」（阿比留久美、2020）と説明している。イコールとまではいかないまでも、これらの実践はこれからの家庭教育（子育て）支援を考える上でも参考になると考える。

<参考文献>

- ・ 青森県教育委員会『学齢期における家庭教育支援の在り方現状調査報告書』2015年
- ・ 青森県健康福祉部こどもみらい課『令和元年度青森県親子等生活実態調査』2020年
- ・ 阿比留久美「自分で選ぶ自分の『居場所』—子ども・若者のかかわりかた」教育科学研究会編『教育』2020年6月号 62～69頁 旬報社

第4章 資料

調査結果単純集計表

結果数値(パーセント=%)は、少数第2位を四捨五入して少数第1位まで表示しています。
標準の有効回答数はn=3861となります。複数回答ならびに質問で分岐する際はn値が変動します。

問1 あなたの性別をお知らせください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	①男性	391	10.1%	10.1%	10.1%
	②女性	3462	89.7%	89.9%	100.0%
	合計	3853	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.2%		
合計		3861	100.0%		

問2 あなたの年代をお知らせください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	①20歳代	19	0.5%	0.5%	0.5%
	②30歳代	1119	29.0%	29.1%	29.6%
	③40歳代	2317	60.0%	60.2%	89.8%
	④50歳代	369	9.6%	9.6%	99.4%
	⑤60歳代以上	23	0.6%	0.6%	100.0%
	合計	3847	99.6%	100.0%	
欠損値	無回答	14	0.4%		
合計		3861	100.0%		

問3 お住まいの市町村をお知らせください。(記入市町村から地区へ置き換え)

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	東青地区	810	21.0%	21.0%	21.0%
	西北地区	463	12.0%	12.0%	33.0%
	中南地区	838	21.7%	21.7%	54.7%
	上北地区	774	20.0%	20.0%	74.7%
	下北地区	203	5.3%	5.3%	80.0%
	三八地区	773	20.0%	20.0%	100.0%
	合計	3861	100.0%	100.0%	
欠損値	無回答	0	0.0%		
合計		3861	100.0%		

問4 本調査票を持ってきたお子さんの学年をお知らせください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
有効	①小学校5年生	1939	50.2%	50.2%	50.2%
	②中学校2年生	1922	49.8%	49.8%	100.0%
	合計	3861	100.0%	100.0%	
欠損値	無回答	0	0.0%		
合計		3861	100.0%		

問5 本調査票を持ってきたお子さんからみて、あなたの続柄は何ですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①父	373	9.7%	9.7%	9.7%
	②母	3453	89.4%	89.6%	99.3%
	③祖父	1	0.0%	0.0%	99.4%
	④祖母	18	0.5%	0.5%	99.8%
	⑤おじ・おば	2	0.1%	0.1%	99.9%
	⑥その他	5	0.1%	0.1%	100.0%
	合計	3852	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.2%		
合計		3861	100.0%		

問6-1 あなたの現在の職業は、大きく分けて、次のどれにあたりますか。現在結婚している方は、配偶者の職業についてもお答えください。【ご自身】

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①会社経営者・役員	90	2.3%	2.3%	2.3%
	②会社員(契約社員や派遣社員を含む)、団体職員	1515	39.2%	39.4%	41.7%
	③公務員	279	7.2%	7.3%	49.0%
	④自営業(農家や個人商店等)、自営業の家族従事者	283	7.3%	7.4%	56.3%
	⑤臨時雇用・パート・アルバイト	1213	31.4%	31.5%	87.9%
	⑥専業主婦(夫)・働いていない	404	10.5%	10.5%	98.4%
	⑦その他	63	1.6%	1.6%	100.0%
	合計	3847	99.6%	100.0%	
欠損値	無回答	14	0.4%		
合計		3861	100.0%		

問6-2 あなたの現在の職業は、大きく分けて、次のどれにあたりますか。現在結婚している方は、配偶者の職業についてもお答えください。【配偶者】

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①会社経営者・役員	172	4.5%	5.5%	5.5%
	②会社員(契約社員や派遣社員を含む)、団体職員	1850	47.9%	59.2%	64.7%
	③公務員	466	12.1%	14.9%	79.7%
	④自営業(農家や個人商店等)、自営業の家族従事者	353	9.1%	11.3%	91.0%
	⑤臨時雇用・パート・アルバイト	128	3.3%	4.1%	95.1%
	⑥専業主婦(夫)・働いていない	86	2.2%	2.8%	97.8%
	⑦その他	68	1.8%	2.2%	100.0%
	合計	3123	80.9%	100.0%	
欠損値	無回答	738	19.1%		
合計		3861	100.0%		

問7 あなたと生計をともにしている家族は、あなたを含めて何人ですか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1人	95	2.5%	2.5%	2.5%
2人	424	11.0%	11.1%	13.5%
3人	545	14.1%	14.2%	27.8%
4人	1251	32.4%	32.7%	60.4%
5人	878	22.7%	22.9%	83.3%
6人	395	10.2%	10.3%	93.7%
7人	148	3.8%	3.9%	97.5%
8人	73	1.9%	1.9%	99.4%
9人	17	0.4%	0.4%	94.1%
10人	1	0.0%	0.0%	94.1%
11人	3	0.1%	0.1%	99.5%
12人	0	0.0%	0.0%	99.5%
13人	1	0.0%	0.0%	99.5%
合計	3831	99.2%	100.0%	
欠損値	無回答	30	0.8%	
合計	3861	100.0%		

問8-1 あなたと生計をともにしている家族はどなたですか。あなたから見た続柄であてはまる番号をすべて選んでください。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①配偶者	3070	79.5%		
②実父	259	6.7%		
③実母	398	10.3%		
④義父	310	8.0%		
⑤義母	456	11.8%		
⑥兄弟姉妹	107	2.8%		
⑦子ども	3467	89.8%		
⑧その他	122	3.2%		
合計	8189	212.1%		
欠損値	無回答	31	0.8%	
合計	8220	212.9%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問8-2 問8-1で<子ども>を選択した子どもの人数

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
1人	625	16.2%	18.2%	18.2%
2人	1617	41.9%	47.1%	65.3%
3人	934	24.2%	27.2%	92.5%
4人	212	5.5%	6.2%	98.7%
5人	34	0.9%	1.0%	99.7%
6人	8	0.2%	0.2%	99.9%
7人	4	0.1%	0.1%	100.0%
合計	3434	88.9%	100.0%	
欠損値	無回答	427	11.1%	
合計	3861	100.0%		

問9-1 あなたの家族の中で、平日や休日に主に子育てに関わっている人は誰ですか。【平日】

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①あなた	3236	83.8%		
	②配偶者	895	23.2%		
	③祖父母、おじ・おば	643	16.7%		
	④その他	69	1.8%		
	合計	4843	125.4%		
欠損値	無回答	12	0.3%		
合計		4855	125.7%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問9-2 あなたの家族の中で、平日や休日に主に子育てに関わっている人は誰ですか。【休日】

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①あなた	3393	87.9%		
	②配偶者	1297	33.6%		
	③祖父母、おじ・おば	422	10.9%		
	④その他	36	0.9%		
	合計	5148	133.3%		
欠損値	無回答	16	0.4%		
合計		5164	133.7%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問10-1 あなたは、平日や休日に子どもとふれあう時間はだいたい何時間ですか。現在結婚している方は、配偶者のふれあう時間についてもお答えください。【ご自身(平日)】

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①1時間未満	243	6.3%	6.3%	6.3%
	②1～2時間未満	734	19.0%	19.1%	25.5%
	③2～3時間未満	831	21.5%	21.7%	47.1%
	④3～4時間未満	864	22.4%	22.5%	69.6%
	⑤4時間以上	1166	30.2%	30.4%	100.0%
	合計	3838	99.4%	100.0%	
欠損値	無回答	23	0.6%		
合計		3861	100.0%		

問10-2 あなたは、平日や休日に子どもとふれあう時間はだいたい何時間ですか。現在結婚している方は、配偶者のふれあう時間についてもお答えください。【ご自身(休日)】

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①1時間未満	58	1.5%	1.5%	1.5%
	②1～2時間未満	215	5.6%	5.6%	7.1%
	③2～3時間未満	306	7.9%	8.0%	15.1%
	④3～4時間未満	484	12.5%	12.6%	27.7%
	⑤4時間以上	2772	71.8%	72.3%	100.0%
	合計	3835	99.3%	100.0%	
欠損値	無回答	26	0.7%		
合計		3861	100.0%		

問10-3 あなたは、平日や休日に子どもとふれあう時間はだいたい何時間ですか。現在結婚している方は、配偶者のふれあう時間についてもお答えください。【配偶者(平日)】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①1時間未満	769	19.9%	25.8%	25.8%
②1～2時間未満	764	19.8%	25.7%	51.5%
③2～3時間未満	604	15.6%	20.3%	71.8%
④3～4時間未満	427	11.1%	14.3%	86.1%
⑤4時間以上	413	10.7%	13.9%	100.0%
合計	2977	77.1%	100.0%	
欠損値 無回答	884	22.9%		
合計	3861	100.0%		

問10-4 あなたは、平日や休日に子どもとふれあう時間はだいたい何時間ですか。現在結婚している方は、配偶者のふれあう時間についてもお答えください。【配偶者(休日)】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①1時間未満	338	8.8%	11.3%	11.3%
②1～2時間未満	297	7.7%	10.0%	21.3%
③2～3時間未満	356	9.2%	11.9%	33.2%
④3～4時間未満	410	10.6%	13.7%	47.0%
⑤4時間以上	1581	40.9%	53.0%	100.0%
合計	2982	77.2%	100.0%	
欠損値 無回答	879	22.8%		
合計	3861	100.0%		

問11-1 本調査票を持ってきたお子さんは、朝食や夕食を誰と一緒に食べることが多いですか。【朝食】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家族全員と	1048	27.1%	27.2%	27.2%
②家族のだれか大人と	1458	37.8%	37.9%	65.1%
③兄弟姉妹だけで	754	19.5%	19.6%	84.7%
④子どもひとりで	443	11.5%	11.5%	96.2%
⑤食べない	62	1.6%	1.6%	97.8%
⑥その他	83	2.1%	2.2%	100.0%
合計	3848	99.7%	100.0%	
欠損値 無回答	13	0.3%		
合計	3861	100.0%		

問11-2 本調査票を持ってきたお子さんは、朝食や夕食を誰と一緒に食べるが多いですか。【夕食】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家族全員と	2280	59.1%	59.2%	59.2%
②家族のだれか大人と	1271	32.9%	33.0%	92.3%
③兄弟姉妹だけで	135	3.5%	3.5%	95.8%
④子どもひとりで	51	1.3%	1.3%	97.1%
⑤食べない	2	0.1%	0.1%	97.1%
⑥その他	110	2.8%	2.9%	100.0%
合計	3849	99.7%	100.0%	
欠損値 無回答	12	0.3%		
合計	3861	100.0%		

問12 あなたは、子育てをしていて、主にどのようなときに良かったと感じますか。 (回答は2つまで)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①子どもが喜んだ顔を見るとき	2742	71.0%		
②子どもと話したり、遊ぶとき	1104	28.6%		
③子どもの成長を感じる時	2692	69.7%		
④家族として一体感を感じる時	419	10.9%		
⑤学校や習い事などで子どもの生き生きとした様子を見たとき	594	15.4%		
⑥子育てを通して親の交流が広がったとき	80	2.1%		
⑦その他	17	0.4%		
⑧良かったと感じたことはない	8	0.2%		
合計	7656	198.3%		
欠損値 無回答	14	0.4%		
合計	7670	198.7%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問13 あなたは、子育てをしていて、主にどのようなことに負担を感じていますか。 (回答は2つまで)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①経済的な負担	1908	49.4%		
②肉体的な負担	539	14.0%		
③精神的な負担	818	21.2%		
④親同士のつきあいの負担	530	13.7%		
⑤時間的な余裕がないこと	1835	47.5%		
⑥子育てに関する情報が多すぎる	55	1.4%		
⑦子育てに関する情報が少なすぎる	68	1.8%		
⑧その他	113	2.9%		
⑨負担は感じていない	786	20.4%		
合計	6652	172.3%		
欠損値 無回答	19	0.5%		
合計	6671	172.8%		

※複数回答のため、割合の総和は100%を超える

問14 あなたは、子育てについて悩みや不安がありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①悩みや不安がある	1651	42.8%	43.4%	43.4%
	②悩みや不安はあまりない	1925	49.9%	50.6%	93.9%
	③悩みや不安は全くない	232	6.0%	6.1%	100.0%
	合計	3808	98.6%	100.0%	
欠損値	無回答	53	1.4%		
合計		3861	100.0%		

問15-1 あなたは、子育てについて主にどのような悩みや不安を持っていますか。悩みや不安が大きなものから順番に3つまでお答えください。【1番目に大きな悩みや不安】

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方のみ

(n=1738)

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①子どものしつけやマナーのこと	318	18.3%	18.7%	18.7%
	②子どもの健康や発達のこと	223	12.8%	13.1%	31.7%
	③子どもの勉強や進学のこと	637	36.7%	37.4%	69.1%
	④子どもの性格や癖のこと	119	6.8%	7.0%	76.1%
	⑤子どもの生活の乱れや非行のこと	33	1.9%	1.9%	78.0%
	⑥子どものいじめのこと	14	0.8%	0.8%	78.8%
	⑦子どもの友人関係のこと	65	3.7%	3.8%	82.6%
	⑧子どもの教育費のこと	154	8.9%	9.0%	91.7%
	⑨子どもの食物の安全性	3	0.2%	0.2%	91.8%
	⑩子どもの兄弟姉妹の関係	8	0.5%	0.5%	92.3%
	⑪子どもの性のこと	4	0.2%	0.2%	92.6%
	⑫子どもの気持ちが分からないこと	17	1.0%	1.0%	93.5%
	⑬子どもとのコミュニケーションが不足していること	25	1.4%	1.5%	95.0%
	⑭子どもの反抗的な態度への対応が分からないこと	43	2.5%	2.5%	97.5%
	⑮子育てへの家族の協力が得られないこと	13	0.7%	0.8%	98.3%
	⑯その他	29	1.7%	1.7%	100.0%
	合計	1705	98.1%	100.0%	
欠損値	無回答	33	1.9%		
合計		1738	100.0%		

問15-2 あなたは、子育てについて主にどのような悩みや不安を持っていますか。悩みや不安が大きなものから順番に3つまでお答えください。【2番目に大きな悩みや不安】

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方のみ

(n=1722)

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①子どものしつけやマナーのこと	112	6.5%	7.3%	7.3%
	②子どもの健康や発達のこと	155	9.0%	10.1%	17.4%
	③子どもの勉強や進学のこと	409	23.8%	26.7%	44.1%
	④子どもの性格や癖のこと	195	11.3%	12.7%	56.9%
	⑤子どもの生活の乱れや非行のこと	65	3.8%	4.2%	61.1%
	⑥子どものいじめのこと	30	1.7%	2.0%	63.1%
	⑦子どもの友人関係のこと	124	7.2%	8.1%	71.1%
	⑧子どもの教育費のこと	189	11.0%	12.3%	83.5%
	⑨子どもの食物の安全性	11	0.6%	0.7%	84.2%
	⑩子どもの兄弟姉妹の関係	28	1.6%	1.8%	86.0%
	⑪子どもの性のこと	18	1.0%	1.2%	87.2%
	⑫子どもの気持ちが分からないこと	40	2.3%	2.6%	89.8%
	⑬子どもとのコミュニケーションが不足していること	45	2.6%	2.9%	92.8%
	⑭子どもの反抗的な態度への対応が分からないこと	75	4.4%	4.9%	97.7%
	⑮子育てへの家族の協力が得られないこと	22	1.3%	1.4%	99.1%
	⑯その他	14	0.8%	0.9%	100.0%
	合計	1532	89.0%	100.0%	
欠損値	無回答	190	11.0%		
合計		1722	100.0%		

問15-3 あなたは、子育てについて主にどのような悩みや不安を持っていますか。悩みや不安が大きなものから順番に3つまでお答えください。【3番目に大きな悩みや不安】

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方のみ

(n=1706)

		度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
	①子どものしつけやマナーのこと	121	7.1%	9.6%	9.6%
	②子どもの健康や発達のこと	81	4.7%	6.4%	16.1%
	③子どもの勉強や進学のこと	123	7.2%	9.8%	25.9%
	④子どもの性格や癖のこと	142	8.3%	11.3%	37.2%
	⑤子どもの生活の乱れや非行のこと	44	2.6%	3.5%	40.7%
	⑥子どものいじめのこと	29	1.7%	2.3%	43.0%
	⑦子どもの友人関係のこと	96	5.6%	7.6%	50.6%
	⑧子どもの教育費のこと	209	12.3%	16.6%	67.2%
	⑨子どもの食物の安全性	14	0.8%	1.1%	68.3%
	⑩子どもの兄弟姉妹の関係	37	2.2%	2.9%	71.3%
	⑪子どもの性のこと	31	1.8%	2.5%	73.7%
	⑫子どもの気持ちが分からないこと	47	2.8%	3.7%	77.5%
	⑬子どもとのコミュニケーションが不足していること	85	5.0%	6.8%	84.2%
	⑭子どもの反抗的な態度への対応が分からないこと	118	6.9%	9.4%	93.6%
	⑮子育てへの家族の協力が得られないこと	55	3.2%	4.4%	98.0%
	⑯その他	25	1.5%	2.0%	100.0%
	合計	1257	73.7%	100.0%	
欠損値	無回答	449	26.3%		
合計		1706	100.0%		

問16-1 あなたは、子育てについて悩みや不安があるときに、主に誰に相談しますか。相談の頻度が多い相手の順番に3つまでお答えください。【1番目に頻度の多い相手】

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方のみ

(n=1731)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①配偶者	903	52.2%	53.3%	53.3%
②実父	9	0.5%	0.5%	53.9%
③実母	256	14.8%	15.1%	69.0%
④義父	0	0.0%	0.0%	69.0%
⑤義母	8	0.5%	0.5%	69.5%
⑥自分または配偶者の兄弟姉妹	57	3.3%	3.4%	72.8%
⑦自分または配偶者の友人	80	4.6%	4.7%	77.6%
⑧子育てをしている仲間	162	9.4%	9.6%	87.1%
⑨近所の人	0	0.0%	0.0%	87.1%
⑩学校の先生	19	1.1%	1.1%	88.2%
⑪放課後子ども教室・放課後児童クラブの職員	1	0.1%	0.1%	88.3%
⑫子育てサークルやNPOなどの民間団体	1	0.1%	0.1%	88.4%
⑬民生委員・児童委員	1	0.1%	0.1%	88.4%
⑭行政など公的機関	4	0.2%	0.2%	88.7%
⑮インターネットの相談サイト	2	0.1%	0.1%	88.8%
⑯子どもと話し合う	52	3.0%	3.1%	91.8%
⑰その他	16	0.9%	0.9%	92.8%
⑱相談相手がいない	41	2.4%	2.4%	95.2%
⑲誰に相談していいかわからない	16	0.9%	0.9%	96.2%
⑳相談しない	65	3.8%	3.8%	100.0%
合計	1693	97.8%	100.0%	
欠損値 無回答	38	2.2%		
合計	1731	100.0%		

問16-2 あなたは、子育てについて悩みや不安があるときに、主に誰に相談しますか。相談の頻度が多い相手の順番に3つまでお答えください。【2番目に頻度の多い相手】

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方のみ

(n=1724)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①配偶者	119	6.9%	8.0%	8.0%
②実父	31	1.8%	2.1%	10.0%
③実母	348	20.2%	23.3%	33.3%
④義父	4	0.2%	0.3%	33.6%
⑤義母	39	2.3%	2.6%	36.2%
⑥自分または配偶者の兄弟姉妹	140	8.1%	9.4%	45.6%
⑦自分または配偶者の友人	167	9.7%	11.2%	56.8%
⑧子育てをしている仲間	300	17.4%	20.1%	76.8%
⑨近所の人	3	0.2%	0.2%	77.0%
⑩学校の先生	94	5.5%	6.3%	83.3%
⑪放課後子ども教室・放課後児童クラブの職員	3	0.2%	0.2%	83.5%
⑫子育てサークルやNPOなどの民間団体	4	0.2%	0.3%	83.8%
⑬民生委員・児童委員	4	0.2%	0.3%	84.1%
⑭行政など公的機関	5	0.3%	0.3%	84.4%
⑮インターネットの相談サイト	11	0.6%	0.7%	85.1%
⑯子どもと話し合う	124	7.2%	8.3%	93.4%
⑰その他	29	1.7%	1.9%	95.4%
⑱相談相手がいない	22	1.3%	1.5%	96.9%
⑲誰に相談していいかわからない	24	1.4%	1.6%	98.5%
⑳相談しない	23	1.3%	1.5%	100.0%
合計	1494	86.7%	100.0%	
欠損値 無回答	230	13.3%		
合計	1724	100.0%		

問16-3 あなたは、子育てについて悩みや不安があるときに、主に誰に相談しますか。相談の頻度が多い相手の順番に3つまでお答えください。【3番目に頻度の多い相手】

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方のみ

(n=1706)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①配偶者	60	3.5%	5.0%	5.0%
②実父	21	1.2%	1.8%	6.8%
③実母	97	5.7%	8.1%	14.8%
④義父	1	0.1%	0.1%	14.9%
⑤義母	40	2.3%	3.3%	18.3%
⑥自分または配偶者の兄弟姉妹	94	5.5%	7.8%	26.1%
⑦自分または配偶者の友人	153	9.0%	12.8%	38.9%
⑧子育てをしている仲間	217	12.7%	18.1%	57.0%
⑨近所の人	6	0.4%	0.5%	57.5%
⑩学校の先生	135	7.9%	11.3%	68.7%
⑪放課後子ども教室・放課後児童クラブの職員	8	0.5%	0.7%	69.4%
⑫子育てサークルやNPOなどの民間団体	5	0.3%	0.4%	69.8%
⑬民生委員・児童委員	4	0.2%	0.3%	70.1%
⑭行政など公的機関	12	0.7%	1.0%	71.1%
⑮インターネットの相談サイト	19	1.1%	1.6%	72.7%
⑯子どもと話し合う	173	10.1%	14.4%	87.2%
⑰その他	51	3.0%	4.3%	91.4%
⑱相談相手がいない	17	1.0%	1.4%	92.8%
⑲誰に相談していいかわからない	26	1.5%	2.2%	95.0%
⑳相談しない	60	3.5%	5.0%	100.0%
合計	1199	70.3%	100.0%	
欠損値 無回答	507	29.7%		
合計	1706	100.0%		

問17-1 あなたは、家庭教育(子育て)についてどのような支援があればよいと思いますか。あればよいと思う順番に2つまでお答えください。【1番目にあればよい支援】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①親の役割やしつけの仕方などを学ぶ講座や研修会	243	6.3%	6.4%	6.4%
②子どもとの体験や交流を取り入れた講座や研修会	477	12.4%	12.6%	18.9%
③子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会	757	19.6%	19.9%	38.9%
④子育て中の親と親しくなれる場や機会	69	1.8%	1.8%	40.7%
⑤地域の人と親しくなれる場や機会	68	1.8%	1.8%	42.5%
⑥身近で気軽に相談できる場や機会	232	6.0%	6.1%	48.6%
⑦家庭訪問し、相談や話し相手になってくれる人	35	0.9%	0.9%	49.5%
⑧家庭教育(子育て)についての情報	150	3.9%	3.9%	53.4%
⑨子どもが安全安心に過ごせる場所	785	20.3%	20.7%	74.1%
⑩子どもを預かってくれる場所	112	2.9%	2.9%	77.1%
⑪地域みんなで子育てする社会環境	144	3.7%	3.8%	80.8%
⑫特にない	728	18.9%	19.2%	100.0%
合計	3800	98.4%	100.0%	
欠損値 無回答	61	1.6%		
合計	3861	100.0%		

問17-2 あなたは、家庭教育(子育て)についてどのような支援があればよいと思いますか。あればよいと思う順番に2つまでお答えください。【2番目にあればよい支援】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①親の役割やしつけの仕方などを学ぶ講座や研修会	93	2.4%	3.6%	3.6%
②子どもとの体験や交流を取り入れた講座や研修会	192	5.0%	7.4%	11.0%
③子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会	329	8.5%	12.7%	23.7%
④子育て中の親と親しくなれる場や機会	53	1.4%	2.0%	25.8%
⑤地域の人と親しくなれる場や機会	53	1.4%	2.0%	27.8%
⑥身近で気軽に相談できる場や機会	182	4.7%	7.0%	34.9%
⑦家庭訪問し、相談や話し相手になってくれる人	38	1.0%	1.5%	36.3%
⑧家庭教育(子育て)についての情報	174	4.5%	6.7%	43.0%
⑨子どもが安全安心に過ごせる場所	578	15.0%	22.3%	65.4%
⑩子どもを預かってくれる場所	255	6.6%	9.9%	75.2%
⑪地域みんなで子育てする社会環境	437	11.3%	16.9%	92.1%
⑫特にない	204	5.3%	7.9%	100.0%
合計	2588	67.0%	100.0%	
欠損値 無回答	1273	33.0%		
合計	3861	100.0%		

問18 あなたは、家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加していますか。

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①よく参加する	28	0.7%	0.7%	0.7%
②時々参加する	218	5.6%	5.7%	6.5%
③あまり参加しない	1100	28.5%	28.9%	35.4%
④参加したことがない	2454	63.6%	64.6%	100.0%
合計	3800	98.4%	100.0%	
欠損値	無回答	61	1.6%	
合計	3861	100.0%		

問19-1 あなたは、家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加して、主にどのようなことが良かったですか。良かったと思う順番に2つまでお答えください。【1番目に良かったと思うこと】

※問18で「① よく参加する」「② 時々参加する」と回答した方のみ

(n=246)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家庭教育の大切さを認識できたこと	55	22.4%	22.7%	22.7%
②しつけの仕方を学ぶことができたこと	11	4.5%	4.5%	27.3%
③子どもの気持ちを理解することができたこと	70	28.5%	28.9%	56.2%
④子育て中の仲間と知り合うことができたこと	30	12.2%	12.4%	68.6%
⑤同じ悩みを抱えている人がいることを知ったこと	28	11.4%	11.6%	80.2%
⑥気分転換を図ることができたこと	19	7.7%	7.9%	88.0%
⑦悩んでいることの解決方法を見出せたこと	16	6.5%	6.6%	94.6%
⑧講師や専門家などが相談に応じてくれたこと	8	3.3%	3.3%	97.9%
⑨その他	3	1.2%	1.2%	99.2%
⑩良かったと思うことはない	2	0.8%	0.8%	100.0%
合計	242	98.4%	100.0%	
欠損値	無回答	4	1.6%	
合計	246	100.0%		

問19-2 あなたは、家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加して、主にどのようなことが良かったですか。良かったと思う順番に2つまでお答えください。【2番目に良かったと思うこと】

※問18で「① よく参加する」「② 時々参加する」と回答した方のみ

(n=246)

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家庭教育の大切さを認識できたこと	18	7.3%	8.8%	8.8%
②しつけの仕方を学ぶことができたこと	12	4.9%	5.9%	14.6%
③子どもの気持ちを理解することができたこと	21	8.5%	10.2%	24.9%
④子育て中の仲間と知り合うことができたこと	24	9.8%	11.7%	36.6%
⑤同じ悩みを抱えている人がいることを知ったこと	38	15.4%	18.5%	55.1%
⑥気分転換を図ることができたこと	38	15.4%	18.5%	73.7%
⑦悩んでいることの解決方法を見出せたこと	35	14.2%	17.1%	90.7%
⑧講師や専門家などが相談に応じてくれたこと	17	6.9%	8.3%	99.0%
⑨その他	2	0.8%	1.0%	100.0%
⑩良かったと思うことはない	0	0.0%	0.0%	100.0%
合計	205	83.3%	100.0%	
欠損値	無回答	41	16.7%	
合計	246	100.0%		

問20-1 あなたは、家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加しやすくするために、どのようなことが重要だと思いますか。重要だと思う順番に2つまでお答えください。【1番目に重要だと思うこと】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①時間が短ければ良い	393	10.2%	10.3%	10.3%
②仕事先で開催されれば良い	309	8.0%	8.1%	18.4%
③興味のある内容だと良い	1022	26.5%	26.7%	45.1%
④分かりやすい内容だと良い	180	4.7%	4.7%	49.8%
⑤夜間や休日の開催だと良い	216	5.6%	5.6%	55.4%
⑥無料だと良い	288	7.5%	7.5%	63.0%
⑦身近な場所で開催されると良い	376	9.7%	9.8%	72.8%
⑧講師に相談できれば良い	47	1.2%	1.2%	74.0%
⑨参加者同士が意見交換できると良い	13	0.3%	0.3%	74.4%
⑩インターネットやSNSなどで提供されると良い	411	10.6%	10.7%	85.1%
⑪周知の仕方を工夫すると良い	68	1.8%	1.8%	86.9%
⑫その他	35	0.9%	0.9%	87.8%
⑬要件が整っても参加しない	467	12.1%	12.2%	100.0%
合計	3825	99.1%	100.0%	
欠損値 無回答	36	0.9%		
合計	3861	100.0%		

問20-2 あなたは、家庭教育(子育て)に関する講座や研修会などに参加しやすくするために、どのようなことが重要だと思いますか。重要だと思う順番に2つまでお答えください。【2番目に重要だと思うこと】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①時間が短ければ良い	148	3.8%	4.9%	4.9%
②仕事先で開催されれば良い	81	2.1%	2.7%	7.5%
③興味のある内容だと良い	344	8.9%	11.3%	18.9%
④分かりやすい内容だと良い	249	6.4%	8.2%	27.1%
⑤夜間や休日の開催だと良い	131	3.4%	4.3%	31.4%
⑥無料だと良い	445	11.5%	14.7%	46.0%
⑦身近な場所で開催されると良い	618	16.0%	20.4%	66.4%
⑧講師に相談できれば良い	87	2.3%	2.9%	69.3%
⑨参加者同士が意見交換できると良い	74	1.9%	2.4%	71.7%
⑩インターネットやSNSなどで提供されると良い	545	14.1%	18.0%	89.7%
⑪周知の仕方を工夫すると良い	157	4.1%	5.2%	94.8%
⑫その他	47	1.2%	1.5%	96.4%
⑬要件が整っても参加しない	110	2.8%	3.6%	100.0%
合計	3036	78.6%	100.0%	
欠損値 無回答	825	21.4%		
合計	3861	100.0%		

問21-1 家庭教育(子育て)について知りたい情報はどんなことですか。知りたい順番にあてはまる番号を2つまで選んでください。【1番目に知りたい情報】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①子どものしつけ	412	10.7%	10.8%	10.8%
②子どもの体の健康・発達	387	10.0%	10.1%	20.9%
③子どもの心の健康・発達	788	20.4%	20.6%	41.5%
④いじめ・不登校・ひきこもり	171	4.4%	4.5%	45.9%
⑤子どもの性	70	1.8%	1.8%	47.8%
⑥子どもへの虐待	3	0.1%	0.1%	47.8%
⑦子どもとのコミュニケーション	133	3.4%	3.5%	51.3%
⑧子どものほめ方・叱り方	650	16.8%	17.0%	68.3%
⑨子どもの携帯電話やインターネットの利用に関すること (ゲームやSNSを含む)	523	13.5%	13.7%	81.9%
⑩講座、研修会に関すること	23	0.6%	0.6%	82.5%
⑪相談窓口	35	0.9%	0.9%	83.5%
⑫子どもや親の交流の場	39	1.0%	1.0%	84.5%
⑬特にない	594	15.4%	15.5%	100.0%
合計	3828	99.1%	100.0%	
欠損値 無回答	33	0.9%		
合計	3861	100.0%		

問21-2 家庭教育(子育て)について知りたい情報はどんなことですか。知りたい順番にあてはまる番号を2つまで選んでください。【2番目に知りたい情報】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①子どものしつけ	154	4.0%	5.4%	5.4%
②子どもの体の健康・発達	200	5.2%	7.0%	12.5%
③子どもの心の健康・発達	425	11.0%	15.0%	27.4%
④いじめ・不登校・ひきこもり	154	4.0%	5.4%	32.9%
⑤子どもの性	115	3.0%	4.1%	36.9%
⑥子どもへの虐待	5	0.1%	0.2%	37.1%
⑦子どもとのコミュニケーション	160	4.1%	5.6%	42.7%
⑧子どものほめ方・叱り方	708	18.3%	24.9%	67.7%
⑨子どもの携帯電話やインターネットの利用に関すること (ゲームやSNSを含む)	596	15.4%	21.0%	88.7%
⑩講座、研修会に関すること	32	0.8%	1.1%	89.8%
⑪相談窓口	48	1.2%	1.7%	91.5%
⑫子どもや親の交流の場	96	2.5%	3.4%	94.9%
⑬特にない	146	3.8%	5.1%	100.0%
合計	2839	73.5%	100.0%	
欠損値 無回答	1022	26.5%		
合計	3861	100.0%		

問22-1 あなたは、家庭教育(子育て)についての情報を誰(何)から得ていますか。情報を得ることが多い順番にあてはまる番号を2つまで選んでください。【1番目に多く得る情報】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家族	1105	28.6%	28.9%	28.9%
②友人	1267	32.8%	33.2%	62.1%
③近所の人	24	0.6%	0.6%	62.7%
④ポスター・チラシ	20	0.5%	0.5%	63.2%
⑤テレビ・ラジオ	246	6.4%	6.4%	69.7%
⑥新聞	35	0.9%	0.9%	70.6%
⑦雑誌・書籍	175	4.5%	4.6%	75.2%
⑧回覧板・広報紙	35	0.9%	0.9%	76.1%
⑨インターネット・SNS	609	15.8%	15.9%	92.0%
⑩学校	207	5.4%	5.4%	97.4%
⑪講座や研修会	21	0.5%	0.5%	98.0%
⑫子育てサークル	2	0.1%	0.1%	98.0%
⑬子育てサポートセンター	8	0.2%	0.2%	98.2%
⑭その他	67	1.7%	1.8%	100.0%
合計	3821	99.0%	100.0%	
欠損値 無回答	40	1.0%		
合計	3861	100.0%		

問22-2 あなたは、家庭教育(子育て)についての情報を誰(何)から得ていますか。情報を得ることが多い順番にあてはまる番号を2つまで選んでください。【2番目に多く得る情報】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家族	269	7.0%	7.8%	7.8%
②友人	896	23.2%	26.1%	33.9%
③近所の人	49	1.3%	1.4%	35.4%
④ポスター・チラシ	37	1.0%	1.1%	36.4%
⑤テレビ・ラジオ	309	8.0%	9.0%	45.4%
⑥新聞	56	1.5%	1.6%	47.1%
⑦雑誌・書籍	230	6.0%	6.7%	53.8%
⑧回覧板・広報紙	57	1.5%	1.7%	55.4%
⑨インターネット・SNS	919	23.8%	26.8%	82.2%
⑩学校	508	13.2%	14.8%	97.0%
⑪講座や研修会	30	0.8%	0.9%	97.9%
⑫子育てサークル	1	0.0%	0.0%	97.9%
⑬子育てサポートセンター	15	0.4%	0.4%	98.3%
⑭その他	57	1.5%	1.7%	100.0%
合計	3433	88.9%	100.0%	
欠損値 無回答	428	11.1%		
合計	3861	100.0%		

問23-1 あなたは、家庭教育(子育て)についての情報を誰(何)から得たいと感じていますか。情報を得たい順番にあてはまる番号を2つ選んでください。【1番目に得たいと感じる情報】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家族	769	19.9%	20.3%	20.3%
②友人	824	21.3%	21.7%	42.0%
③近所の人	23	0.6%	0.6%	42.6%
④ポスター・チラシ	33	0.9%	0.9%	43.5%
⑤テレビ・ラジオ	327	8.5%	8.6%	52.1%
⑥新聞	73	1.9%	1.9%	54.1%
⑦雑誌・書籍	157	4.1%	4.1%	58.2%
⑧回覧板・広報紙	86	2.2%	2.3%	60.5%
⑨インターネット・SNS	646	16.7%	17.0%	77.5%
⑩学校	485	12.6%	12.8%	90.3%
⑪講座や研修会	95	2.5%	2.5%	92.8%
⑫子育てサークル	12	0.3%	0.3%	93.1%
⑬子育てサポートセンター	71	1.8%	1.9%	95.0%
⑭情報を得たいと感じていない	189	4.9%	5.0%	100.0%
合計	3790	98.2%	100.0%	
欠損値 無回答	71	1.8%		
合計	3861	100.0%		

問23-2 あなたは、家庭教育(子育て)についての情報を誰(何)から得たいと感じていますか。情報を得たい順番にあてはまる番号を2つ選んでください。【2番目に得たいと感じる情報】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①家族	177	4.6%	5.4%	5.4%
②友人	591	15.3%	17.9%	23.3%
③近所の人	46	1.2%	1.4%	24.7%
④ポスター・チラシ	41	1.1%	1.2%	25.9%
⑤テレビ・ラジオ	280	7.3%	8.5%	34.4%
⑥新聞	80	2.1%	2.4%	36.8%
⑦雑誌・書籍	213	5.5%	6.5%	43.2%
⑧回覧板・広報紙	181	4.7%	5.5%	48.7%
⑨インターネット	718	18.6%	21.7%	70.5%
⑩学校	636	16.5%	19.3%	89.7%
⑪講座や研修会	158	4.1%	4.8%	94.5%
⑫子育てサークル	30	0.8%	0.9%	95.4%
⑬子育てサポートセンター	100	2.6%	3.0%	98.5%
⑭情報を得たいと感じていない	51	1.3%	1.5%	100.0%
合計	3302	85.5%	100.0%	
欠損値 無回答	559	14.5%		
合計	3861	100.0%		

問24-1 子どもを育てるうえで、親の学習に特に大切だと思う内容は何ですか。必要だと思う順番にあてはまる番号を3つ選んでください。【1番目に必要だと思う学習】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①子どもの基本的生活習慣の定着	1096	28.4%	28.7%	28.7%
②子どもの自立心の育て方	1115	28.9%	29.2%	57.9%
③子どもとのコミュニケーションのとり方	446	11.6%	11.7%	69.5%
④親としての生き方	237	6.1%	6.2%	75.7%
⑤夫婦に関すること	15	0.4%	0.4%	76.1%
⑥家族に関すること	42	1.1%	1.1%	77.2%
⑦社会的モラル	186	4.8%	4.9%	82.1%
⑧子どもの心身の健康・発達	269	7.0%	7.0%	89.1%
⑨ライフスタイル	21	0.5%	0.5%	89.7%
⑩地域活動	8	0.2%	0.2%	89.9%
⑪子どもの自然体験を充実させる方法	32	0.8%	0.8%	90.7%
⑫子どもの耐性や適応性を育てるための方法	128	3.3%	3.3%	94.1%
⑬性教育	14	0.4%	0.4%	94.5%
⑭男女共同参画	5	0.1%	0.1%	94.6%
⑮いじめ・不登校・ひきこもり	32	0.8%	0.8%	95.4%
⑯子どもの虐待防止	7	0.2%	0.2%	95.6%
⑰子どもの非行	6	0.2%	0.2%	95.8%
⑱発達障害	31	0.8%	0.8%	96.6%
⑲これからの社会を見据えた学び(SDGs、Society5.0など)	74	1.9%	1.9%	98.5%
⑳学習の必要はない	57	1.5%	1.5%	100.0%
合計	3821	99.0%	100.0%	
欠損値 無回答	40	1.0%		
合計	3861	100.0%		

問24-2 子どもを育てるうえで、親の学習に特に大切だと思う内容は何ですか。必要だと思う順番にあてはまる番号を3つ選んでください。【2番目に必要だと思う学習】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①子どもの基本的生活習慣の定着	255	6.6%	6.9%	6.9%
②子どもの自立心の育て方	758	19.6%	20.4%	27.3%
③子どもとのコミュニケーションのとり方	397	10.3%	10.7%	38.0%
④親としての生き方	252	6.5%	6.8%	44.8%
⑤夫婦に関すること	40	1.0%	1.1%	45.9%
⑥家族に関すること	118	3.1%	3.2%	49.1%
⑦社会的モラル	408	10.6%	11.0%	60.1%
⑧子どもの心身の健康・発達	498	12.9%	13.4%	73.5%
⑨ライフスタイル	67	1.7%	1.8%	75.3%
⑩地域活動	26	0.7%	0.7%	76.0%
⑪子どもの自然体験を充実させる方法	99	2.6%	2.7%	78.7%
⑫子どもの耐性や適応性を育てるための方法	456	11.8%	12.3%	91.0%
⑬性教育	51	1.3%	1.4%	92.3%
⑭男女共同参画	9	0.2%	0.2%	92.6%
⑮いじめ・不登校・ひきこもり	72	1.9%	1.9%	94.5%
⑯子どもの虐待防止	22	0.6%	0.6%	95.1%
⑰子どもの非行	16	0.4%	0.4%	95.6%
⑱発達障害	45	1.2%	1.2%	96.8%
⑲これからの社会を見据えた学び(SDGs、Society5.0など)	119	3.1%	3.2%	100.0%
⑳学習の必要はない	1	0.0%	0.0%	100.0%
合計	3709	96.1%	100.0%	
欠損値 無回答	152	3.9%		
合計	3861	100.0%		

問24-3 子どもを育てるうえで、親の学習に特に大切だと思う内容は何ですか。必要だと思う順番にあてはまる番号を3つ選んでください。【3番目に必要だと思う学習】

	度数	パーセント	有効パーセント	累計パーセント
①子どもの基本的生活習慣の定着	183	4.7%	5.1%	5.1%
②子どもの自立心の育て方	279	7.2%	7.8%	12.8%
③子どもとのコミュニケーションのとり方	271	7.0%	7.5%	20.4%
④親としての生き方	199	5.2%	5.5%	25.9%
⑤夫婦に関すること	29	0.8%	0.8%	26.7%
⑥家族に関すること	96	2.5%	2.7%	29.4%
⑦社会的モラル	293	7.6%	8.1%	37.5%
⑧子どもの心身の健康・発達	423	11.0%	11.8%	49.3%
⑨ライフスタイル	89	2.3%	2.5%	51.7%
⑩地域活動	44	1.1%	1.2%	53.0%
⑪子どもの自然体験を充実させる方法	128	3.3%	3.6%	56.5%
⑫子どもの耐性や適応性を育てるための方法	583	15.1%	16.2%	72.7%
⑬性教育	126	3.3%	3.5%	76.2%
⑭男女共同参画	18	0.5%	0.5%	76.7%
⑮いじめ・不登校・ひきこもり	132	3.4%	3.7%	80.4%
⑯子どもの虐待防止	27	0.7%	0.8%	81.1%
⑰子どもの非行	59	1.5%	1.6%	82.8%
⑱発達障害	137	3.5%	3.8%	86.6%
⑲これからの社会を見据えた学び(SDGs、Society5.0など)	470	12.2%	13.1%	99.6%
⑳学習の必要はない	13	0.3%	0.4%	100.0%
合計	3599	93.2%	100.0%	
欠損値	無回答	262	6.8%	
合計	3861	100.0%		

問25 以下の教育項目について、家庭・学校・地域のどこで身につけさせることがよいと思いますか。あてはまる欄に○を記入してください。(各項目につき1つ)

上段:回答数/下段:構成比

	家庭が中心で	学校が中心で	地域が中心で	無効	無回答	計
A 基本的生活習慣(例えば、洗顔、自分で起床、あいさつなど)	3746	28	7	9	71	3861
	97.0%	0.7%	0.2%	0.2%	1.8%	100.0%
B 生活体験(例えば、タオルをしぼる、小さな子の世話、ナイフの使い方など)	2968	608	171	12	102	3861
	76.9%	15.7%	4.4%	0.3%	2.6%	100.0%
C 自然体験(例えば、海や川で遊ぶ、自然観察、登山など)	1342	1441	956	18	104	3861
	34.8%	37.3%	24.8%	0.5%	2.7%	100.0%
D 自主性(自分の判断で行動する態度)	1540	2133	53	28	107	3861
	39.9%	55.2%	1.4%	0.7%	2.8%	100.0%
E 自制心(感情・欲望などを自分で抑えること)	2237	1454	33	23	114	3861
	57.9%	37.7%	0.9%	0.6%	3.0%	100.0%
F 自立心(人に頼らず、独り立ちして自力でやっていこうとする心構え)	2017	1596	117	24	107	3861
	52.2%	41.3%	3.0%	0.6%	2.8%	100.0%
G 豊かな情操(美しいものを美しいと感じる心)	2062	1000	667	17	115	3861
	53.4%	25.9%	17.3%	0.4%	3.0%	100.0%
H 他人への思いやり	1720	1776	236	30	99	3861
	44.5%	46.0%	6.1%	0.8%	2.6%	100.0%
I 道德感	1154	2392	186	20	109	3861
	29.9%	62.0%	4.8%	0.5%	2.8%	100.0%
J 社会的なマナー	1930	1328	487	32	84	3861
	50.0%	34.4%	12.6%	0.8%	2.2%	100.0%
K 正義感	1598	1946	159	31	127	3861
	41.4%	50.4%	4.1%	0.8%	3.3%	100.0%
L 人間関係づくり	314	3166	267	26	88	3861
	8.1%	82.0%	6.9%	0.7%	2.3%	100.0%
M 職業観	631	2188	904	24	114	3861
	16.3%	56.7%	23.4%	0.6%	3.0%	100.0%
N 性教育	883	2778	40	47	113	3861
	22.9%	72.0%	1.0%	1.2%	2.9%	100.0%

※各項目につき2つ以上回答されていた場合は「無効」とした

問26 家庭教育支援の在り方について、ご意見がございましたら自由にお書きください。

- あまりマニュアル化しない方がいいと思いつつながら過ごしています。昔の家庭教育をみならいたいと思いつつありますが。
- 問25は家庭、学校、地域のどこで身につけさせるか→第一は全て家庭だと思う。家庭が土台となり、学校で集団での動きを考え身につけ、それを発展させるのが地域での活動だと思う。今は共働きが多いし、その地域活動に参加が難しくて休みは家に閉じこもる事が多い子どもが多いと思う。そこを改善しなきゃ外に子どもが出てふれあえないし。でもとにかく親が家庭が土台だと思う！
- 家でも地域でも、大人は日中働いています。子どもも、学校の他、クラブや習い事で家にいません。家庭である程度身につけさせたいことがあっても、お互い時間がありません。何もかも学校にやってもらうのもおかしいけど、大人もたくさんいて、子どもの人数もある程度ある学校でいろいろやってもらうのがいいような気がします。
- 反抗期の対応が難しく、つい、親もイライラしてしまう。何かいい方法ないでしょうか？
- サービス業をしている為、土、日の休みが月2回程しかない為、子どもがどのように過ごしているのかがあまりわからない。きちんと宿題や家庭での勉強をやってもらえるように意識付けできるようにしたいが、うまくいかない。この辺りをうまく教えてもらいたい。

- 大人がもっと気軽に頼れる機関があると良いと思う。大人（親）が安定すれば子育ても余裕をもってできるし、虐待等、子どもたちが悲しむことを減らすことができるから。
- 個人の尊重と、家庭でのしつけで社会に適応できる「人」になって欲しいと願っています。学校教育と家庭教育のマッチングを検討して頂ければ…。
- 親同様（学校）、いじめ問題への対応の薄さを感じています。勉強よりも人間関係を学ばなければ社会へでも他人を思いやれない人間になると思います。無関心もダメ、過保護もダメ、大人がもっと他人への気持ちを学ぶべきだと思います。
- 基本的な教育は家庭内にあると思っています。しかし、中々共働きとなると子どもの話をゆっくりと聞いてあげる時間を持たず成長と共に本人任せになってしまっている事が沢山あります。親として十分な教育が出来ているか少し不安です。
- 夫婦間や家族間でも子どもに寄せる展望（大学まで行って欲しい、高校までで良い…等）に相違があると思いますし、夫婦間等で学歴差があったりすると高学歴の方の意見に方に傾いたり、子どもに対して教育ではなく押し付けになったりし、子どもを圧迫するのではと思います。時間が有り、よく話し合える家族であればいいのですが難しい家庭もあると思うのでワークシート（夫婦それぞれが回答して、すり合わせるような）や子どもの教育にどの様に接していけば良いのか提案されたリーフレットがあれば良いと思います。
- 子育ては、家庭での教育にも限界があるし、かといって学校や地域の負担になっても嫌なので、家庭と周囲の人々とで協力していかなくてはいけない。ただ、それを実際にできるかというとなかなか…今の現状は家庭（親）の子育ての負担が大きくなっていると思う。
- 子どもにかかる経済的負担をへらしてほしい。余裕がないのであれこれがまんさせる事が多い。小学生のうちには経済的理由で部活をさせられなかった。子どもに悲しい思いをさせたと思う。お金がないので子どもにあきらめてほしいとお願いした事があり、親としてもつらい。
- 親も子どもも自分のことを認めてくれる、認められる場があればあるほど心の豊さにつながると思います。家庭、教育地域それぞれでおぎないあいながら子育てできたらと思います。困ったとき助けを求められるような関係性をつくれる場づくりも必要なのかなと思います。
- 親の学習は、なかなか教育できる物ではないと思う。もう、習慣や考え方はできあがっていて、それを子どもが影響を受ける。時代背景もあるが根深い問題で講座や研修で改善しないと思う。研修や講座を受けようと思う人はまだ、大丈夫な人、そもそも、気づかない人が問題な人だと思う。
- 質問で「子どもとふれあう時間」と見た時“はっ”としました。休日も平日も意識して子と真正面から向き合うような時間を作らなければならない。現状はとても少ない…と反省しました。
- 教育に貧困の差が高い様に、進学に金がかかる為に低所得の人に県独自の無料の支援があれば良い。
- 地域は期待できないが、学校と家庭での協力が必要だと思う。家庭だけでは難しい部分、学校だけでは難しい部分も絶対ある。
- 地域が中心となって子どもへの教育すべき事はないと思うが児童館活動を通じて地域の行事や一人暮らし高齢者との交流等をする事は、他人への思いやりを育む上でとてもよいと思う。家庭（PTA）と学校と地域の絆が強いと子ども達にとってもよい影響を与えていると感じる。（野内はとてもいい環境ですよ！）
- 最近思うのは、子どもたちからのあいさつがないこと、返事がないこと。地域の方々に協力してもらって子育てができるのにこのコロナでできない。何かできるような何かを考えてほしい。
- 問25について。地域とはどこまでの事を指すのか不明だったためかたよった回答になってしまい申し訳ありません。
- 親自身が時間に余裕がなく、家庭で子どもに教えてあげないといけない事も、学校に頼ってしまっています。悩みについて色々な相談場所を利用したい気持ちはあるが自分に時間がない。個人情報の問題、周りのうわさなどなど気になり、公共の場所は利用しないと思います。
- 親を教育すべきだと思います。コンビニとかで買い物中、べらんめい口調で子どもをしかっている親がいました。それで愛情がある接し方だといいいのですがそう感じない親も多い。子どもも1人の人間、私たち親は先に生まれて先に人生を経験しただけの先輩にすぎない、私自身まだまだ未熟です。だから子ども達と一緒に成長して行きたい。そして、経験したことは助言して見守っていこうと思っています。私は核社会ではなく親も配偶者の親と同居し、あるいは関りをもつことにより、成長できると思っています。が、親と住んでいる人は少ない。そこに少子化になった原因がある様に感じます。

- 施設に入所している子なので、親の立場から…と言われても自分の家庭の方がつい感情移入してしまっていて、この施設の子だったら…と思ってアンケートを書いたつもりだったがとても難しかった。実際子どもは兄弟姉妹が少なくなっているので思いやりを持つとか、家庭でみられない部分が多いと思います。家庭で教えるべきことが、学校や地域の方に頼りたくなっているのが現状かな。
- 子ども（女）が、4年生でもう生理が始まり、思っていたより早く…学校の方でも、もう少し早く体の変化（生理）の授業をもうけてほしいと思いました。
- 子どもも親もいろいろな事に興味を持てるよう、楽しいことがたくさんみつけれればいいなあと思う。自分も見つけようと思います。そのお手伝いをして欲しい。確かな情報が欲しいです。
- 自分にも至らない点があるのを承知で、実は大人がモラルに欠けている事が多いと感じている。親が成長していくことが家庭教育で不可決だと思う。
- 誰かに頼りるのも必要ですが、まずは家庭で基本的な事をするのが大事だと思う。親や兄弟とふれあう、食事を一緒にするなど基本的な事などから始められるようにする。何もしないで他人の支援だけ望むようなかんきょうを作るのではダメだと思う。
- 地域や学校又は家庭でと線引きした教育ではなく、連携していけたらと良いと思う。担任の先生は親身になって相談、対応してくれるが、その内容が学校全体に周知されておらず、不快（不安）な思いをした事が多々ある。
- この項目は学校で、この項目は家庭でと分けるのではなく、学校家庭両方で育むものだと思います。1番は家庭教育。次は学校ですが担任の先生は非常に大切な存在です。先生によって子どもは大きく変わります。次男は今年度とても素晴らしい先生に出会え、目を輝かせて学校から帰宅して、先生の話はずっとしてくれます。この様な先生が増えますように…。
- 性教育について学校できちんと教えてほしい。命の大切さを教える前に命がどのようにして出来るのかを子どもの時からきちんと教育の場で教えてほしいと思う。家族間ではなかなか話せないデリケートなことなので、…。
- 親世代は子どものころ今なら「虐待」と言われることをあたり前にされて育ちました。（たたかれる、とじこめられるetc）子育てしにくい世の中で発達障害児グレーゾーンを育てるには大変です。健常者でも発達障害のように想像力もありませんので、マナーもあったものではありません。どうしたらよいかわかりません。
- 支援を必要としている「親」も大切ですが、必要としている「子ども」に焦点を当てる事も大切だと思います。親だけではなく、子どもにアプローチする事で防げる虐待があると思います。子どもの話をたくさん聞いてあげて欲しいです。
- 日本全体が性教育について遅れていると思います。親の世代も、きちんと性教育を受けていないので、伝え方も分かりません。いやらしいものではなく、性について楽しく素晴らしいものなんだと社会全体が変わってほしいです。
- 問25のA～Nの教育は家庭で基本的に生活する上で身に付けてほしい内容です。
- 問25に関してですが、各項目につき1つと書かれていますが、あてはまらない部分がたくさんあると思います。3つの連携が必要だと感じられます。
- 相談先はいくらでもありますが、ただ話を聞くばかりで動いてくれるところはありません。なので結局相談したところで何ひとつ解決していません。相談、相談ばかりで疲れました。結局最後に動かなければいけないのは親ですから。サポートセンターだの福祉施設だの無意味です。人手不足は言い訳にしか聞こえません。
- 子どもの教育は家庭のみで行うことは難しいので、子どもと過ごす時間が一番長いと思われる教諭と情報交換をしたり相談しながら、成長を見守りたいのが理想ですが、今まで親身だと教諭に印象を感じることがなく残念に思います。働き方の改革などもあると思いますが、子どもへの思いに希薄さを感じるため、なかなか相談をしようと思えません。親が子どもの教育をし、責任を取ることは当たり前のことですが、身近な人に信頼して安心して一緒に子育てできないのは不安です。
- 本当は家庭で様々な事を子どもに教え伝えていくのが良いと思いますが、現代の環境ではむずかしい事も多くあり、それは学校や地域がサポートするものだと考えます。
- 一人親ばかり優遇しすぎ。別れた、未婚、理由は知らないが子どもがいるのはかわりない。偽装離婚多し。役所なんて何も知らないで金まいてるだけ。ちゃんとそういう仕事してほしい。紙きれ1枚で目を通しておわり。ふざけすぎ。

- 妻が亡くなり普通の生活が手一杯な事もあり、子ども達は積極的に家の手伝いをしてくれますが、自主的に勉強が出来ていないようです。子どもが3人おり、学校からのプリントが多すぎて大変困っています。
- 思いを外に出せないことがある子もいると思うので、大人（先生など）が温和でよりどころになれるよう努める。ヒステリーな先生が多く、子どもの方が我慢して冷静に見ている。可哀想な面がある。大人からだと思えます。
- 家庭教育という正しい正解の見つけにくい問題については、気軽にまわりの人へ相談できる環境は大事だと思う。それと、家族や子ども本人と都度話し合える家庭作りも必要と思えます。
- 問13でも記入しましたが、学校での学習面で親の負担が多い。（夏、冬休みの宿題等）共働き世帯が増えている中、夫婦だけで子育てをしていると、仕事、家事、育児とたくさんやる必要があるのにも関わらず、更に宿題の丸付け、直しなど手が回らない。学校の先生達も大変だろうが、なんとか検討して欲しい。うちは長男がLDで読み書きが苦手なので、更に負担です。
- 今は、両親共働きが多く、子どもと十分に向き合う時間がない家庭が多いと思う。子ども達の成長のために、親側への支援や子ども達が安心安全で楽しく過ごせる場所が増えると良いと思う。一人っ子や、親が忙しく子どもだけで過ごす時間がある子ども達に、寂しい思いをさせないような環境づくりが進んで欲しい。
- 子育てするうえで、親の負担がかなり大きいと感じた。もっと親をサポートする体制ができれば良いと思った。（地域のコミュニティや親の教育など）
- 講座や研修会などがあった場合、一時預かりの場を設けると参加しやすいと思う。
- とにかく孤立でした。研修会、講座等は車が無いと行けない所でしか開催されないし、同年代の子と遊べる場所もなかった。情報もどこにあるかわからなかった。各地域の小学校にでも、1~3歳児が遊べる日や時間があればいいのに・・・とっていました。冬はもっともっと孤立になる。車がない家庭のことも少し考えて欲しい。
- 自学のノートを見ると、字を大きく書いてスペース稼ぎ(?)をしているのに注意しないのかと思う時があります。学校側は「家庭で」と言うかもしれないが「先生はダメって言わない」と言われればあとは何も言えなくなってしまうので、指導、注意はやって欲しいと思う。そうじゃなければ、ドリルやプリントにして欲しい。
- 経済的に裕福な家庭のほうが勉強面で有利だと思います。低所得者より。
- 今の時代、SNS、インターネット、ゲーム（通信で出来るもの等）がありふれていて、昔の外でどろんこだらけになって遊ぶとか、山・川・海で遊ぶという事をしなくなってしまった時代には、全く良さを感じません。そんな中でも、生きていかなきゃいけない時代になってしまい、親の目から見てみても、子どもだけじゃなく、今の若い親たちにも積極的に勉強が必要だと思います。
- シングルマザーで、フルタイムで仕事の為、帰宅すると娘が一人で眠ってしまっていたり、生活リズムが崩れています。私は実父、実母もいない為、これでいいのか不安になります。
- アンケートの内容が対象年齢の子どもを持つ親に合っていない。もう少し小さい子向けに出した方が良いと思う。
- PTA等の学校での親のあり方について古い感じがします。一人親や経済的に厳しい家庭、様々な家庭がある中、みんなで…という考え方が子ども達に考える力をなくしている様な気がしてなりません。家庭教育支援というものも、ただの価値観の話だけであり、社会（仕事のあり方）が変わらない限り私には必要性を感じません。理想と現実の違いを国全体で考えない限り、この在り方のおしつけはやめて頂きたいです。
- 親子一緒に学びたいです。
- もっと具体的に（支援の内容など）周知されるようになると相談しやすいです。現在だと、どこに相談すればいいのか分かりにくさを感じています。
- 現在無職となり、子ども達と接する時間が増えました。仕事をしている時は、家事・仕事でほとんど子どもときちんと接することができませんでした。家庭教育支援は大事ですが、根本的に女性が仕事の時間を減らしやすい環境ができるといい。フルタイムで働いていると、セミナーやサークルに参加する時間は限られると思います。
- 親も性についてちゃんと理解できていない事もあります。自分の体を大切にする事をたくさん学ばなければならないと思います。親子で性教育を学べる環境があれば良いと思います。あと、LGBTの事などもちゃんと学べたら良いと思います。

- 問25は基本的には家で出来る事は家で。でも仕事とか時間がないとか家で出来る事ができなくなった場合、学校や地域でやって頂けるとありがたいと思います。
- 自分達親が元気な内に子ども達が社会に出て独立して行けるようにマナーやルール等を教えてあげることで、少しでも日本の未来が明るくなればと思うので、このアンケートを参考により良い政策に繋げて下さい。
- 子どもの教育費が不安です。一番困ってます。
- 親が子に対して今、何が必要なのかが分かっていない状況にあります。それはどの様にすれば気付くことができるのか教えてほしいです。
- 問24ですが、必要な箇所が沢山あり3ヶでは物足りなかったです。
- 家庭の中だけで教える（教えられる）限度を感じ、責任を学校に押し付けるのではなく、集団生活の中で、自分がその中に居て、感じる事、出来る事。思うことが沢山あり、やはり“学びの場であり、学ぶことが出来る場”が学校であると感じております。コロナが存在していなければ、地域のイベント参加を通して学べることも多々あるとは思いますが、ゆっくりあせらず、1つずつ着実に…。頑張っていきます。
- 地域活動(子ども会を含む)には限界があり、現実的には昔のようにはいかないと考える。学校活動として様々な教育をお願いしたいが、基本的には家庭教育が大切と考えている。
- 問25はなぜ家庭・学校・地域の“どこで”と選択肢を○1つにしぼったんでしょうか。1、2、3等の順位番号的なものでよかったと思います。家庭と学校が主に中心で、地域はそのサポートなど、家庭でも学校でも地域でも教育できるような状態が一番良いと思うのですが。
- 今までは勉強していい学校に進学して就職して…と思っていたが、頭が良くても、協調性や社会性が乏しければ、世間(社会)についていけないような気がします。学歴が物を言うとは言ったものだけど、もっと自由に学校で過ごせたらいいのではないかと思います。自由のなかからいろいろな会話をし、自分達で考え、ギモンを解決し、達成感を持たせ、ステップUPできればいいのだと思います。子どもの頃からギスギスしたストレス社会を与えているのは大人だと思います。
- 問25に対して、地域が中心でに○ができなかった。また、子どもの教育に地域がどの様にかかわっているのか、正直分からなかった。
- ひとり親への配慮したアンケート内容にしてほしかった。
- 困っている人が困っていると安心してすぐに相談できるような場があるといいと思います。人と人が関わり、支え合うのが一番いいと思いますが、知りたい情報の短い講演のようなものの動画がすぐに見られるようなものがあると活用しやすいかもしれません。
- 個人が子育てするには限界があります。親も含め、地域社会、様々な価値観の中で子ども達を育てる事が理想だと考えます。
- 問25ほとんどが学校にしましたが、家庭と学校の協力がほとんどでおしつけでなく、かんちがほしいです。
- 小学校の高学年になると、友達同士で遊びたい(集まりたい)となってきますが、地域に無料で使っているスペース(室内)がもっとできればいいと思います。
- 学習面において地域差がないように希望します。わからないままに進んでいる所も見受けられるので、教師1人に対するクラスの人数基準を少なくして1人1人に目の届く教育環境が理想的です。
- 中学校も給食にして欲しいです。
- 学校以外で相談できる所が欲しい。気軽に話せると助かりますし、時に学校の先生に問題がある時は子ども達のために動いてくださると助かります。(親の一方的なかんちがいが本当に問題か客観的に見る人も必要に思うので)。あと、性教育は専門家の方に学校に来てもらい、最新の情報も入れながら必要な知識をおしえて頂きたいです。(学校の意識が常識とずれている場合もあるため、外部からの専門家の方からおしえていただくことが大事だと思います)性暴力もひどい世の中なので知識をもち自分を守り、体調かんりするのはとても大切な教育だと思います。家庭まかせだと知識のかたよりやぎゃくたいを見ぬけないのでぜひ学校に専門家の方をおよびしてほしいです。
- 学年が上がるにつれ、社会全体で子どもだけでも大丈夫であろうと思われているように感じる。まだまだ未熟な子ども達と一緒にいる時間をもっと作り生活習慣から勉強まで手をかけてあげたいと思うが、夫婦生活に年齢的にも会社でも責任のある立場だし、時間を作るために従業時間を短くしたり、転職する・・・というのは経済的に厳しい。

- 各家庭によって、子どもの発達が、みんな異なりますが、学習面において、偏差値が高い子どもは、どんどん上を目指せるように、学校内でもグループ分けをして、もっと難しい問題などを解けていくことができるように、できる子を、よりいっそう引き伸ばしていけたら、学校生活が充実しますし、教員とのコミュニケーションがとれると思います。
- 近年、小さい子（小学生）も発達障害が多いと感じる。又、新社会人の中にも、コミュニケーションが上手くとれない人や、常識がない…又は昔と違うなと感じる若者が多い。自分の考えを自分の言葉にできるように、敬う心を持てるように、人の考えている事をくみとれるように、その時に自分はどうするべきかを判断できるようになって欲しい。家庭・学校・地域一体で取り組めればいいと思う。
- ・学びたいと思う人しか学ぶ機会がない。・最低限の知識やモラル等、全ての親が学ぶ機会を作してほしい。
- リモート、オンラインなど家庭で学習する時代になりつつあると思うのですが、家だと気持ち的にさぼりがちで身につかないです。うまくオンライン学習になじめる方法があれば知りたい。
- 共働きがあたり前の時代でまだまだ週6仕事のところもあったり仕事が大変で疲れ子どもにかまってる時間がないことが1番問題です。学校からもってくる多量のプリント、提出物全て私にはストレスになります。ヒマな両親はいいけど4人子ども下は双子（6カ月）時短にしてもらって働いて時給カット定時に戻せば帰宅してから自分の時間はない。そんな中で家庭教育とか出来ない。この用紙も何が必要となるのか私には意味がわかりません。他に助けられることないのでしょうか？
- 問25の各項目は「家庭が中心で」という考えではありますが、家庭だけでは足りない項目ばかりだと思います。各家庭により考え方は違いますし、差が出ると思います。どこかが中心とかではなく、「共に」ではだめなのでしょうか。例えば、「性教育」。年齢が上がると親と「性」については話しづらくなると思います。そんな時は、学校で専門家の先生を招いて授業するみたいな。
- 問25のA、C、Fは家庭と思っていますが、親が1人で抱えているのは正直かなり精神的、肉体的にも負担です。特に片付け、自主勉強については家庭に戻ると気持ちが緩んでしまい、拒絶が激しいのです。学校やメディア等でも子ども達が少しで良いので興味を引くように取り組める様にサポートできないものなののでしょうか
- 忍耐力を子ども時代で身に付けた人は大人になっても何事にも耐えれると聞いた事がありますが、私の実体験に基づいた方法では、今のご時世ではスポ根と呼ばれ、指導力が無い私にとっては難しい課題です。“理にかなった忍耐力を身に付けさせる方法”を知りたいです。
- なんでもインターネットで調べられる時代ですが、ひきこもりや、発達障害など、人に聞きにくい事を相談しやすい、情報が入りやすい環境だいいと思います。
- 私は小5と中2の女の子がいます。携帯は高校生になってからと言って持たせていません。やっぱり携帯でのトラブルが多いと思います。子どもがほしいからと持たせるのもどうかなと思っています。
- たまたま、サポートにたずさわる情報を教えてくれる友人がいたので、すぐ相談が出来ました。もっと気軽に相談できる所がある事を広げていってくれば、こどくになやむ人も少なくなると思う。成功例だけでなく、失敗例もわかると自分だけじゃないんだと勇気がもらえるから。子育ては失敗しながら子どもと一緒に成長して言ってもいい事を言ってもらえたらのりこえられると思うから。
- 学校には特に期待はしていません。たまに、良い担任の先生にあたったら奇跡だと思っています。教員の道徳性の向上を望みます。
- 両親とも仕事をしていると、子どもと関わり色々教えるべきものが、教え切れていない現実があります。実際1日の中での大半を学校で過ごすので、どうしても学校に頼る部分が大きいです。色々なアドバイスをいただきながら、親子とも成長できるような機会があればありがたいと思います。
- 問25は非常に回答しにくかったです。
- 昔とは違い、気軽に身近な人に協力が得られない中、子育て、教育するには大変な感じがします。特に子どもに発達に遅れがあると周りからの理解も得られなく子育てしている親にはとても窮屈な感じがします。もっとオープンで気軽に理解してくれる、安心できる窓口だったりコミュニケーションが分かりやすくあると子育て、教育がしやすいと思います。
- 学校中心で取り組んでいただきたいと思う事が多いのは子ども達は、先生の言う事ならすなおに聞くと思うからです。

- 青森県は子どもに対する情報がまとまっておらず、どこに問い合わせたら良いか戸惑います。県で公式アプリを製作してはどうでしょうか？
- 自分が子どもの時にも親は同じ様に悩みながら育ててくれたのかと日々考えています。大人になり改めて親に感謝しています。自分の子どもも大人になって自分と同じ様な感情を抱けるようにと子育て頑張っています。なかなか思う様にいかないことが多いですが…。
- 共働きで、いくら良い講座・研修会があっても平日開催だと参加したくても出来ず、情報も学校からのものしかありません。コロナウィルス感染防止で学校行事も中止しているので親同士の交流もできず、子どもの友人交流がわからず不安です。ただ、幅広くいろんな方の環境に合わせて多様性をもってやっていただくとありがたいです。（←一番難しいとは理解しています）
- 子どもが赤ちゃんだった時に講座（ヒロロにて）参加した事がありました。2時間位、とても参考になり、ためになるお話を聞くことができました。今もって、その事を頭において子どもと接しています。なかなか難しいものです。そうしようと思ってやればやる程できなくなる事もあります。そこで思った事は、完璧である必要がないという事。みんな同じであるわけもなく。そう思ってからきばるのをやめました。そしたら気が楽になり、そこまで子育てに苦勞を感じなくなりました。大変は大変ですがこういうのに参加したおかげで感じる事ができたことです。いっぱい発信して下さい。
- 夏休みの時にドリルの代わりにeライブラリが宿題としてでました。タブレット上で書き込みもできないし、動画での解説もなく、小学生向きではあまりないような気がしました。費用もあると思います。コロナに対応するため行動は早かったと思いますが、小学生が一人、タブレットやPCで勉強するには誘惑がありすぎて教材を生かしきれていないのが残念でした。多数この意見がありました。
- 家庭教育は家族がいかに幸せになるかですね。子どもは3才までが家庭教育だと思っています。
- 子どもの教育に関わりたくない親はごくわずか。家庭の経済のために働くことを第一義にしている親が多いと思う。「学び」はあと。働く場での教育に関するコミュニティ作りや企業での研修会の開催や、多様なコミュニティ研修を行うなど、親へのアプローチを考えることが必要。これと並行し「学び」について子どもへの教育の場で取組む新たな仕組みが必要だと思う。
- 教育費の無償化(他の市町村のように)スクールバスの運行(休校時、部活動の時など)。
- 学校・地域を主体とする項目が多いが、そういうものに参加できない子や親への支援も考えて欲しい。学校の先生は小さなからかいもいじめだと認識して、からかいに強くなる人作りではなく、からかいのない世界を作って欲しい。
- 家にいて参加できる研修会がもっとあるといい。
- 平日・休日に関してですが、現在では平日に休みだったり休日に勤務している業種は多くあると思います。平日・休日の分け方は悩みます。
- いつも個人を特定する内容が多くて気分が悪い。
- 本当に悩んでいる方には、研修会、講座などではなく、今すぐ手を差し伸べる必要があると思います。本来、そのような会に参加できる人は、時間的にも精神的にも余裕がある方だと思います。病氣・障害・引きこもりなど、助けを求めている方にダイレクトに支援をお願いします。ムダな研修会が多すぎると感じます。様々な家庭事情があると思いますが、子どもを第一に考えた支援を望みます。子どもの基礎は家庭で育ちます。
- これからタブレットなどを使ったオンライン教育も多くなると思うのですが、光回線が家までこなかったりするので（今でも電話回線）、環境を整えてほしいです。パソコンが必要なら補助を出すとか。
- 子育て中は時間がないと思います。共働きでなければ経済的にも厳しいと思いますし、支援するからと研修会等があっても、その時間に少しでも家の仕事を片付けたいと思うのが正直なところです。外へ出るにしても子どもを預けて行くなれば行けないと思います。
- 周囲に子どもがいない為休みの時は一人でいる事が多い。家も少なく、交流のない為、一人になっている時、不安になってしまいます。
- 対人関係の事件ニュースを見ると、どの年代の犯人も幼少期の愛情不足が影響しているのかなーと感ずることがよくあります。大人になると、時間に追われて子育て、仕事をしていますし、大人の余計なプライドもじゃまして、子どもへの愛情が足らず、その子が成長し、親となり、…と悪い歯車が回ってしまっていることも少なくないと思います。時間的、経済的、心身が充実して、子どもに関われるよう、うわべではなく根っこからの対策が必要です。下っ端がどーこー言っても意味がないので、上層の皆さん、時代変化とともに考えることも沢山。がんばって下さい。

- 子どもが不登校になった場合の相談先や支援の場を、地域ごとにわかりやすくしてほしい。
- 子育てをされていて感じる事は、自治体によって経済的支援が違いすぎる事。子を持つ親として、負担を感じる毎日です。県として、本当に子育てに必要な支援は何か、考えて欲しいです。子どもを健康に育てたいと思っても病院に行くお金がない、薬を買えない、お金の為に仕事に行くから病気の子どもを家においてきた・・・そんな話を聞くと、これでいいのか？と思います。中学校や高校の子どもを持つ親もそうです。私が暮らす市では中学卒業すると手当はなくなり、中学では半額・・・子育ては高校まで続いています。大きくなる程お金はかかるのに、これでいいのでしょうか？
- すべては自分。人のせいにしない。
- アンケートの内容が理解しづらい。もう少しわかりやすい方が良いと思います。
- 私自身、4人の子どもを育てていますが、その年代によって親の考え方が違うのでどのように対応していけばよいかわからない事だらけです。いろいろな所から子育ての情報を得る事はできますが、いろいろ実践してみてもなかなか思い通りにはなりません。自分に都合の良い情報だけ取り込んでいる感じです。
- 問25については、どこでというより、どこでもできるのが良いと思います。特にCに関してはできる家庭、できない家庭もあると思うので。
- 教育支援の中に将来の仕事について考えるテーマ等も支援してほしいです。どんな仕事か、どんな資格か、今の子どもはあまりにも無知です。(私も含め) たくさんの可能性を知り、小5、中2という大切な時に学ぶべきと思っています。同じく親も学ぶ機会がほしいと思っています。
- 親の仕事が忙しく、子どもと接する時間が少ない。会社もなかなか休めないなどでしつけ、言葉遣いなど細かく教えたいが粗末になってるかもしれない。
- 家庭で出来る事は、日頃教えていくが他は学校でも協力してほしいと思う。
- 基本的な生活習慣や他者へのおもいやりなどは家庭で行うことが理想だと思います。しかし、現在の世の中は多様で家庭も同様なので、親・子ども・学校などが子どもの未来のために様々な選択肢があり、それを皆が認められる世の中になればいいなと感じています。
- 就学前や小学校までは、発達障害など相談できる所があるが、中学生になると気軽に相談する所がない、というか、わからない。特にグレーゾーンだと支援も相談しにくく、家庭で自分が試行錯誤するが、子どもとぶつかる。お互いにストレスがたまる。
- 私は発達障害の子どもと関わる職場で働いています。主に2歳～6歳のお子さんの支援を担当させてもらっています。その中で多くのお母さんが子育てに悩んで、相談できずにいる様子を間近で見えています。よく相談されるのが「どう関わってよいかわからない」「解ってはいても厳しく言ってしまったら、怒ってしまう」とのことでした。弘大の子どものこころ発達研究センターのペアレント・プログラム等、活用していただければいいなあと個人で思っています。
- 問25.N性教育については、専門知識(医学的なこと)なども含め、命の大切さを親子で学ぶ機会が必要じゃないかと思う。
- 地区の高齢化率の高まりに加え、地域の方々と結びつための施設(公民館等)がない。子育て中の家庭とは結びつく機会はあるが、子育てを終えた先輩方から話を聞く機会があったら良いと思う。
- 人それぞれ性格が違うため、「その子」に合った環境で、理解力がある子たちに教えてもらったり、アドバイスをもらったり、親の体験や経験も全て子育てには必要な情報だと思っています。
- この1年間はコロナの影響により、学校や他の保護者とのかかわりや、研修会の参加などがあまりできなかったのも、これからも続く可能性を考えながらも情報を得る方法を考えていきたいと思っています。来年は受験があるので、勉強方法や高校選択や塾の情報などの情報や支援が一番必要だと感じています。
- 小さい子を中心にした質問内容だったので、答えにくかった所がありました。
- 子育ての基本は家庭にあると考えて実行しています。どの間も基本は家庭にあると思う。育った環境によって、人はできると思います。ただ、勉強に関しては学校が頼りなので、学校へ通えるようにすることが大切と思ってやっています。
- ・タブレットを各家庭へ。・教育格差をなくして下さい、疲れました。・学校の教員の質を上げて下さい。
- 子育てはその人、その家によってそれぞれだし、今と昔とでは色々感じ方や考え方も違うので、アンケートを記入したからといって何が変わるのでしょうか？

- 親の教育の方が先だと思う。
- 平均化されたデータに基づいて家庭教育の充実を支援するよりも、学校側が家庭教育が不足していると思う生徒の家庭に対して、個別に支援する体制を県が整備するほうがいいと思います。一般的に、このような家庭は公募での講習や研修には参加しないし、そもそも家庭教育の必要性を理解していないと思うからです。家庭教育の支援を自ら必要としている家庭へのケアもまた、個別に行われる体制を整備すればよく、税金を投入してこのようなアンケートをとる意義が不明です。現状の説明もなくただ充実に役立てるという記載だけでは、今何もしていないのか？と逆に疑問です。
- 今の子には自由が足りないと思います。
- 経済的な余裕がなければ体験できない事は多い。(習い事等)親が付き合える時間がないと、変な人も多いから自由な遊びをする事もむずかしい。車も多くていつも危ない。でも車をもたないとどこ行くのも不便。生まれた時から「アレもダメ！コレもダメ！」近所で何もできない。公園でボール遊びも自転車に乗る事も。めんどくせー。結局お金を多くもってる家がベースで支援はできている。変だ。だから我慢しつづける。
- ほとんどが家庭内で覚ぶ事があたりまえなのですが、保護者の中にも色々ありますので、子どもを一番長く見ている学校が全てわかっていると思います。やはり学校に行って他の子どもを見るのが一番自分の子どもと比べられて分かりやすいと思いますので、保護者は学校へ行く機会があれば見て感じられると思いますので・・・。そういった機会を作るのが一番いいと思います。部活動も見られるのもいいと思います。
- 県内でも不登校に対応するサポートが市町村によって大きく異なる。年々不登校の子ども達が増えていくなかで、県全体としての積極的な取り組みがあればと期待しています。子ども本人のサポートはもちろん、先生方や親への支援も重要だと感じています。
- 問25で「家庭・学校・地域のどこで・・・」とありましたが、そもそもA～Nまでもどこが受け持って育てるという考えでは、子ども1人ひとりの個性などもあり、むずかしいと思う。学校はどうしても指導要領の内でもやりくりしないといけないので、スキルの面をフォローしていき、子ども1人ひとりに対して生き方や身に付けたスキルの活用方法は、家庭や地域がフォローしていくのがいいのではと思っています。
- おとし、関東から引っ越してきて、ここに慣れるのに親の私が半年以上かかりました。子どもたちの方が慣れるのが早く、その焦りもあり、悩んでおりました。でも、そんな時に学校が私の相談にも乗ってくれて、今は新しいことにも取り組める様になりました。気軽に相談できる場所も必要ですが、より身近な場所に相談できる方が近くにいてくれる事によって安心するのではないかと思います。
- 問25に関して、できれば家庭で伝えていきたい内容がほとんどですが、学校またはその他の場所でないとならない事が年齢と共に増えてくると思いますので、そのような場所があると大変嬉しく思います。
- 父母共に仕事をもっているのに、家庭のことをするのはいつも母の方だけ。父は土・月が休日でもゴロゴロしている。母は土曜仕事の事もあるのに。なのに、子育て、家事をするのは母の方だと言われ、女は今も昔も苦勞が男の2倍だ。この発想の意識改革をしてほしい。子どもになにかあっても父は仕事を休まず、母が休む。休むことによって母の職場では“女は仕事を軽んじている”と言われ、結局、女は偉くなることもできない。子どもを育てることは尊い時間であるのに、このような父を持つことにより、負の思い出ばかり思い出し、女の方にとっては楽しいことが思い出せないくらいになる。女性ばかり損している子育ての現状をなんとかしてほしい。そこまで言うなら離婚すればよいのだが、教育費を女だけで準備することはできないので、結局我慢して生活しなくてはならない。
- 自分の子どもは大丈夫ですが、不登校の子どもが多いです。私がかぎりでは学校生活(いじめなど)が原因では無い子どもも多いです。なので、全て学校にまかせる事はしないで、家庭でと思っていますが具体的にどうしたらいいのか分かりません。
- 問25の質問はわけれる物ではありません。3つ共に協力して子どもを育てていくべきでは??
- 高校受験を控え、進学先の情報(学費、学校のセールスポイントなど)を知り得るか不安。暮らしている市内に普通科のある公立高校が少ないと思う。15歳で将来の夢がかたまっている子は少ないだろうし、成績の良い子でないと市内の普通科に入学出来ない印象。もっと学力的に低い子でも公立の普通科に入れるよう検討してほしい。
- 家庭で色々教えるべきだと思うが自分自身にも教えるほどの知識がない為どう伝えていいのか分からない。自分ができていないので教えられない。
- 経済的支援をして欲しい。

- 地域全体で子育てを支援するのは無理だと思う。昔と違ってほとんど近所付き合いもなく（住む地域にもよるが）自分の子どもさえ良ければよその子どもはどうでもいいと思っている人が多すぎると思う。
- 問25での地域が中心でという所に○をつけたところは、私的には社会での経験によって身につけて欲しい気持ちです。とくに地域でこの項目にあることを学ぶための講座があればいいということではありません。
- 問25はとても疑問が残ります。各項目につき一つしか選べないのは違う気がします。これだつてBは地域を選びましたが、そこがきっかけで家族で教えていかなければならない事だと思うので2つの場が必要。そういうものがいくつも項目がありました。地域の人との交流でいろいろな世代の人との交流で豊かな心を育み、自分の自信をつけ感謝し感謝されることに喜びを得てほしいと思います。が、年を重ねると受験もありそのような時間をとることが難しくなります。気軽に参加できる場所、機会があればいい。
- 自由記載がなかったので正しい回答ではない部分もありました。誘導になる質問もあったので見直した方がいいと思います。（問20. 時間が無い。一回だけの開催で時間が合わないと思われる。）
- SNSなどの注意点を充実させてほしいです。
- 平日と休日の捉え方について。土日が休みではない親は子どもが学校に行っている日が休みであれば、アンケートの回答に意味があるように思えません。小学5年と中学2年というアンケートも、そろそろ一人又は兄弟で留守番できる年代になってくるので、もっと低学年で実施した方が違ったものが見えてくるのではないかと思います。
- 共働きなので朝と夕食は必ず一緒に食事をとりながら学校や友達のことを話し、聞くようにするしか時間がありません。私の方にもう少し時間に余裕があればいいのにと感じています。
- 今の子どもは職業やなりたい自分というものに対して、意識が薄いと感じます。時代が変わり職業感も大きく変わっていると思うので、時代のニーズor大人になった時に必要となるであろう知識や技術が何なのかをレトリカルに考えたり体験したりする場があればと思います。（学校や行政のもと）
- 「子育て」の定義があいまい。何を「子育て」とするかで選択が変わってくる設問があった。（一緒にいること？養育すること？指導？会話は子育て？食事を作る時間は子育て？・・・）
- 子育て支援というと赤ちゃん～小学生対象が多い印象。思春期、中高生向けの体験、交流ができる講座や研修会が増えると助かる。
- 過保護、過干渉の親が増えてきているように思うので、学校の先生がもっと強く意見を言える学校になってもらいたいです。父兄に遠慮せず、ルールはルールときっぱりと言える学校を望みます。
- 地域でできたらいいなと思うことはたくさんありますが、私は、地域とのかかわりがないので家庭か学校と考えてしまいますが、地域で子どもを育てられたらいいなと思います。子どもが不登校です。いいアドバイスをくれる人がいてほしいです。
- 上記の問25に関しては、○は記入したもののよく考えたら全部に丸をつけるべきと思う。どこでじゃなく全部で連携して身に付けさせるべきものと思う。
- 問25、どこで身に付けさせる・・・を一つにするのは難しいかも。協力し合うことが大切かなと思った。地域とのつながりもこども会があったり、ラジオ体操がある地区はいいなと感じる。この辺はなかったので・・・。
- 子どもの特性や自身の悩みは年々多様化しているので、家庭、学校では対応しきれないことをバックアップしていただける機関が今後充実できると親や教師も負担が減るのではないかと思います。
- 「こうではなければならない」と思われるアンケートでした。特に問25。こういうことが型にはめてしまう考え方を親にも押し付けるのでは？私は苦しくてしょうがなかった。本当に支援したいと考えているのであれば“大きなもの”から変えていかないと。大人のイジメ、経済、格差etc、情報を動かしているのは大人で、それに動かされてるのも大人で。今の子ども達は賢く生き延びていますよ。大人より確実に。
- 親も子どもも、支援の必要を感じた時に、対応してくれる機関がどこにあるのか等を知らせてほしいです。
- 非課税やひとり親への支援がまったくもっておろそか。進学などにかかる費用を県独自で無料にするとか、いろいろと住みやすく他県からも移住しやすい学校教育を。学力に貧困の差が無い様に。

- 今の親は学校にたよりにすぎだと思ふ！親がしっかりして、子どもにしつけなどするべき。学校は勉強・友達関係など社会的なことを学ぶ場所だと思います。
- 個々に家庭の事情もあるのに世帯年収でみられてもこまる。今は何をするのにもお金が必要。参加費は無料とはいっても行くまでの準備費、交通費などかかるので結局、参加できない。稼がなくてはいけないので時間もありません。
- 学校が終わってからの活動。部活についての親が見守りするなどは大変だと思います。
- 悩んでいる人、助けたい行政がうまくつながっていない感じが周囲からも分かる。そもそも家庭学習、しつけの必要性、重要性を理解していない人がとても多く感じる。孫かて教室のように、親になる教室を開く意義は十分あると思う。地域、行政で初子の育児やしつけにたずさわられるしくみを作れば、根はまじめな日本人、ええかっこしいな人はとびつく。ロールモデルを若者親向けに提示すると良い。
- せっかくスクールカウンセラーというシステムがあるので、もっと気軽に受けられる様になると良いと思います。（子どもがカウンセリングに対して抵抗があった様なので）
- 基本的に各家庭に生活習慣、モラル、マナーの教育があると思うかが家庭毎に温度差があると感じる。親に対してアプローチが必要にも感じる。主体性を勘違いして、我ままになっている様にも思う。制す親が悪のイメージが強いという、動きづらさの軽減が必要ではないのか…基本家庭！連携で学校、地域のスタンスが必要でそのための企画があるといいのかとも思う。
- 学習の仕方やしつけのあり方は、自分が子どもの頃にされてきた事、してもらった事をどうしても基本に考えてしまう所があるため、今の子ども達には通じない事があり悩む事があります。（今の子ども達はネットやゲーム世代なので簡単に考えすぎたり、人の気持ちに鈍感？な所があるなと思います）
- ありきたりな講座など、ネットなどで情報をえられる今、必要を感じない。塾へ行かなくても、わからないところを教えてくれる（無料）地域の方がいたらいいのになと思います。勉強の支援が、子ども本人の為にも必要だと思います。少しでも点数上がるとうれしいようですし、やる気もですし…キャリア教育が第1ですね。
- 自分の悩みは、信用できる方にしか話せません。解決方向に苦しむ事も多いので、相談ができる環境があればいいのにな…と思っていますが、その知識が私に無いだけかもしれません。
- 家庭で頑張っているけども教員の行動、暴言により、不登校になっております。何度話しても気持ちが伝わっているように思えません。不登校になると行く高校はないので覚悟してくださいと2度言われました。校長から謝罪があったものの、本人からの言葉はありません。その教員たちは今も普通に先生をしている。
- 家庭で身につかないことも集団の中で身につくこともあり、ここがメインとは決められない。今の社会では、人をみたら気を付けるとか言われ近所の子どもとも気軽に気軽に声をかけづらかったり、むずかしい世の中です。障害の診断を受けたら社会資源の活用などパンフだけでなくレクチャーする機会がほしかった。
- 教育面での経済的負担が大きすぎ!!その家庭の状況をきちんと把握した上で、援助すべきである。書類だけ目を通して、全て分かるわけがない!家庭の声をもっと聞くべきだ!!
- お子さんが“なぜ失敗をしでかすのか?”を具体的にご講話できる専門家の方が県外にたくさんいらっしゃるの、県内の講師もいいですが、まっとうに臨床・療育している方の研修を拝聴してみたいです。
- 家庭・学校・地域の相互理解と連携が必須だと思います。
- 悩みに応じて相談できる又は、相談の窓口を教えてください。
- 悩んだ時に相談先がわからなかった。学校？病院？
- 色々答えましたが、今回のアンケートで答えたものは時と場合によると思うし、何とも言えないと思いました。全て家庭中心といえば家庭中心だし、学校での集団生活の方が身につつきやすいのかな、とも思うし、地域と関わった方が学べるのかもれないとも思うし、難しかったです。
- 問17②のような研修会や講座の案内を学校から持ってきて申込みが、大体、定員10名以内であったりすることが多く、申込んでもなかなか当たらず機会に恵まれません。年1回でなく、年4回など開催して欲しいです。
- 「お金」に対する教育の項目が全くありません。生きること、働くこと、お金を稼ぐことは繋がっています。この3つが弱いことが、青森県の貧困に繋がっているのではないのでしょうか？
- オンライン教育に対応したネット環境（各家庭に対して）の充実をお願いしたいです。

- 家庭環境や経済的な理由で子どもの学びの機会がなくなるようなことがないような支援が欲しいです。
- 一人親世帯にしてみれば、不公平感ばかりを感じています。こんなアンケートなんて、何の意味もないと感じます。同じ立場になった事がない人達の言葉なんて意味がない。所詮、役所の方々は恵まれているので、貧しい生活の人の気持なんてわからないと思う。
- 問24の質問の意味がよくわかりませんでした。
- 子どもは親を見て育ちます。その親の社会的モラルが正しくされていないように感じます。子どもの教育と共に親の考え方や生活も正しく教育しなければいけない気がします。
- 私は母子家庭で育てている為、これからの子どもの将来の為に様々な経験をさせてあげたいとは思っていますが、実際のところは、金銭的な余裕が全くなく、そのような経験をさせてあげられません。何よりも、経済的支援が私達母子家庭には非常に有り難いです。母子家庭世帯には、講座や研修会に参加する時間の余裕は正直ないと思います。
- 経済的な支援。大学卒業までの平等な待遇。通学までの交通の便（スクールバス等を活用すればよいのではないのでしょうか）。思いつきの無駄な施策はしないで欲しい。30年もたないシステムは金と労力の浪費にしかならない。下手に地域のサークルやセンター、研修会を作ったり開催するのは負担なのでやめて下さい。
- 勉強がすごくできる子、運動がすごくできる子、色々な子どもがいていいと思う。子育てにこうしなさいなどいらない。同じ様な子育てしてもその子の為になるかわからない。親は支えてあげるだけでいいと思う。学校の先生は授業をすすめなきゃダメだからわからない子どもがいても教えてくれる事はない。塾や家庭教師をやるだけのお金がある人達がいいが、お金がない底辺の人達に無料の寺小屋的な支援があると助かると思います。
- 学習用タブレット端末配布を急いで欲しい。
- 家庭教育とは違うかもしれませんが、子どもにもわかりやすいように社会保障の仕組みを教えてください。社保、国保、年金、障害年金、医療保険などについて。
- 地域で子育てできるのが理想だと感じています。迷惑をかけてはいけなくて教える事が正しさとは思っていません。「お互い様」、「許す事」を学校教育でも広めて欲しいです。
- 不登校の子ども教育の遅れを少しでも減らすための施設など、もっとあってほしいと思います。学校に通えないプラスアルファで勉強の遅れや進路の悩みなど、施設がないため、どんどんストレス？不安が大きくなります。
- 長女（現在）高校生、中2男子ですが、子どもの態度にどのように対応すれば良いのか、戸惑い、自分にイライラして、自己嫌悪におちいることがあります。どのように対処すればよいかわからない。「お悩み相談室」の記事などがあれば読んでみたい。
- いじめについては、いじめられた子だけではなく、いじめた子もカウンセリングを勧めるべきだと思います。いじめられた子が転校して、いじめた子が学校に残って学校に普通に笑って通学しているのも、矛盾があると思います。
- 家庭教育支援とは別の話だが、通学の安全向上の為にも防犯カメラは積極的に設置すべきと考えている。
- 今の親は何でもかんでも“学校まかせ”の人が非常に多いと感じる。学校に頼りすぎるあまり、学校に対するクレームも非常に多い。それを目にしていない子どもも同じ様な行動をとり、悪循環である。もっと“親教育”が必要だと思う。そのための支援をして欲しい。
- お金についての教育が、日本ではまだまだ支援が足りないと思います。例えば、税金、国民保険、介護保険etc大人になって生活していく為に必要な経費や有益な使い方、詐取に合わない情報など義務教育の中で取り入れた方が日本の将来が発展していくと思います。義務教育をきれいな事で済ませないで欲しいです。いじめは大人も（政治家も）しています。子どもに無くせと言うのは無理です。大人になっていじめられても対処できる力を見につける事も大事だと思います。
- 問9については、複数回答にしてもよいのでは。（一つにしぼれなかったの）。問10「ふれあう」こと具体例があった方がよい。
- 家庭教育支援は必要ないと思う。
- 離婚すると元夫は養育費を1円も払わないで平気で暮らしている。そしてそれが通ってしまっているこの世の中。1日でも早く、日本・県・町のルールが変わって欲しい。明日にでも変わって欲しい。

- 問25の質問ですが、どこで身につけさせるというのに違和感がありました。基本は家庭でとは思っていますが、どこが中心でというよりは、それぞれで補っていければいいのではと感じました。
- 自主性、自制心、自立心は家族だとお互いに甘えてしまうのではないかと思います、あえて家族より外の団体生活の中で身に付けた方がよいのではないかと思います。（色々な取り組みや考え方を知りたいと思う親もいると思います）日本人は特に性教育に関して遅れていると思います。外国での性教育の状況を親が知る機会が欲しいと思います。
- 質問の仕方がわかりづらい。選ぶのが多すぎる。読むのが大変だった。時間をもったいない。
- 上記問25に関して“主に”という認識で回答しています。全てにおいて家庭での関わりは必須と考えます。また全ての項目に関して3者で補完できれば良いのではないかと思います。
- 子育てが地域で出来るように、家庭教育が受けやすい環境に、未来を担う子ども達を育てやすい環境を、支援を、地域に学校を<小学校・高校>。
- 性教育を単体ではなく、命の尊さの教育とあわせて、小中学校で行うのが良いと思う。誰もが両親そろっていて弟や妹がいるわけではないので、できれば社会見学に産院や0歳児保育など、大人（親）と赤ちゃんがいればよいと思う。同年代と先生、という講話よりは、生きている現実性が必要かもしれない。と思う。ひとり親が多く、ひとりっことも多いので（昔と比べて）、親や家庭環境に配慮した接し方が必要。授業の内容に差別的な発言がないようにしてほしい。
- あまり意味の無い内容ばかり。似かよった質問ばかり。建設的でもない。もっと踏み込んだ内容でも良いと思う（例えば虐待やいじめ、先生からの言葉の暴力などの質問）。
- 子どもと親だけではなく、義父・義母への家庭教育も必要かと思う。親的にやってほしくない事が多々ある。
- 親も子どもと一緒に成長させてもらってます。まだまだ勉強不足で苦しむ事もあります。きっと悩み苦しんでいる親も沢山おられると思います。少しでも悩みを聞いてあげたいです。

【本アンケートについての意見】

- こういうくだらないアンケートはやめてほしい。書いてる時間がないし、聞いても何もしないですよ？講座とかそんなのいらないです。もっとみんなが求めている支援の仕方があるでしょう。
- このアンケートで色々考えさせられました。良い機会だったと思います。実際我が子にはこうなってほしいという願望はありますが家庭の中で伝えるのも限度も有り、しかし、学校でも同じ様に限度が有り、どちらでも難しいと思います。だからと言って地域にお願いをしても良いものか？という気持ちも有ります。親として色々考えてしまいました。
- このアンケートの必要性が分かりません。
- このようなアンケートで何が変わるのでしょうか。
- このようなアンケートを行ったことにより、親として子どもに対する接し方、考え方等、日々の忙しい生活の中で薄れていたことを気付かされました。大変ありがとうございます。今後ともこのようなアンケートや、情報発信を続けていただけたら、子ども、親、共に良い環境を保ち、社会でも適応できる人間に育っていくのではないかと思います。
- このアンケートを通して、全体的の結果と今後実行していくのかが知りたい。今後に生かされないのなら、アンケートの意味が無いと思う。
- アンケートをとっても何も生かされていないと思う。各家庭の状況があるので全てのニーズに対応出来ないと思う。支援を受けたいと思うが親が足を運び、状況を説明しても対応は良くない。聞くだけで何もしない。結果、誰も何も言いたくなくなる。自分で解決していくしかない。
- 申し訳ありませんが、このアンケートの意図がわかりません。家庭教育支援というものがいつ、どこで、どのような形でとられているのかわからないためかもしれません。小学生で学校に毎日ほぼ8時間というのは長すぎるように感じます。そしてその間は学校のきまりの中ですごさなければなりません。家庭教育は学校へはとどきません。
- アンケート結果をとるだけでなく、十分に活用されるようお願いします。子どもですが、大人（親、地域の人）のモラル等も今問われていることも多いと思います。実際に教育が必要なのは、研修や講座をひらいても、興味もない参加もしない大人の方だと思います。（興味をもって参加や本や他人との関わりで学んでいるかたは頑張っていますので…）

- このようなアンケートを何度か書いてますが、何も良くなってないと感じます。
- まず、こんなアンケートは必要ないし、子育て支援、お金、収入など何も変わらないのに、アンケートばかりで、まず大人がなってないのに子どもの教育？まず大人です。アンケートするならしっかり変化を見せて下さい。まず大人が子どもみたいだし、自分がかってな考えで何もしない男性が多く女性の方がかわいそうだ。収入が低いから無理してでも働くしかない。それも青森県は変える必要がある。
- 家庭教育支援、このアンケートの意図が分かりません。アンケートをとった所で何が変わるというのでしょうか。結局、母子家庭にはいろいろと難しい問題がたくさんあり、子どもを優先すれば子どもという時間が少なくなります。家庭での教育をもっとがんばれと言う事なのですか？ふれあうってどの程度ですか？このようなアンケートってすごく悩みます。
- このアンケート自体、不快でした。何が聞きたいの分かりません。家庭環境は人それぞれなので答えられる気がしません。講座や研修会で教えてくれる内容だけでは子育てできません。参考にはできてもうちの子には当てはまりません。自分なりに考えながら子育てしているつもりなので、他人に話すつもりもありません。これからも親しい友人や相談できる方に相談していきたいと思っています。問25 特に意味不明。
- アンケートする意味が分からなかった。子育てはライフサイクルの一部であり、子どものことを日々見て必要なことについて、その都度考え、行動するしかないと思う。情報も得たい時に、探すし、問25の教育項目についても、大概是、幼い頃からの家庭（家族）で身につくのではないかと思う。負担についても、経済的にどうにかしようとせば仕事し、肉体的にも負担がかかる。何もかも、考えることではあるけど、そう身構えることでもなく、こういったアンケート自体が中々のストレスだと感じました。
- 画一的なアンケートで基礎資料を得るのではなく、本当に支援が必要な人に必要な支援ができるような所にお金や労力を使って下さい。
- 各家庭で自由に希望者のみがうければいいと考えます。
- このアンケートで初めてこのようなことを考えさせられました。親は淡々と接してはいけなような気になりました。

(別添)

家庭教育支援の充実のための実態等把握調査

—令和2年度調査—

青森県教育庁生涯学習課

【ご回答にあたって】

本調査は、児童・生徒数をもとに無作為に抽出した県内の小・中学校において、**小学校5年生及び中学校2年生**の保護者を対象に、家庭教育について保護者の意識や支援の状況等に関するアンケート調査を実施し、今後の家庭教育支援の充実に役立てる資料とすることを目的としています。

兄弟・姉妹でご家庭に複数配付された場合は、いずれか一方にご回答ください。

大変お忙しいことは存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

【ご提出のお願い】

お手数ですが、配付された封筒に入れて、**令和3年1月22日(金)**までに学級担任の先生へ提出して下さるようお願いいたします。

【本調査に関するお問合せ先】

青森県教育庁生涯学習課企画振興グループ
〒030-8540 青森市長島1丁目1-1
Tel017-734-9889

本調査の内容は、青森県教育委員会のホームページ(<https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/>)に掲載しています。

本調査の結果は令和3年8月に公表予定です。

本調査は、青森県教育委員会が実施していますが、アンケートの発送・回収等の業務を株式会社サンブラッソ・エイティープイに委託しています。

あなたのことについてお知らせください。

問1 あなたの性別をお知らせください。
①男性 ②女性

問2 あなたの年代をお知らせください。
①20歳代 ②30歳代 ③40歳代
④50歳代 ⑤60歳代以上

問3 お住まいの市町村をお知らせください。

問4 本調査票を持ってきたお子さんの学年をお知らせください。
①小学校5年生 ②中学校2年生

問5 本調査票を持ってきたお子さんからみて、あなたの続柄は何ですか。
①父 ②母 ③祖父 ④祖母 ⑤おじ・おば
⑥その他 具体的に:()

問6 あなたの現在の職業は、大きく分けて、次のどれに当たりますか。
現在結婚している方は、配偶者の職業についてもお答えください。

- ①会社経営者・役員
- ②会社員 (契約社員や派遣社員を含む)、団体職員
- ③公務員
- ④自営業 (農家や個人商店等)、自営業への家族従事者
- ⑤臨時雇用・パート・アルバイト
- ⑥専業主婦 (夫)・働いていない
- ⑦その他

問7 あなたと生計をともにしている家族は、あなたを含めて何人ですか。

問8 あなたと生計をともにしている家族はどなたですか。あなたから見た続柄であてはまる番号をすべて選んでください。

- ①配偶者 ②実父 ③実母 ④義父 ⑤義母
- ⑥兄弟姉妹 ⑦子ども ()人 ⑧その他

問9 あなたの家族の中で、平日や休日に主に子育てに関わっている人は誰ですか。

- 【平日】 ①あなた ②配偶者 ③祖父母、おじ・おば ④その他
- 【休日】 ①あなた ②配偶者 ③祖父母、おじ・おば ④その他

問10 あなたは、平日や休日に子どもとふれあう時間はだいたい何時間ですか。現在結婚している方は、配偶者のふれあう時間についてもお答えください。

- 【平日】 ①1時間未満 ②1～2時間未満 ③2～3時間未満
④3～4時間未満 ⑤4時間以上
- 【休日】 ①1時間未満 ②1～2時間未満 ③2～3時間未満
④3～4時間未満 ⑤4時間以上

問11 本調査票を持ってきたお子さんは、朝食や夕食を誰と一緒に食べる人が多いですか。

- 【朝食】 ①家族全員と ②家族のだれか大人と ③兄弟姉妹だけで
④子どもひとりで ⑤食べない
⑥その他 具体的に:()
- 【夕食】 ①家族全員と ②家族のだれか大人と ③兄弟姉妹だけで
④子どもひとりで ⑤食べない
⑥その他 具体的に:()

子育ての状況についてお知らせください。

問12 あなたは、子育てをしていて、主にどのようなときに良かったと感じますか。(回答は2つまで)

- ①子どもが喜んだ顔を見るとき
- ②子どもと話したり、遊ぶとき
- ③子どもの成長を感じるとき
- ④家族として一体感を感じるとき
- ⑤学校や習い事などで子どもの生き生きとした様子を見たとき
- ⑥子育てを通して親の交流が広がったとき
- ⑦その他 具体的に:()
- ⑧良かったと感じたことはない

問13 あなたは、子育てをしていて、主にどのようなことに負担を感じていますか。(回答は2つまで)

- ①経済的な負担 ②肉体的な負担
- ③精神的な負担 ④親同士のつきあいの負担
- ⑤時間的な余裕がないこと ⑥子育てに関する情報が多すぎること
- ⑦子育てに関する情報が少なすぎること
- ⑧その他 具体的に:()
- ⑨負担は感じていない

問14 あなたは、子育てについて悩みや不安がありますか。
①悩みや不安がある
②悩みや不安はあまりない
③悩みや不安は全くない } 問17へお進みください。

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方にお尋ねします。

問15 あなたは、子育てについて主にどのような悩みや不安を持っていますか。悩みや不安が大きなものから順番に3つまでお答えください。

- ①子どものしつけやマナーのこと ②子どもの健康や発達のこと
- ③子どもの勉強や進学のこと ④子どもの性格や癖のこと
- ⑤子どもの生活の乱れや非行のこと ⑥子どものいじめのこと
- ⑦子どもの友人関係のこと ⑧子どもの教育費のこと
- ⑨子どもの食物の安全性 ⑩子どもの兄弟姉妹の関係
- ⑪子どもの性のこと
- ⑫子どもの気持ちが分からないこと
- ⑬子どもとのコミュニケーションが不足していること
- ⑭子どもの反動的な態度への対応が分からないこと
- ⑮子育てへの家族の協力が得られないこと
- ⑯その他 具体的に:()

※問14で「① 悩みや不安がある」と回答した方にお尋ねします。

問16 あなたは、子育てについて悩みや不安があるときに、主に誰に相談しますか。相談の頻度が多い相手の順番に3つまでお答えください。

- ①配偶者 ②実父 ③実母 ④義父 ⑤義母
- ⑥自分または配偶者の兄弟姉妹
- ⑦自分または配偶者の友人
- ⑧子育てをしている仲間
- ⑨近所の人
- ⑩学校の先生
- ⑪放課後子ども教室・放課後児童クラブの職員
- ⑫子育てサークルやNPOなどの民間団体
- ⑬民生委員・児童委員
- ⑭行政など公的機関
- ⑮インターネットの相談サイト
- ⑯子どもと話し合う
- ⑰その他 具体的に:()
- ⑱相談相手がいない
- ⑲誰に相談していいか分からない
- ⑳相談しない

家庭教育（子育て）についてお知らせください。

問17 あなたは、家庭教育（子育て）についてどのような支援があればよいと思いますか。あればよいと思う順番に2つまでお答えください。

- ①親の役割やしつけの仕方などを学ぶ講座や研修会
- ②子どもとの体験や交流を取り入れた講座や研修会
- ③子どもの家庭での学習習慣を身に付けさせる場や機会
- ④子育て中の親と親しくなれる場や機会
- ⑤地域の人と親しくなれる場や機会
- ⑥身近で気軽に相談できる場や機会
- ⑦家庭訪問し、相談や話し相手になってくれる人
- ⑧家庭教育（子育て）についての情報
- ⑨子どもが安全安心に過ごせる場所
- ⑩子どもを預かってくれる場所
- ⑪地域みんなが子育てする社会環境
- ⑫特になし

問17
【1番目】

問17
【2番目】

問18 あなたは、家庭教育（子育て）に関する講座や研修会などに参加していますか。

- ①よく参加する
- ②時々参加する
- ③あまり参加しない
- ④参加したことがない

問18へお進みください。

問20へお進みください。

問18

※問18で「①よく参加する」「②時々参加する」と回答した方にお尋ねします。

問19 あなたは、家庭教育（子育て）に関する講座や研修会などに参加して、主にどのようなことが良かったですか。良かったと思う順番に2つまでお答えください。

- ①家庭教育の大切さを認識できたこと
- ②しつけの仕方を学ぶことができたこと
- ③子どもの気持ちを理解することができたこと
- ④子育て中の仲間と知り合うことができたこと
- ⑤同じ悩みを抱えている人がいることを知ったこと
- ⑥気分転換を図ることができたこと
- ⑦悩んでいることの解決方法を見出せたこと
- ⑧講師や専門家などが相談に応じてくれたこと
- ⑨その他 具体的に：()
- ⑩良かったと思うことはない

問19
【1番目】

問19
【2番目】

問23 あなたは、家庭教育（子育て）についての情報を誰（何）から得たいと感じていますか。情報を得たい順番にあてはまる番号を2つ選んでください。

- ①家族
- ②友人
- ③近所の人
- ④ポスター・チラシ
- ⑤テレビ・ラジオ
- ⑥新聞
- ⑦雑誌・書籍
- ⑧回覧板・広報紙
- ⑨インターネット・SNS
- ⑩学校
- ⑪講座や研修会
- ⑫子育てサークル
- ⑬子育てサポートセンター
- ⑭情報を得たいと感じていない

問23
【1番目】

問23
【2番目】

問24 子どもを育てるうえで、親の学習に特に大切だと思う内容は何ですか。必要だと思う順番にあてはまる番号を3つ選んでください。

- ①子どもの基本的な生活習慣の定着
- ②子どもの自立心の育て方
- ③子どもとのコミュニケーションのとり方
- ④親としての生き方
- ⑤夫婦に関すること
- ⑥家族に関すること
- ⑦社会的モラル
- ⑧子どもの心身の健康・発達
- ⑨ライフスタイル
- ⑩地域活動
- ⑪子どもの自然体験を充実させる方法
- ⑫子どもの耐性や適応性を育てるための方法
- ⑬性教育
- ⑭男女共同参画
- ⑮いじめ・不登校・ひきこもり
- ⑯子どもの虐待防止
- ⑰子どもの非行
- ⑱発達障害
- ⑲これからの社会を見据えた学び（SDGs、Society5.0など）
- ⑳学習の必要はない

問24
【1番目】

問24
【2番目】

問24
【3番目】

問20 あなたは、家庭教育（子育て）に関する講座や研修会などに参加しやすくするために、どのようなことが重要だと思いますか。重要だと思う順番に2つまでお答えください。

- ①時間が短ければ良い
- ②仕事先で開催されれば良い
- ③興味のある内容だと良い
- ④分かりやすい内容だと良い
- ⑤夜間や休日の開催だと良い
- ⑥無料だと良い
- ⑦身近な場所で開催されると良い
- ⑧講師に相談できれば良い
- ⑨参加者同士が意見交換できると良い
- ⑩インターネットやSNSなどで提供されると良い
- ⑪周知の仕方を工夫すると良い
- ⑫その他 具体的に：()
- ⑬要件が整っても参加しない

問20
【1番目】

問20
【2番目】

問21 家庭教育（子育て）について知りたい情報はどんなことですか。知りたい順番にあてはまる番号を2つまで選んでください。

- ①子どものしつけ
- ②子どもの体の健康・発達
- ③子どもの心の健康・発達
- ④いじめ・不登校・ひきこもり
- ⑤子どもの性
- ⑥子どもへの虐待
- ⑦子どもとのコミュニケーション
- ⑧子どものほめ方・叱り方
- ⑨子どもの携帯電話やインターネットの利用に関すること（ゲームやSNSを含む）
- ⑩講座、研修会に関すること
- ⑪相談窓口
- ⑫子どもや親の交流の場
- ⑬特になし

問21
【1番目】

問21
【2番目】

問22 あなたは、家庭教育（子育て）についての情報を誰（何）から得ていますか。情報を得ることが多い順番にあてはまる番号を2つまで選んでください。

- ①家族
- ②友人
- ③近所の人
- ④ポスター・チラシ
- ⑤テレビ・ラジオ
- ⑥新聞
- ⑦雑誌・書籍
- ⑧回覧板・広報紙
- ⑨インターネット・SNS
- ⑩学校
- ⑪講座や研修会
- ⑫子育てサークル
- ⑬子育てサポートセンター
- ⑭その他 具体的に：()

問22
【1番目】

問22
【2番目】

問25 以下の教育項目について、家庭・学校・地域のどこで身につけさせることがよいと思いますか。あてはまる欄に○を記入してください。（各項目につき1つ）

	家庭が中心で	学校が中心で	地域が中心で
A 基本的な生活習慣（例えば、洗顔、自分で起床、あいさつなど）			
B 生活体験（例えば、タオルをしぼる、小さな子の世話、ナイフの使い方など）			
C 自然体験（例えば、海や川で遊ぶ、自然観察、登山など）			
D 自主性（自分の判断で行動する態度）			
E 自制心（感情・欲望などを自分で抑えること）			
F 自立心（人に頼らず、独り立ちして自力でやっつけようとする心構え）			
G 豊かな情操（美しいものを美しいと感じる心）			
H 他人への思いやり			
I 道徳感			
J 社会的なマナー			
K 正義感			
L 人間関係づくり			
M 職業観			
N 性教育			

アンケート全般を通して、お気づきの点などをお知らせください。

問26 家庭教育支援の在り方について、ご意見がございましたら自由にお書きください。

質問は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。
配付された封筒に入れ、令和3年1月22日までに学級担任の先生へ提出してください。

令和2年度 生涯学習・社会教育総合調査研究事業
家庭教育支援の充実のための実態等把握調査 報告書

発行年月日 令和3年3月

編集・発行 青森県教育庁生涯学習課

〒030-8540 青森市長島一丁目1番1号

TEL 017-734-9889 (内 3138) FAX 017-734-8272

<https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/>

[education/aomorimanabi-e_shogai.html](https://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/aomorimanabi-e_shogai.html)

調査・分析委託先 株式会社サンブラッソ・エイティープイ

〒038-0011 青森市篠田二丁目3番17号

TEL 017-762-7010 FAX 017-762-7011